

I 22年度自己点検評価報告書 総括表

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1) 収蔵品の収集

【中期目標】国との文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機関の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受け入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実を図ること。

【中期計画】

- (1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
- (東京国立博物館)
日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
- (京都国立博物館)
京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
- (奈良国立博物館)
仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
- (九州国立博物館)
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
- (1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

【主な計画上の評価指標】

- 購入、寄贈、寄託の受入により、体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。

【21年度評価における主な指摘事項】

- 購入による収集は、各館の特質を踏まえ、限られた予算内で努力がなされていることを評価する。
- なお、収蔵品の収集については、今後とも質の確保に努めてほしい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
1111	(1)-1 適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していくよう取り計らう。 (東京国立博物館) 日本を中心として広く東洋諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。	(1)-1 適時適切な収集 【東京国立博物館】 ・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品4件（内、重要文化財1件）を購入した。 内訳：書跡1件、刀剣1件（重要文化財）、漆工2件 決算額：291,500,000円	A	順調
1112	(京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。	【京都国立博物館】 ・博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品23件を購入した。 ・購入に際しては、中期目標にもあるとおり、「京都文化」を意識しているが、今年度は京都ゆかりの近世絵画5件、また京都の寺院に伝存する文化財と一連の中国絵画と中国書跡1件のほか、中国書跡1	A	順調

1113	(奈良国立博物館) 仏画、仏像、經典・仏教關係書跡等、仏教工芸、仏教考古資料の中から重点的に購入する。	件、金工13件を購入した。 ・内訳：絵画6件、書跡2件、金工13件、漆工1件、考古1件 ・決算額：359,320,000円 【奈良国立博物館】 購入が7件、寄贈が8件、都合15件の文化財が新たな収蔵品として加わった。うち購入分の内訳は次のとおり。 絵画 紌本著色春日地蔵曼茶羅 1幅 鎌倉時代（14世紀） 絵画 紌本著色千手觀音影向図 1幅 鎌倉時代（13世紀） 彫刻 木造僧形立像 1軀 鎌倉時代（13世紀） 書跡 法華經（建治二年東大寺僧宗性発願経） 8巻 鎌倉時代（建治2年：1276） 工芸 黒漆宝塔 1基 室町時代（16世紀） 考古 三彩小壺（筑前早良郡出土） 1口 奈良時代（8世紀） 瀬戸灰釉櫛目文瓶子 1口 鎌倉時代（13世紀） 購入代金総額は95,575,000円。	A	順調
1114	(九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。	【九州国立博物館】 ・日本とアジア諸国との文化交流の足跡をしめす美術、考古及び歴史資料等の分野の資料を積極的に収集し、あわせて国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき優れた文化財として、31件を購入した。（内、国宝・重要文化財0件） 内訳：絵画4件、書跡5件、陶磁2件、漆工1件、染織13件、歴史資料6件 決算額：1,116,488,000円	A	順調
1121	(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 (4館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用や、相続税の猶予措置の創設を手始めとする税制面での環境整備を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、平常展に必要な文化財11,060件（東京：2,400、京都：5,800、奈良：2,060、九州：800）の寄託品を目標とする。	(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 【東京国立博物館】 ・作品の寄贈は23件であった。うち10件はインドネシアの伝統的な影絵芝居であるワヤン・クリに用いられる人形であり、平成24年度に新装開館予定の東洋館における東洋民族資料の展示を充実させるものである。 ・新規寄託は5件であった。 ・寄託終了は13件である。内、当館へ寄贈となった物が1件、当館で購入した物が1件、所有者に返却した物が11件（内、重文3件）である。寄託者へ返却したもののうち1件（重文）は、国（文化庁）が購入した。 ・その結果、寄託品件数は昨年度より8件減少した。 ・登録美術品については、増減がなかった。 【京都国立博物館】 (寄贈)	A	順調
1122			A	順調

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、寄贈は35件で、寄贈者は8人であった。 <p>内訳：絵画14件 書跡8件 金工4件 漆工4件 染織2件 考古1件 歴史資料2件 (寄託)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の新規寄託は107件。展示館の建て替え工事のため、当面平常展示での活用はできないが、例年通りの数の寄託があり、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。 <p>内訳：絵画50件 書跡23件 金工10件 陶磁11件 漆工6件 染織2件 考古2件 歴史資料3件</p> <p>【奈良国立博物館】 寄贈については、3人の所蔵者から計8件の文化財を受け入れた。 寄託については、新規に6件（うち重要文化財2件）の文化財を受け入れた。</p> <p>【寄贈】 彫刻：木造菩薩立像 1躯 平安時代（11～12世紀） 書跡：公盛書状 1巻 江戸時代（正徳5年：1715） 工芸：鼓胴形花器 北村久齋作 1口 昭和時代 二月堂机 1基 昭和時代 蒔絵乱箱「袖」 北村大通作 1口 昭和時代 俱利迦羅龍蒔絵箱復元模造製作工程手帳 1枚 平成時代 玳瑁螺鈿花形盤 北村昭斎作 1口 平成時代 考古：甕 1口 弥生時代（2世紀）</p> <p>【寄託】 彫刻 3件 書跡 1件 工芸 2件</p> <p>【九州国立博物館】 寄贈4件 (内訳：彫刻1件、染織2件、民族資料1件) 新規寄託50件 (内訳：絵画2件、陶磁48件)</p>	A	順調																														
1124	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価項目</th> <th>22年度</th> <th>21年度</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寄託品件数(件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>2,726</td> <td>2,734</td> <td>2,400</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>6,005</td> <td>5,957</td> <td>5,800</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>1,947</td> <td>1,957</td> <td>2,060</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>1,297</td> <td>1,256</td> <td>800</td> <td>S</td> </tr> </tbody> </table>	定量評価項目	22年度	21年度	目標値	評価	寄託品件数(件)					東京国立博物館	2,726	2,734	2,400	A	京都国立博物館	6,005	5,957	5,800	A	奈良国立博物館	1,947	1,957	2,060	B	九州国立博物館	1,297	1,256	800	S	A	順調
定量評価項目	22年度	21年度	目標値	評価																													
寄託品件数(件)																																	
東京国立博物館	2,726	2,734	2,400	A																													
京都国立博物館	6,005	5,957	5,800	A																													
奈良国立博物館	1,947	1,957	2,060	B																													
九州国立博物館	1,297	1,256	800	S																													

(2) 適切な管理保存

	【中期目標】 収藏品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、貴重な文化財を次代へ継承すること。			
	【中期計画】 (2) 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収藏品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。	【主な計画上の評価指標】 ○展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を計画的に勝速やかに実施すること。 ○保存環境の調査研究等を実施すること。		
		【21年度評価における主な指摘事項】 ○奈良博の展示ケース内の温湿度調査については他館の参考ともなり得ることから、成果を広報・普及することが望まれる。		
	年度計画	主な実績		
		自己評価		
		年度 中期		
1211-1	<p>(2)-1 収藏品の管理・保存 収藏品の適正な管理に努めるとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 東洋館の耐震補強を図るため、改修工事を実施する。</p> <p>2) 本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。</p> <p>3) 列品存在確認作業（棚卸）を継続して計画的に実施する。</p> <p>4) 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進める。</p> <p>5) 収藏品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。</p> <p>6) 収藏品の生物被害を防止するため、統合的有害生物防除管理手法の徹底を図る。</p>	<p>(2) 適切な管理・保存</p> <p>【東京国立博物館】 (処理番号 1211-1, -2 共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋館改修について、平成24年度中の開館に向けて準備を進めており、耐震補強は概ね完了したが、3月の震災の影響により展示ケース取付けに遅れが生じている。 ・耐震補強工事中の東洋館において、工事の進展に伴い、東洋館内に残置していた文化財を2回にわたって東洋館内を移動した。 ・本館地下収蔵庫の前室に、書画調査用の壁およびピクチャーレールを新設した。 ・平成20年度末から始めた、収藏品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。 ・収藏品を移動したものの新しい所在位置情報を、RFID・バーコード等を利用して電子的に記録して管理の万全を図るシステム（文化財移動情報登録システム）の開発も、昨年度から継続して進めている。 ・歴史資料を中心とする旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。 ・収蔵庫及び展示室など366地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。 ・収蔵庫など447地点における生物生息状況を冬季と夏季の2回にわたり得ることから、成果を広報・普及することが望まれる。 	A	順調

1212-1	(京都国立博物館) 1) 平常展示館建替工事を実施する。 2) 平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。 3) 特別展示館（重要文化財 旧帝国京都博物館本館）の耐震調査の結果を基に、地震対策を具体的に検討する。	たり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 ・東洋館耐震工事に合わせた展示室リニューアルを期に展示ケースを使用する免震装置の検討、展示ケースの性能に関する検討を実施した。 【京都国立博物館】 ・平常展示館の建替工事は、平成24年度末完成・25年度開館に向けて進んでいる。 ・平常展示館の建て替えに伴い、同館内収蔵庫から館蔵品、寄託品のすべてを東収蔵庫等にて保管を行った。 ・展示室及び収蔵庫における適正な温湿度管理を行った。 ・特別展示館耐震診断業務の結果を受け、具体的な耐震補強工法等を検討した。 ・半年ごとに実施している寄託品の期間継続にともなう点検を着実に実施した。	A 順調
1213-1	(奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所を円滑に運用するため、文化財の積極的保存を図る。 2) 収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。 3) 西新館及び仏教美術資料研究センターの耐震工事等を完了する。	【奈良国立博物館】 ・展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線 LAN によるリアルタイムの温湿度管理システムの導入し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的数据を以て即時に対応することが可能となっている。 ・西新館耐震工事については展示施設として必要とされる耐震性能を確保するための補強工事を行うとともに、展示環境の向上を意図した展示ケース・内装・照明設備等の更新を行った。また、監視面の強化を図るための監視モニターの更新を行った。仏教美術資料研究センターについては、重要文化財指定の建造物であるため、必要最低限の耐震性を確保するとともに、原状に復しつつも現在の使用意図に照らした新たな平面計画の下、内装改修を行った。 ・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。 ・IPM（総合的有害生物管理）の実践として、収蔵庫周辺や展示室内、調査室の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。	A 順調
1214-1	(九州国立博物館) 1) IPM（総合的有害生物管理）による文化財の生物被害防止を引き続き図る。	【九州国立博物館】 ・収蔵庫・展示室等約 300 カ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、IPM メンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。 ・IPM の実施については、地元 NPO 法人やボランティア活動との連携	A 順調

1211-2	2) 全館的視野にたった陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。 3) 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存を図る。 (2)-2 保存環境の調査研究の実施 保存カルテの作成及び空調稼働時と休止時の変化が文化財の保管状況に与える影響の調査研究を進める。 (4館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを年 1, 100 件（東京：800、京都：100、奈良：100、九州 100）程度作成する。 (東京国立博物館) 1) 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。 2) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。	に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。 ・常設展示室 70 箇所、特別展示室約 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。 ・収蔵庫 30 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。また、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。 ・展示品を中心に X 線 CT スキャナや三次元計測装置、三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立ると共に展示に反映した。 (2)-2 保存環境の調査研究の実施	
1212-2	(京都国立博物館) 1) 特別展示館の環境および当該地域の気象を勘案し、文化財への負荷を減らすことを目的とした空調のミニマムインターバンション（最小限の干渉）運用の向上を図る。 2) 殺虫剤・防虫剤使用の計画的段階的な廃止を進めつつ、有害生物の監視・初期対応・要因除去にあたり、全館的な IPM（総合的有害生物管理）システムの再構築を図る。	【東京国立博物館】 ・本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として合計 2368 件の保存カルテを作成した。 ・収蔵庫、展示室など 171 箇所の温湿度に関し、その状態から 3 段階に環境を分類（クラス I、II、要注意）した平成 22 年次報告書を作成した。 ・列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、国内外合わせの計 2 件（東大寺大仏展における輸送など）の輸送を調査した。 ・文化財の梱包に頻繁に使用される緩衝材が輸送中の振動・衝撃を伝達する際に現れる特性について評価するための実験を行った。今年度は発泡ポリエチレン（サンテックフォーム）について調査した。 【京都国立博物館】 ・館蔵品に係る保存カルテを作成した。 実績 108 件 ・展覧会準備中に適宜巡回して害虫の持込み侵入の防止と清掃の徹底を指導、取りこぼしを拾い、開会時の虫・ゴミゼロを実現した。 ・展覧会中、展示ケース内に入った虫の採取、毛髪等ゴミの除去を開館前に行なった。 ・6 月以降 10 月に及んだ例年ない高温多湿のため、チャタデムシ、ダニ、クモ、シミ、コイガ、カツヲブシムシ、ゴキブリの侵入、徘徊が見られたので以下の措置を講じて駆除した。 (1) 7・8 月の「上田秋成・新収品」展の前に全壁付ケース	A 順調

		<p>床面のクリーンルーム清掃業者による吸引拭取り清掃を行ない、虫、カビ等の除去を図った。</p> <p>(2) 7・8月の「上田秋成・新収品」展会期中、展示ケース内と館内のトラップによる虫の生態調査を業者に依頼して行なった。</p> <p>(3) 7・8月の「上田秋成・新収品」展と10・11月の「高僧と袈裟」展会期中、一部の展示ケース内に予防のための蒸散性殺虫剤ブレードを置いた。</p> <p>(4) 10・11月の「高僧と袈裟」展会期中、ゴキブリの徘徊する箇所にゴキブリ用の誘引トラップとホウ酸剤を置いた。</p> <p>(5) 1・2月の「筆墨精神・園田湖城」展前に、展示ケース内の蒸散性殺虫剤による燻蒸と展示ケース前床面の残効性殺虫剤の塗布を行った。</p> <p>・空調については、高温多湿の状況が続いた7・8月の「上田秋成・新収品」展では湿度を低めに設定し、低温乾燥気象下の1・2月の「筆墨精神・園田湖城」展では、温度を低めに湿度を高めに設定して作品と観覧環境の保全を図った。</p>
1213-2	(奈良国立博物館)	<p>【奈良国立博物館】 (処理番号 1213-1 と共に)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保存カルテについては、昨年度の途中から新たに文化財の個別写真が添付されたフォームで統一し、保存修理指導室で作成・保管する新システムに移行した。本年度から本格的に運用が軌道に乗ったことで、機動的かつ詳細に文化財の損傷状態を把握することが可能になったことに加え、保存カルテの作成件数も飛躍的に増加した。 展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線 LAN によるリアルタイムの温湿度管理システムの導入し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することが可能となっている。 IPM の前提として、館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管および展示にかかる箇所を中心に、防虫トラップを 1 ヶ月に 1 回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。 防虫トラップ設置および無線 LAN 温湿度管理システムによって得られたデータは、西新館の耐震工事および新免震ケース製作に際して、展示室内・展示ケース内の温湿度環境保持や文化財害虫防止対策への重要な指針となった。

	(九州国立博物館)	<p>【九州国立博物館】 (処理番号 1214-1 と共に)</p> <ul style="list-style-type: none"> 修理資料および収蔵資料を中心に保存カルテを作成すると共に、計画的な保存修理事業をすすめた。 常設展示室 70 箇所、特別展示室約 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。 収蔵庫 30 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。また、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。 																															
1214-2		<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>22 年度</th> <th>21 年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保存カルテの作成(件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>2,368</td> <td>1,989</td> <td>800</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>108</td> <td>214</td> <td>100</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>218</td> <td>114</td> <td>100</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>101</td> <td>205</td> <td>100</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>	定量評価	22 年度	21 年度	目標値	評定	保存カルテの作成(件)					東京国立博物館	2,368	1,989	800	S	京都国立博物館	108	214	100	A	奈良国立博物館	218	114	100	S	九州国立博物館	101	205	100	A	
定量評価	22 年度	21 年度	目標値	評定																													
保存カルテの作成(件)																																	
東京国立博物館	2,368	1,989	800	S																													
京都国立博物館	108	214	100	A																													
奈良国立博物館	218	114	100	S																													
九州国立博物館	101	205	100	A																													

(3) 計画的な修理

【中期目標】収蔵品の保存技術の向上に努め、貴重な文化財を次代へ継承すること。

【中期計画】

- (3) 修理、保存処理をする収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。

【主な計画上の評価指標】

- 緊急性の高いものから計画的に修理を実施すること
- 外部の専門家と連携すること
- 科学的な保存技術を取り入れること

【21 年度評価における主な指摘事項】

- 機器分析や画像解析など、自然科学的調査が随所でなされており、その成果の活用を期待する。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	<p>(3)-1 収蔵品の修理 修理、保存処理をする収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4 館共通)</p> <p>1) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから 100 件（東京：70、京都：10、奈良：5、九州 15）程度の本格修理を実施する。</p> <p>(3)-2 科学的な技術を取り入れた修理</p>	(3) 計画的な修理		

1311	<p>伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4館共通)</p> <p>1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p> <p>2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p> <p>(3) -1 (東京国立博物館)</p> <p>1) 引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。</p> <p>2) 保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。（70件程度）</p>	<p>【東京国立博物館】</p> <p>1)修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・未指定合わせて79件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約2000件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じX線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については、絵画13件、書跡3件、陶磁3件について具体的な修理計画の策定を開始し、修理方針案の作成を行った。</p> <p>2)作品の応急（対症）修理を1004件実施。本格修理を139件実施した。</p> <p>3)データベース構築のために21年度に本格修理を実施した106件の内、修理が完了した98件の修理内容についてデジタル化を実施した。21年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書XIを刊行した。</p> <p>4)紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイト・フェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急（対症）修理を本格化させた。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図った。 ・昨年改訂した契約方法等にしたがって、業者選定の公平性、透明性に留意して修理を実施した。 <p>実績 絵画4件、書跡3件、彫刻1件、漆工1件</p> <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵品のうち計8件の本格修理に新規着手し、年度内に4件完了。 内訳 絵画2件（※うち国宝 紙本墨画淡彩山水図 1件は2ヶ年継続事業の第1年度） 書跡1件 漆工1件 考古資料4件（※うち3件は2ヶ年継続事業の第1年度） <p>・前年度に引き続き、当館紀要『庭園雑集』13号（平成23年3月刊行）に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧（平成21年度）」を掲載予定。併せて修理報告資料の整理を進め、将来のデータベース化に備えている。</p>	A	順調
1312	(京都国立博物館)		A	順調
1313	(奈良国立博物館)		S	順調

	<p>2) 寄託品の修理の可能性を検討する。</p> <p>(3) -2</p> <p>1) 木造作品について、可能なものは木材樹種同定の調査を行い、作品の材料の解明および修理指針の検討に役立てる。</p> <p>2) 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長期にわたり展示に活用する寄託品の修理を、今年度から館の修理費を用いて実施することとし、京都・妙法院所蔵の重要文化財 木造千手観音立像（第20号）の修理に着手した。 ・当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品4件について、京都大学生園研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『庭園雑集』第13号に掲載した。 ・館蔵品1件（二塚古墳出土遺物25点）について、平成21～23年度の3ヶ年継続の修復事業として前年度から本格修理に着手しており、本年度は第2年度として実施中。 ・以上、館蔵品修理は合計9件（うち前年度からの継続1件） <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財（本格修理19件、応急修理27件 合計46件）を修理した。 ②加えて九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理23件のため、当館の保存修復諸施設を積極的に活用し、うち6件については現地修理を行った。館費修理とあわせて69件の修理を実施したことになる。 ③修理指針の検討のため、各分野の担当研究員とともに修理経過をみながら検討を重ねた。 ④修理指針の検討のための調査について、紙繊維の分析、絵画彩色の蛍光X線分析や顕微鏡観察による調査、X線、CTスキャナを活用した調査を実施した。 ⑤カビなどの生物被害について、顕微鏡観察や写真撮影などを行った。 ⑥漆風呂、板張り等の修理用備品を新調した。 ⑦修理報告書および修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。 	A	順調
1314	(九州国立博物館)			

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 展示の充実

<p>【中期目標】 展示については、常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。</p> <p>①平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、展示に関する外語説明を一層充実させること。</p> <p>②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。</p> <p>③個々の展覧会において、積極的な広報に努めること。また、過去の入館者等の状況等を踏まえた適切な入館者数の目標を設定し、その達成に努めること。</p>	
---	--

【中期計画】

<p>(1) 展示の充実</p> <p>展示については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを作成するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。</p> <p>①平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に發揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語バナル等を80%以上設置する。</p> <p>②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(東京国立博物館) 年3~4回程度 (京都国立博物館) 年2~3回程度 (奈良国立博物館) 年2~3回程度 (九州国立博物館) 年2~3回程度</p> <p>③個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p> <p>④黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民のニーズや学術的同行を踏まえた質の高いものとすること ○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること(平常展) ○平常展を魅力あるものとし、再来館者を増加させること ○作品のキャプションについては、すべてに外国語訳を付すこと ○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説バナーを80%以上設置すること(特別展) ○我が国の博物館の中心的拠点に相応しい質の高い展示とすること ○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること 東京国立博物館 3~4回 京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館 2~3回 ○個々の展覧会ごとに目標入館者数を定め、それを達成すること ○黒田記念館の所蔵作品を東京国立博物館でも展示公開するなど公開機会を拡大すること <p>【21年度評価における主な指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バナルの設置や、広報の工夫など、地道な活動を行なうとともに、質の高い特別展の開催とともに相まって、500万人を超す過去最大の入館者数を達成したことを高く評価したい。しかし、このときこそ、快適な観覧環境について今後の課題とすべきである。
---	---

を拡大する。		<p>○平常展においても展示替えなどの際は、マスコミなどに働きかけ、平常展にも目を向けさせることに力を注ぐ時期が到来していると考える。今後は、特別展のみならず平常展へ興味関心を促し、平常展への入館者をより増加させるなど、博物館本来の姿を目指すべきである。</p>	
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価
			年度 中期
2111	<p>(1) 展示の充実</p> <p>東京、京都、奈良、九州4館の特色を生かし、再度、国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。</p> <p>① 平常展</p> <p>展覧事業の中核と位置づけ、特集陳列等の充実を図る。また、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、時代背景等をわかりやすく伝えるために展示テーマごとの解説の充実を図り、その外国語訳に努める。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替の実施（年200回程度）</p> <p>イ 陳列総件数 約5,500件（東洋館閉館のため）</p> <p>ウ 本館「日本美術の流れ」をはじめとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の異なる充実を図る。</p> <p>エ 東洋館が耐震改修工事のため閉館となるため、表慶館・本館などにおいて東洋考古・美術の展示を積極的に進める。</p> <p>オ 改修後の東洋館の展示案を検討する。</p> <p>カ 特集陳列</p> <p>22年度は東洋館が改修工事のため通常休館となり、特集陳列を実施する展示場が減少するため特集陳列の数は例年より減らざるをえない。東洋館展示の代替として、本館においても東洋美術・考古の特集展示を実施する。</p> <p>・古墳時代の甲冑・帶金式甲冑の成立と展開－（9月14日～12月12日）</p> <p>・中国書画精華－海を渡ってきた名品たち－（10月19日～12月12日）</p>	<p>(1) 展示の充実</p> <p>① 平常展</p> <p>【東京国立博物館】 (陳列替回数、陳列総件数は別途表示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館、平成館、法隆寺宝物館、表慶館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示を行った。 ・平成23年1月から、「平常展」を「総合文化展」に改称し、「平常展はいつも同じ」というイメージの払拭を図った。 ・11月から12月にかけて本館1階の12～15室を改装した。 ・合わせて、本館1・2階の展示室のコーナー解説バナルを、すべて日・英・中・韓の4言語表記とした。また題額のデザインを改訂した。 ・改修後の東洋館の展示案について、展示室・展示ケースの内装、展示手法、展示台・演示具等について具体的に検討した。 ・「古墳時代の甲冑」「中国書画精華－海を渡ってきた名品たち－」「博物館に初もうで」「海外の日本美術品の修復」「平成22年新指定 国宝・重要文化財」等、53件の特集陳列を行った。 	A 順調

2112	<p>・「博物館に初もうで」(23年1月2日～1月30日)等 キ 東京文化財研究所関係企画 ・海外の日本美術品の修復(5月11日～5月23日) ク 文化庁関係企画 ・「平成22年新指定 国宝・重要文化財」(仮称)(4月27日～5月9日) 平成22年(2010)に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。</p> <p>(京都国立博物館) 平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止せざるをえないが、金沢能楽美術館にて当館収蔵品を開催する(共催、4月17日～5月30日)ほか、博物館美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブページで情報を公開する。</p>	<p>・平成館考古展示室において、埴輪コーナーの解説をデジタルサイネージによる4言語表記とした。 ・震災の影響については、観覧者・展示品・設備等への直接の被害は無かったが、安全確認と社会的諸事情により23年3月12日～28日まで臨時休館した。また、23年3月29日から当分の間(23年4月末まで)開館時間を10時～16時とし、表慶館・法隆寺宝物館を休館して本館・平成館のみ開館した。 【京都国立博物館】 平常展示館建替工事にともない、平常展示は休止した。 そのため下記のように、外へ向かっての収蔵品の公開に努めた。 ・「京都国立博物館所蔵能装束展」(金沢能楽美術館)会期:4月17日～5月30日 ・国内・国外への博物館美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。 ・上記の貸出作品の情報をウェブサイトで公開している。</p>	A ほぼ順調
2113	<p>(奈良国立博物館) ア 活発な収集と新しい資料の発掘により平常展の充実を図る。 ・西新館 考古・絵画・書跡・工芸部門の平常展示 西新館耐震工事のため、正倉院展終了後に開催する。工事完了後は展示ケース・照明など、今回の工事で充実した設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。 ・本館(1～13室) 彫刻部門の平常展示 西新館耐震工事に伴って本館を特別展「大遣唐使展」の会場として使用するため、7月20日まで休止し、7月21日には新規収蔵品を含む、より充実した内容でリニューアルオープンする。同時に照明やキャビションを一新し、快適な鑑賞環境を提供する。 ・本館(14・15室) 中国青銅器の平常展示 本館における「大遣唐使展」会期中および西新館耐震工事中も開催。 ・「注目の逸品」コーナーを設け、観覧者の関心を喚起する。 イ 定期的な陳列替の実施(年850回程度) ウ 陳列総件数 約850件</p>	<p>【奈良国立博物館】 平成22年7月21日、本館の展示室内の照明設備を一新するとともに、「なら仏像館」と新たに命名し、リニューアルを行った。また、併せて平常展の名称を「名品展」とし、年度を通して、なら仏像館における「珠玉の仏像」(彫刻部門)、青銅器館における「中国古代青銅器」(考古部門)を開催し、西新館では「珠玉の仏教美術」(絵画・書跡・工芸・考古部門)を開催した。そのなかには、「国宝を味わう」(12月7日～1月10日、西新館)、「縄文のムラ」(1月18日～2月16日、西新館)、「シルクロードを旅した漢代漆器」(1月18日～2月16日、西新館)の3回の特集展示が含まれている。年度を通して、なら仏像館における名品展「珠玉の仏像」(彫刻部門)、青銅器館における名品展「中国古代青銅器」(考古部門)を開催し、西新館では名品展「珠玉の仏教美術」(絵画・書跡・工芸・考古部門)を開催した。そのなかには、「国宝を味わう」(12月7日～1月10日、西新館)、「縄文のムラ」(1月18日～2月16日、西新館)、「シルクロードを旅した漢代漆器」(1月18日～2月16日、西新館)の3回の特集展示が含まれている。 (陳列替回数、陳列総件数は別途表示)</p>	A 順調

2114	<p>エ 特別陳列により平常展の充実を図る。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「おん祭と春日信仰の美術」(12月4日～23年1月16日) ・「お水取り」(23年2月5日～3月14日) オ 考古資料の相互貸借事業の実施 (九州国立博物館) ア 定期的な陳列替の実施(年300回程度) イ 陳列総件数 約800件 ウ 平常(文化交流)展の部分的なリニューアルによって充実を図る。 ・来館者にとって分かり易い展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 エ トピック展示により、独創的なテーマおよび地域に密着したテーマを掘り下げる(日程はいずれも予定)。 ・「邪馬台国 九州VS近畿」(仮称)(関連3室 23年1月1日～2月20日) ・「湖の国の名宝」(仮称)(関連9室・11室 6月11日～9月5日) ・「南蛮」(関連11室 4月28日～6月6日)等 オ 他国語対応の展示室マップの作成 ・英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して作成する。 ② 特別展 (共同企画) ・特別展「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション」 (東京国立博物館、[23年度京都国立博物館、九州国立博物館]) ・特別展「誕生!中国文明」 (東京国立博物館、九州国立博物館、[23年度奈良国立博物館]) (東京国立博物館) 22年度は海外展を重視し、5件の海外展及び1件の特別協力を行う。目標入場者数 98万人(海外展を除く。) ア 特別展「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション」(4月20日～6月6日) 熊本・細川家に伝来、収蔵される文化財の中から代表的な優品を一堂に展観。(目標入場者数16万人)</p>	<p>企画展示として恒例の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(12月7日～1月16日、東新館)、「お水取り」(2月5日～3月14日、東新館)を実施した。 ・は、考古資料相互活用促進事業として「縄文のムラ」を開催した。 【九州国立博物館】 (陳列替回数、陳列総件数は別途表示)</p> <p>○トピック展示のみならず、分り易い文化交流展示室のサインを開発し、快適な観覧環境を提供した。</p> <p>○トピック展示ではちらしやポスター、リーフレットや図録などを作成し、関連したシンポジウムも開催して、展示だけではない情報発信ができた。 ○特定テーマを掘り下げたトピック展示を12回実施し、「湖の国の名宝-最澄がつないだ近江と太宰府」(6月11日～9月5日)など当館外部の機関と共同で主催したトピック展示も3回実施した。</p> <p>○中国・韓国からの来館者に対し、中国語ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成し、展示室の内容を紹介した。 ②特別展</p>	A 順調
2121-1		<p>【東京国立博物館】 ア 特別展「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション」 ・開会期間 平成22年4月20日(火)～6月6日(日) (43日間) ・会場 平成館特別展示室第1～4室 ・主催 東京国立博物館、永青文庫、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社 ・後援 文化庁 ・協賛 トヨタ自動車、日本写真印刷 ・作品件数 284件(うち国宝:8件 重要文化財:27件 重要美術品:18件) ・入館者数 182,470人 ・入場料金 一般1500円(1300円/1200円)、大学生1200円(1000円/900円)、高校生900円(700円/600円) 中学生以下無料 ()内は前売り</p>	A 順調

2121-2	イ 特別展「誕生！中国文明」(7月6日～9月5日) 中国・河南省の全土から名品を選定し、中国文化の真髄に迫る。(目標入場者数22万人)	<p>／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 82.8%</p> <p>イ 特別展「誕生！中国文明」 ・開会期間 平成22年7月6日(火)～9月5日(日) (55日間) ・会場 平成館特別展示室第1～4室 ・主催 東京国立博物館、読売新聞社、大広、中国河南省文物局 ・後援 中国大使館 ・協賛 清水建設、光村印刷、トヨタ自動車、三城ホールディングス ・協力 日本航空、日本貨物航空、TBSラジオ ・作品件数 147件 ・入館者数 105,538人 ・入場料金 一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)中学生以下無料 *()内は前売り ／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 75.5%</p>	C	一部要注意
2121-3	ウ 光明皇后1250年御遠忌記念 特別展「東大寺大仏一天平の至宝一」(10月8日～12月12日) 東大寺大仏開眼にかかる文化財の中から天平期の寺宝を中心に名品を展覧。(目標入場者数42万人)	<p>ウ 光明皇后1250年御遠忌記念 特別展「東大寺大仏一天平の至宝一」 ・開会期間 平成22年10月8日(金)～12月12日(日) (59日間) ・会場 平成館特別展示室第1～4室 ・主催 東京国立博物館、華厳宗大本山東大寺、読売新聞社 ・後援 文化庁、平成遷都1300年記念事業協会 ・協賛 みみず建設、大和証券、トヨタ自動車、ニッセイ同和損害保険、藤田觀光、文化服装学院、みずほ銀行、光村印刷 ・特別協力 ソニー、ソニービジネスソリューション ・協力 日本ヒューレット・パッカード、エヌビディア、エルザジャパン ・映像協力 凸版印刷 ・作品件数 67件(うち国宝11件、重文18件、正倉院宝物12件) ・入館者数 232,791人 ・入場料金 一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)中学生以下無料 *()内は前売り ／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 74.4%</p>	C	一部要注意
2121-4	エ 平山郁夫文化財保護活動顕彰特別展「未来への遺産」(仮称)(23年1月～3月)(予定) 文化財保護の重要性と課題等を関連する美術工芸品によって展覧。(目標入場者数18万人)	<p>エ 文化財保護法制60周年記念 特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」 ・開会期間 平成23年1月18日(火)～3月6日(日) (42日間) ・会場 平成館特別展示室第1～4室 ・主催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社 ・特別協力 平山郁夫シルクロード美術館、法相宗大本山薬師寺 ・協賛 大日本印刷</p>	A	順調

2121-5	オ 海外展「日本の美 5000年」(仮称)(5月4日～6月28日) 会場：トプカブ宮殿博物館(トルコ) 2010年の「トルコにおける日本年」を記念し、日本美術の精華を紹介。	<p>・協力 文化遺産国際協力コンソーシアム、東京美術俱楽部、朝日生命保険、あいおいニッセイ同和損害保険 ・後援 外務省、文化庁 ・作品件数 101件(うち重要文化財5件) ・入館者数 188,402人 ・入場料金 一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)中学生以下無料 *()内は前売り ／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 80.2%</p> <p>オ 文化庁海外日本古美術展「日本の美 5000年(5000 Years of Japanese Art)」 ・開会期間 平成22年5月5日(水)～6月28日(月) (49日間) ・会場 トプカブ宮殿博物館(トルコ共和国・イスタンブル) ・主催 東京国立博物館、文化庁、トルコ共和国文化観光省 ・作品件数 47件(うち国宝2件、重要文化財3件) ・入場者数 607,734人(但し、当該期間の総入館者数) ・入場料金 無料</p>	A	順調
2121-6	カ 海外展「日本美術展」(仮称)(未定) 会場：ヒューストン美術館(アメリカ) 東京国立博物館所蔵の日本美術の優品を精選し展示。	<p>カ 海外展「仏教美術と宮廷の美」(仮称) ・22年度開催予定であったヒューストン美術館(アメリカ合衆国)における本展は、諸般の事情により、平成23年度に実施予定となった。</p>	F	—
2121-7	キ 「上都から大都へ： Kubilai Khan's World」展(9月2日～23年1月2日) 会場：メトロボリタン美術館(アメリカ)(東京国立博物館特別協力) 元時代に制作された書画、彫刻、工芸などの至宝を一堂に集め展示。	<p>キ The World of Kubilai Khan: Chinese Art in the Yuan Dynasty (クビライ・カーンの世界：元王朝の中国美術) ・開会期間 平成22年9月20日(月)～平成23年1月2日(日) (105日間) ・会場 メトロボリタン美術館(アメリカ合衆国・ニューヨーク) ・主催 メトロボリタン美術館 ・特別協力 東京国立博物館、奈良国立博物館、中華文物交流協会 ・作品件数 220件(うち重要文化財3件) ・入場者数 166,476人</p>	A	順調
2121-8	ク 「よみがえるヤマトの王墓－東大寺山古墳と謎の鉄刀」(9月22日～11月23日) 会場：天理大学附属天理参考館 東大寺山古墳出土遺物全点調査した研究の成果を一般に公開。	<p>ク 創立80周年記念特別展「よみがえるヤマトの王墓－東大寺山古墳と謎の鉄刀」 ・開会期間 平成22年9月22日(水)～11月23日(火・祝) (56日間) ・会場 天理大学附属天理参考館(奈良県天理市) ・主催 天理大学附属天理参考館、東京国立博物館 ・後援 天理市、奈良県教育委員会、天理市教育委員会、読売新聞大阪本社、読売テレビ放送、奈良テレビ放送 ・作品件数 52件(うち重要文化財20件) ・入場者数 11,139人 ・入場料金 一般400円・小中学生200円・20名以上の団体300円</p>	A	順調

2121-9	<p>ヶ 海外展 上海市万国博覧会開催記念「唐宋元絵画珍品展」(仮称) (9月 29 日～11月 23 日) 会場：上海博物館（中国） 宋元絵画の名品を展示し、その意義や価値に迫る。</p>	<p>ヶ 海外展 万国博覧会開催記念「千年丹青—日本中国珍藏宋元画精品展」 ・開会期間 平成 22 年 9 月 28 日(火)～11 月 23 日(火) (56 日間) ・会場 上海博物館（中華人民共和国・上海） ・主催 東京国立博物館、上海博物館 ・作品件数 64 件（うち国宝 6 件、重要文化財 22 件、重要美術品 2 件） ・入場者数 331,275 人（但し、当該期間の総入館者数）</p>	A	順調
2121-10	<p>ｺ 海外展 上海市万国博覧会開催記念「鑑真と空海—日中文化交流の検証」展(仮称) (9月 29 日～11月 23 日) 会場：上海博物館（中国） 万国博覧会の開催を記念し、鑑真と空海に焦点を当て、日中文化交流の意義を検証。</p>	<p>ｺ 海外展 万国博覧会開催記念「鑑真と空海—日中文化交流の顕彰」 ・開会期間 平成 22 年 9 月 28 日(火)～11 月 23 日(火) (56 日間) ・会場 上海博物館（中華人民共和国・上海） ・主催 東京国立博物館、文化庁、上海博物館 ・作品件数 3 件（うち国宝：1 件 重要文化財：2 件） ・入場者数 331,275 人（但し、当該期間の総入館者数）</p>	A	順調
2121-11	<p>ｻ 海外展 「高麗仏画」(10月 11 日～11月 21 日) 会場：国立中央博物館（韓国）（東京国立博物館特別協力） 国立中央博物館新館開館 5 周年を記念し、高麗仏画を一堂に集め、その優れた特色を究明</p>	<p>ｻ 海外展 「高麗仏画大展」 ・開会期間 平成 22 年 10 月 12 日(火)～11 月 21 日(日) (42 日間) ・会場 国立中央博物館・企画展示室（大韓民国・ソウル） ・主催 国立中央博物館 ・特別協力 東京国立博物館 ・作品件数 108 件（うち重要文化財 11 件） ・入場者数 88,659 人</p>	A	順調
2122-1	<p>(京都国立博物館) 目標入場者数 20 万人 ア 特別展覧会「没後 400 年 長谷川等伯」(4月 10 日～5月 9 日) 等伯の生涯を追いながら幅広い画業を紹介。（目標入場者数 13 万人）</p>	<p>【京都国立博物館】 ア 特別展覧会「没後 400 年 長谷川等伯」 ・開催期間 22 年 4 月 10 日～5 月 9 日 (27 日間) ・会 場 特別展示館 ・主 催 京都国立博物館、毎日新聞社、NHK 京都放送局、NHK プラネット近畿 ・陳列品総件数 75 件（うち国宝 3 件、重要文化財 30 件、重要美術品 1 件） ・入場者数 244,347 人（目標 130,000 人） ・入場料金 一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 500 円 ・アンケート結果 満足度 91% ・関連講座 3 回</p>	S	順調
2122-2	<p>イ 特別展覧会「没後 200 年記念 上田秋成」(7月 17 日～8月 29 日) 上田秋成の文事と彼と交流した画家たちの書画を展示。（目標入場者数 2 万人）</p>	<p>イ 特別展覧会「没後 200 年記念 上田秋成」 ・開催期間 22 年 7 月 17 日～8 月 29 日 (39 日間) ・会 場 特別展示館 1～5 室 ・主 催 京都国立博物館、日本近世文学会 ・陳列品総件数 82 件 ・入場者数 21,705 人（目標 20,000 人） ・入場料金 一般 800 円、大高生 500 円、中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 78%</p>	A	順調

2122-3	<p>ウ 特集陳列「新収品展」(7月 17 日～8月 29 日) 平成 20 ～ 21 年に収集した作品を展示。（上田秋成展と同時開催）</p>	<p>・関連講座 10 回 ウ 特集陳列「新収品展」 ・開催期間 22 年 7 月 17 日～8 月 29 日 (39 日間) ・会 場 特別展示館 6～10 室 ・主 催 京都国立博物館 ・陳列品総件数 99 件 ・関連講座 1 回</p>	A	順調
2122-4	<p>エ 特別展覧会「高僧と袈裟—こころもを伝え こころを繋ぐ—」(10月 9 日～11月 23 日) 袈裟を通して日本の仏教と染織の歴史を辿る。（目標入場者数 2 万人）</p>	<p>エ 特別展覧会「文化財保護法 60 年記念事業 高僧と袈裟—こころもを伝え こころを繋ぐ—」 ・開催期間 22 年 10 月 9 日～11 月 23 日 (40 日間) ・会 場 特別展示館 ・主 催 京都国立博物館（主催） ・陳列品総件数 121 件（うち国宝 15 件、重要文化財 41 件） ・海外からの出陳件数 2 件（中国・中国絲綢博物館） ・入場者数 19,297 人（目標 20,000 人） ・入場料金 一般 1200 円、大高生 800 円、中小生 400 円 ・アンケート結果 満足度 84% ・関連講座 3 回、関連国際シンポジウム 1 回</p>	A	順調
2122-5	<p>オ 特別展覧会「上野コレクション寄贈 50 周年記念 中国の書画—深遠なる墨美の世界—(仮)」(23年1月8日～2月20日) 中国書画の優品を展示。（目標入場者数 3 万人）</p>	<p>オ 特別展覧会「上野コレクション寄贈 50 周年記念 筆墨精神—中国書画の世界—」 ・開催期間 23 年 1 月 8 日～2 月 20 日 (39 日間) ・会 場 特別展示館 1～7 室 ・主 催 京都国立博物館 ・陳列品総件数 113 件（うち国宝 10 件、重要文化財 23 件、重要美術品 2 件） ・入場者数 37,535 人（目標 30,000 人） ・入場料金 一般 1200 円、大高生 800 円、中小生 400 円 ・アンケート結果 満足度 88% ・関連講座 3 回</p>	A	順調
2122-6	<p>カ 特集陳列「生誕 125 年記念 篆刻家 園田湖城」(23年1月8日～2月20日) 篆刻家園田湖城の作品や関連する資料を展示。（中国の書画展と同時開催）</p> <p>キ 特別展覧会「法然上人 800 回忌 法然—生涯と美術—」(23年3月26日～5月8日) 法然上人絵伝を軸に法然の生涯と思想を遺された文化財によって</p>	<p>カ 特集陳列「生誕 125 年記念 篆刻家 園田湖城」 ・開催期間 23 年 1 月 8 日～2 月 20 日 (39 日間) ・会 場 特別展示館 8～10 室 ・主 催 京都国立博物館 ・陳列品総件数 169 件 ・関連講座 1 回 ・関連イベント 1 回（座談会「知られざる園田湖城の篆刻芸術」）</p> <p>キ (23 年度評価にて自己点検報告を行う)</p>	A	順調

2122-7	展望。		A	順調
2122-8			A	順調
2123-1	(奈良国立博物館) 目標入場者数 31万人 ア 「平城遷都1300年記念 大遣唐使展」(4月3日～6月20日) 中国・唐の文化を日本に伝え、古代史に巨大な足跡をこす遣唐使の全容を紹介。(目標入場者数 12万人)	ク 研究成果特別公開「古代の輝きを求めて ~デジタル計測でよみがえった古代青銅鏡の世界~」 ・開催期間 7月17日～8月29日(39日間) ・会場 特別展示館 中央室 ・主催 京都国立博物館 ・陳列品総件数 8件 (復元品2点を含む) ・実演デモ: 2回 ケ 京都国立博物館所蔵能装束展(金沢能楽美術館) ・展覧会名称 京都国立博物館所蔵能装束展 ・開催期間 4月17日～5月30日(38日間) ・会場 金沢能楽美術館2階 メイン展示室 ・主催 金沢能楽美術館・京都国立博物館 ・陳列品総件数 18件 ・入場者数 4,761人 ・入場料金 一般・大学生300円、65歳以上200円、高校生以下無料 ・アンケート結果 満足度 96% 【奈良国立博物館】 ア 「平城遷都1300年記念 大遣唐使展」 ・会期 平成22年4月3日(土)～6月20日(日) ・会場 奈良国立博物館東新館・本館 ・主催 奈良国立博物館、読売新聞大阪本社、NHK 奈良放送局、NHK プラネット近畿 ・共催 平城遷都1300年記念事業協会、仏教美術協会 ・後援 文化庁 ・協賛 岩谷産業、大阪芸術大学、関西電力、大日本印刷、大和ハウス工業、ニッセイ同和損害保険、非破壊検査 ・協力 日本香堂、日本航空、日本貨物航空、近畿日本鉄道、JR西日本、寧波旅日同郷会 ・陳列品総数 261件(うち国宝42件、重要文化財87件、米国からの出陳5件、中国からの出陳15件) ・入場者数 202,166人(目標120,000人) ・観覧料金 一般1400円、高・大生1,000円、小・中生500円 ・アンケート結果 満足度 84.6% なら仏像館開幕記念特別展「至宝の仏像」 ・会期 7月21日～9月26日(60日間) ・会場 奈良国立博物館なら仏像館 ・主催 奈良国立博物館	S	順調
2123-2			S	順調

2123-3	イ 「仏像修理100年展」(仮題)(7月21日～9月26日) 明治時代から現代までの仏像修理進化の歴史を、実際の作品・模造・模刻・修理資料などを通じて語る。(目標入場者数 1万人)	・特別協力 読売新聞社 ・協力 東大寺、日本香堂、仏教美術協会 ・後援 文化庁 ・陳列品総数 99件(国宝7件、重要文化財57件) ・入場者数 81,342人(目標10,000人) ・観覧料金 一般1,000円 高・大生 700円 ・アンケート結果 満足度 86.9% イ 特別展「仏像修理100年」 ・会期 7月21日(水)～9月26日(日) 60日間 ・会場 奈良国立博物館 東新館 ・主催 奈良国立博物館 ・特別協力 財団法人美術院 読売新聞社 ・後援 文化庁 ・協力 東大寺 日本香堂 仏教美術協会 ・陳列品総数 97件(国宝3件、重要文化財10件) ・入場者数 81,342人(「至宝の仏像」と一体でカウント) ・観覧料金 一般1,000円 高・大生700円 ・アンケート結果 満足度 87.9%	S	順調
2123-4	ウ 「第62回正倉院展」(予定) 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。(目標入場者数 18万人)	ウ 第62回正倉院展 ・会期 10月23日～11月11日(20日間) ・会場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主催 奈良国立博物館 ・特別協力 読売新聞社 ・協力 NHK 奈良放送局、小学館「和樂」編集部、奈良テレビ放送、日本香堂、財団法人仏教美術協会 ・協賛 NTT西日本、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、帝塚山学園・帝塚山大学、日本生命、白鶴酒造 ・出陳宝物数 71件 ・入館者数 294,804人 ・観覧料金 一般1000円 高大生700円 小中生400円 ・アンケート結果 満足度 77.1% 【九州国立博物館】 ア 「パリに咲いた古伊万里の華」 ・開会期間: 4月6日(火)～6月13日(日)(61日間) ・会場: 九州国立博物館 特別展示室 ・主催: 九州国立博物館・福岡県、日本経済新聞社、西日本新聞社、T V Q九州放送 ・陳列品総件数: 165件	A	順調
2124-1	(九州国立博物館) 目標入場者数 30万人(海外展を除く。) ア 「パリに咲いた古伊万里の華」(4月6日～6月13日) 江戸時代ヨーロッパに輸出され愛玩を受けた古伊万里磁器を紹介。(目標入場者数 5万人)		A	順調

2124-2	イ 「馬 アジアを駆けた二千年」(7月13日～9月5日) 大陸を渡って伝来し日本で独自に発展した馬の文化を紹介。(目標人数 5万人)	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者数： 84,738人 (目標入場者数 50,000人) ・入場料金： 一般 1,300円、高大生 1,000円、小中生 600円 <p>アンケート結果：満足度 95%</p> <p>イ 「馬 アジアを駆けた二千年」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間： 7月13日(火)～9月5日(日)(48日間) ・会場： 九州国立博物館 特別展示室 ・主催： 九州国立博物館・福岡県、(財)全国競馬・畜産振興会、西日本新聞社、T V Q九州放送 ・陳列品総件数： 133件 (国宝23件、重文24件、中国国家一級文物4件) ・入場者数： 42,022人 (目標入場者数 50,000人) ・入場料金： 一般 1,300円、高大生 1,000円、小中生 600円 ・アンケート結果：満足度 80% 	A	順調
2124-3	ウ 「誕生！中国文明」(10月5日～11月28日) 文化芸術の基礎が育まれた王都河南省の文物の優品を紹介。(目標人数 9万人)	<p>ウ 「誕生！中国文明」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間： 平成22年10月5日(火)～11月28日(日)(48日間) ・会場： 九州国立博物館 特別展示室 ・主催： 九州国立博物館・福岡県、読売新聞社、F B S福岡放送、中国河南省文物局 ・陳列品総件数： 147件 (中国国家一級文物63件) ・入場者数： 53,409人 (目標 90,000人) ・観覧料： 一般 1,300円、高大生 1,000円、小中生 600円 ・アンケート結果：満足度 89% 	B	ほぼ順調
2124-4	エ 「没後120年 ゴッホ展—こうして私はゴッホになった—」(23年1月1日～2月1日) オランダ・ファン・ゴッホ美術館、クレラー・ミュラー美術館所蔵の珠玉の名品を紹介。(目標人数 11万人)	<p>エ 「没後120年 ゴッホ展」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間： 平成23年1月1日(土)～2月13日(日)(42日間) ・会場： 九州国立博物館 特別展示室 ・主催： 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、T N Cテレビ西日本、T V Q九州放送 ・陳列品総件数： 122件 ・入場者数： 354,311人 (目標入場者数 110,000人) ・入場料金： 一般 1,500円、高大生 1,000円、小中生 600円 ・アンケート結果：満足度 85% 	S	達成
2124-5	オ 海外展「ふたつの国の巧と美」(仮称)(23年1月15日～3月13日) 会場：タイ王国バンコク国立博物館(タイ王国バンコク都) 九博の国際協力事業の成果として実施。日本・タイの文化を比較して展示し、共通性と差異を示す。本展は23年度に帰国展として九博で実施の予定。	<p>オ アジア友好日本古美術海外展「日本とタイ—ふたつの国の巧と美」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間： 平成23年1月15日(土)～3月13日(日)・火休館(41日間) ・会場： タイ王国バンコク国立博物館 ・主催： 文化庁、九州国立博物館・福岡県、タイ王国文化省芸術局 ・陳列品総件数：日本側：56件 (うち国宝2件、重要文化財7件、重要美術品2件)、タイ側：51件 ・入場者数： 21,525人 ・入場料金： 一般50バーツ、学生 無料 	A	順調

2130	<p>③ 展覧会広報活動の取組み 法人としての広報活動を展開する。 ・法人概要、年報を作成する。 ・法人ウェブサイトを運用する。 (4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 年間スケジュールリーフレットの制作・配付 2) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動の展開 3) ウェブサイトによる情報提供 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 4) メールマガジンの配信 (東京国立博物館) 平常展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 	<p>・アンケート結果：実施していない</p> <p>③ 展覧会広報の取組み</p> <p>【国立文化財機構】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の『平成22年度概要』を22年7月に発行し、PDF版をウェブ掲載した。 ・法人の『平成21年度年報』を23年3月に発行し、PDF版をウェブ掲載した。 ・法人ウェブサイト(http://www.nich.go.jp)のリニューアルを、23年4月1日オープンに向けて進めた。特に、掲載情報の整理・分類を重点的に行い、利用者が必要とする情報をアクセスしやすくなるよう配慮した。また、機構の全体像が一目で分かるようトップページに各施設の画像を配するとともに、簡易な英文ページを追加した。 	A	順調
2131	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配付(年6回) 2) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等 3) 「総合案内パンフレット」(7カ国語)「フロアガイド」(4カ国語)等パンフレットの制作・配付 4) 携帯電話サイトの立上げと情報配信 5) ウェブサイトのリニューアル 	<p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常展の活性化を目指した広報を行った。 ・東京国立博物館ニュース、総合パンフレット(7ヶ国語)、フロアガイド(4ヶ国語)、展示・催し物のご案内、庭園ガイドマップを改訂発行した。新たに構内マップ(日英2カ国語)を作成、正門前に設置した。 ・モバイルサイトを開設し、5月6日より公開した。 ・ウェブサイトについて2011年4月オープンを目指して、全面リニューアルを行っている。 ・博物館情報をメールマガジンにより配信した。 ・2011年1月2日本館リニューアルオープン、平常展から総合文化展への改名をきっかけとした「トーハク?!」キャンペーンを実施。タレントを起用したイメージポスターを製作し、交通広告、新聞広告などで大規模な広報展開をはかり、来館者増に貢献した。 ・マスコミ媒体と連携したPRを行った。 ・共催者、P R会社と協力し特別展の大規模プロモートを実施した。 	S	順調
2132	<p>(京都国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「博物館だより」の発行・配布(年4回) 2) 「News Letter」(英文)の発行・配布(年4回) 3) モバイルサイトによる情報提供(随時更新) 4) 「館内案内」リーフレット(6カ国語)の作成・配布 5) 東山地区の建仁寺・智積院・東福寺などの寄託社寺と連携し、チラシの交換、ホームページのリンク等の広報活動を展開 6) 京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布するなどの広報を展開する。 	<p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「博物館だより」の発行・配布(4回)した。 ・「Newsletter」の発行・配布(4回)した。 ・モバイルサイトによる情報提供をした。 ・「館内案内」リーフレット(6ヶ国語)の作成・配布した。 ・東山地区の建仁寺・智積院・東福寺などの寄託社寺と連携し、チラシの交換、ホームページのリンク等の広報活動を展開した。 ・京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。 ・マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 	A	順調

2133	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 特別展及び平常展の魅力を紹介した博物館だよりを発行する。(年4回)</p> <p>2) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等。</p> <p>3) 館内配置図リーフレット(7ヶ国語)の作成・配布。</p> <p>4) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。</p> <p>5) 液晶ディスプレイによる情報提供を継続して行う。</p> <p>6) 東大寺、春日大社の寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、特別展等のチラシを配布する。</p> <p>7) 文化大使を継続し、広報活動を行う。</p> <p>8) 広報の外注化を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。 展示予定の新発見作品について、特別にプレス発表会を開催した。 「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布した。 メールマガジンを発行(15回)した。 ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)をした。 <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 奈良国立博物館だより 年4回発行した。 奈良国立博物館展示案内を発行した。 特別展「大遣唐使展」、「仏像修理100年」、「至宝の仏像」及び「第62回正倉院展」、の広報のため、ポスター(B1、B2、B3)、チラシを作成した。 特別展では開催約1ヶ月前に記者発表を行った。 特別展、特別陳列の会期前日にプレスプレビューを行った。 「正倉院展」をはじめ、特別展・特別陳列では、JR西日本、近鉄、阪神電車とタイアップ広報を行った。 特別展「大遣唐使展」では、ツイッターによる展覧会情報の発信を行った。 電子メールマガジンによる博物館情報の発信 配信回数12回、登録者6,079人 奈良国立博物館リーフレット(7ヶ国語)発行した。 日本語80,000部、英語11,500部、韓国語6,500部、中国語3,500部、仏・独・西語各1,000部 (社)平城遷都1300年記念事業協会発行の「せんとくんクーポン」に協力、観覧料金の割引を行った。 特別展「仏像修理100年」・「至宝の仏像」では、割引券を作成し、観光案内施設等で配布した。 液晶ディスプレイによる有効な情報提供の方策を検討した。 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」「お水取り」では、ポスター(B2)を作成、観覧料金の割引券付きチラシを作成し、春日大社、東大寺、観光案内施設等で配布した。 仏像ガールさんを文化大使に任命、ブログ等で展覧会情報等を発信してもらった。 新聞社、テレビ局の広報媒体を活用した。 「正倉院展」において、読売新聞社主催の「歴史フォーラム2010」が東京、大阪で開催、「正倉院展の楽しみ方」が名古屋、福岡で開催された。 <p>【九州国立博物館】</p> <p>①外国语のガイドブック(中国語)・マップ(英語・中国語・韓国語)を刊行した。</p>	A	順調
2134	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 文化交流展示室の展示ストーリーを、日本文化はじめて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットまたはガイドブックを刊行する。</p>		A	順調

2141	<p>2) 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。特に特別展の内容理解を促進するための番組を制作、TV放映する。</p> <p>3) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行する。(年4回)</p> <p>4) 現在および過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを整備する。</p> <p>5) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。</p> <p>6) 九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を展開する。</p> <p>7) 文化交流展示室からの積極的な情報発信をはかるため、ポスター・ちらし・webコンテンツの活用を一層、促進する。</p> <p>8) 文化交流展示室で展示される作品に焦点を当てた広報TV番組を作成、放映する。</p> <p>9) 開館5周年を記念したイベント等を実施し、博物館の活動を広報する。</p> <p>④ 黒田記念館所蔵作品の公開機会拡大 (東京国立博物館)</p> <p>1) 黒田記念館での展示の他、東京国立博物館本館において特集陳列を開催する。</p>	<p>②特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作した。マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。特別展のTV番組「パリに咲いた古伊万里の華」を制作、放送した。</p> <p>③「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の発行(年4回 4月1日号、7月1日号、10月1日号、1月1日号)</p> <p>④展示リストの検索・紹介、展示情報発信のためのウェブデータベースの整備を行った。ウェブサイトによる情報提供を行った。(日本語・英語)(随時更新)</p> <p>⑤地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。</p> <p>⑥九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。</p> <p>⑦テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえて、webコンテンツやちらし・ポスター・リーフレット・図録などを刊行し、年間を通じ新聞広告掲載を実施するなど、新聞紙上での広報等を通じて新鮮な展示を来館者に提供できた。</p> <p>⑧文化交流展示室の展示作品の広報TV番組「九博のたからもの」を制作、放送した。</p> <p>⑨開館5周年を記念したイベント等を行った。</p> <p>④ 黒田記念館 【東京国立博物館】</p> <p>・平成23年2月1日から3月13日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「黒田清輝と京都」を開催した。</p>	A	順調																																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>22年度</th> <th>21年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【平常展】外国语バトルの設置(%)</td> <td>96%</td> <td>97%</td> <td>80%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>84%</td> <td>91%</td> <td>80%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>83%</td> <td>82%</td> <td>80%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>【平常展】陳列替回数(回)</td> <td>290</td> <td>316</td> <td>200</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>101</td> <td>8</td> <td>850</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>334</td> <td>431</td> <td>300</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>【平常展】陳列総件数(件)</td> <td>5,610</td> <td>6,601</td> <td>5,500</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	定量評価	22年度	21年度	目標値	評定	【平常展】外国语バトルの設置(%)	96%	97%	80%	A	東京国立博物館	—	—	—	—	京都国立博物館	84%	91%	80%	A	奈良国立博物館	83%	82%	80%	A	九州国立博物館					【平常展】陳列替回数(回)	290	316	200	A	東京国立博物館	—	—	—	—	京都国立博物館	101	8	850	C	奈良国立博物館	334	431	300	A	【平常展】陳列総件数(件)	5,610	6,601	5,500	A	東京国立博物館						
定量評価	22年度	21年度	目標値	評定																																																											
【平常展】外国语バトルの設置(%)	96%	97%	80%	A																																																											
東京国立博物館	—	—	—	—																																																											
京都国立博物館	84%	91%	80%	A																																																											
奈良国立博物館	83%	82%	80%	A																																																											
九州国立博物館																																																															
【平常展】陳列替回数(回)	290	316	200	A																																																											
東京国立博物館	—	—	—	—																																																											
京都国立博物館	101	8	850	C																																																											
奈良国立博物館	334	431	300	A																																																											
【平常展】陳列総件数(件)	5,610	6,601	5,500	A																																																											
東京国立博物館																																																															

京都国立博物館	—	—	—	—
奈良国立博物館	340	717	850	C
九州国立博物館	1,668	2,106	800	S
【特別展】開催回数(件)				
東京国立博物館	10	12	3~4	S
京都国立博物館	5	5	2~3	S
奈良国立博物館	4	3	2~3	A
九州国立博物館	5	4	2~3	S
【特別展】入館者数(人)				
東京国立博物館				
①「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」	182,470	—	160,000	A
②「誕生！中国文明」	105,538	—	220,000	C
③光明皇后1250年御遠忌記念 特別展「東大寺大仏一天平の至宝－」	232,791	—	420,000	C
④文化財保護法制定60周年記念 特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」	188,402	—	180,000	A
⑤文化庁海外日本古美術展 「日本の美 5000年(5000 Years of Japanese Art)」	(607,734)	—	—	—
⑥海外展 The World of Kubilai Khan: Chinese Art in the Yuan Dynasty (ケビライ・カーンの世界：元王朝の中国美術)	(166,476)	—	—	—
⑦創立80周年記念特別展 「よみがえるヤマトの王墓－東大寺山古墳と謎の鉄刀－」(会場：天理大学附属天理参考館)	(11,139)	—	—	—
⑧海外展「万国博覧会開催記念 「千年丹青－日本中国珍藏宋元画精品展」」	(331,275)	—	—	—
⑨海外展「万国博覧会開催記念 「鑑真と空海－日中文化交流の顕彰」」				
⑩海外展「高麗仏画大展」	(88,659)	—	—	—
京都国立博物館				
①特別展覧会「没後400年、長谷川等伯」	244,347	—	130,000	S
②特別展観「没後200年記念 上田秋成」	21,705	—	20,000	A
③特別展覧会「文化財保護法60年記念事業 高僧と袈裟－ころもを伝え、こころを繋ぐ－」	19,297	—	20,000	B

④特別展覧会「上野コレクション寄贈50周年記念 筆墨精神－中国書画の世界－」	37,535	—	30,000	A
⑤京都国立博物館所蔵能装束展 (会場：金沢能楽美術館)	(4,761)	—	—	—
奈良国立博物館				
①「平城遷都1300年記念 大遣唐使展」	202,166	—	120,000	S
②なら仏像館開幕記念特別展「至宝の仏像」	81,342	—	10,000	S
③特別展「仏像修理100年」	294,804	299,294	180,000	S
九州国立博物館				
①「ハリに咲いた古伊万里の華」	84,735	—	50,000	S
②「馬」アジアを駆けた二千年」	42,022	—	50,000	B
③「誕生！中国文明」	53,409	—	90,000	C
④「没後120年 ゴッホ展」	354,311	—	110,000	S
⑤アジア友好日本古美術海外展 「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」	(21,525)	—	—	—
【展覧会広報】				
東京国立博物館 博物館ニュースの発行(回)	6	6	6	A
京都国立博物館 博物館だよりの発行(回) Newsletterの発行(回)	4	4	4	A
奈良国立博物館 博物館だよりの発行(回)	4	4	4	A
九州国立博物館 季刊アジアージュの発行(回)	4	4	4	A

(2) 歴史・伝統文化の理解促進

【中期目標】 歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源を活用した教育普及活動を実施すること。	【中期計画】 歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。	【主な計画上の評価指標】 ○講演会、ギャラリートーク等の参加者数の各館の年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること ○ボランティア活動を支援すること ○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること
①子どもから高齢者までを対象とした幅広い学習機会を提供すること。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。 ②ボランティアや支援団体を育成し、相互の協力により教育普及活動の充実を図ること。	①学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。	

		【21年度評価における主な指摘事項】 ○ボランティアの育成やその受け入れには人手がかかるが、さらに博物館を訪れる人々の増加を促すことに繋がることから、一層の充実を期待したい。	
処理番号	年度計画	主な実績	
		年度	中期
2211-1	<p>(2) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業に重点化する。</p> <p>① 学習機会の提供 (4館共通)</p> <p>1) キャンパスメンバーズ（大学会員制度）による大学との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館)</p> <p>1) ナショナルセンターとして日本の歴史・文化及び東洋文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。 本館20室を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。</p> <p>○ ファミリー向け教育普及の展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方2」(6月15日～7月25日) ・特集陳列「親と子のギャラリー 博物館の音楽会」(7月27日～9月5日)</p> <p>○ 体験型プログラムの実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方2」など、平常展示に関連した一般向け及びファミリー向けのワークショップやアクティビティを実施する。 ・本館20室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。 ・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。</p> <p>○ 教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(3月24日～4月11日)の実施</p>	<p>(2) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進</p> <p>①学習企画の提供</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>1) 先導的事業のモデル化及び実践 ・本館20室を教育普及スペース「みどりのライオン」にガイダンス機能をもたせるとともに、展示に関連した各種レクチャーや体験型プログラム、制作工程模型展示などを、一般から学校団体まで幅広い層に向けて展開し、内容にあわせ小講堂・大講堂などでも事業を行った。</p> <p>・教育普及的な手法を用いた特集陳列「親と子のギャラリー」として、「日本美術のつくり方2」(6月15日～7月25日)、「博物館の音楽会」(8月3日～9月5日)を実施した。</p> <p>・「日本美術のつくり方2」、「博物館の音楽会」などの平常展示に関連して、おとなのためのワークショップ、ファミリーワークショップ、ハンズオンアクティビティを行った。</p> <p>・本館20室にて、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」(通年)を継続して実施した。</p> <p>・ワークシートを用いたアクティビティ「東博ウサギめぐり&掛軸ふうカレンダー」(平成23年1月2日・3日)を実施した。</p> <p>・教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(22年3月24日～4月11日、23年3月29日～4月17日)を実施した。</p> <p>・震災の影響による23年3月12日～3月28日の臨時休館に伴い、ワークショップ2回を中止した。また、「博物館でお花見を」は23年3月23日から実施の予定であったが、23年3月29日からとなった。</p>	A 順調

2211-2	<p>2) 学校との連携事業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。 ・就業体験の受け入れを継続して行う（小・中・高校生対象）。 ・単位制高校及び高校生向け講座を継続して実施する（高校生対象）。 ・インターンシップを継続して実施する（大学院生対象）。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。 	<p>月29日からとなった。</p> <p>2)-1 学校との連携事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等学校を対象に、スクールプログラムを実施した。また就業体験の受け入れを行った。 ・就業体験の受け入れを継続して行った。詳しくは処理番号2221-1を参照。 ・高等学校の単位制授業の一環としてプログラムを提供した。 <p>・将来の博物館研究員の養成を目的として大学院生を対象としたインターンシップを実施した。</p> <p>・全国高等学校美術・工芸教育研究会の会員研修会への協力、教員特別鑑賞会・ガイダンスなど、教員を対象とした研修を実施した。</p> <p>・大学生および教育関連機関等の見学対応を行った。</p> <p>・平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備事業として盲学校のためのスクールプログラムの開発を行い、実際に盲学校の生徒(2校36名)に対しプログラムを試行した。平成23年度より同プログラムを広く募集し実施する。</p> <p>・震災の影響により、スクールプログラム2件(2校481名)がキャンセルとなった。</p>	A 順調								
2211-3	<p>・東京芸術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。</p>	<p>2)-2 学校との連携事業の推進（大学等との連携事業）</p> <p>東京芸術大学との連携事業</p> <p>大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、総合文化展の解説を行った。また館蔵の仏画の制作工程模型を作成し、ギャラリートークで解説した（陳列期間：平成23年1月2日～2月6日）。</p> <p>大学院生7名、ギャラリートーク回数40回、参加者数1,081名</p> <p>・キャンパスメンバーズ</p> <p>博物館の歴史や事業等について博物館セミナーを実施した。</p> <p>博物館実務全般について演習、実習により体験的講座を実施した。</p>	A 順調								
2211-4	<p>3) 文化財について分かりやすく理解するための例品解説・月例講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。</p>	<p>3) 講演会・例品解説・講座等の実施</p> <table border="0"> <tr> <td>講演会</td> <td>実施39回（月例講演会 実施11回 記念講演会 実施12回 テーマ講演会 実施 1回 その他講演会 実施15回）</td> </tr> <tr> <td>例品解説</td> <td>実施83回（ギャラリートークを含む）</td> </tr> <tr> <td>連続講座</td> <td>実施1回(3日)</td> </tr> <tr> <td>公開講座</td> <td>実施3回</td> </tr> </table> <p>・震災の影響による23年3月12日～3月28日の臨時休館に伴い、講演会2回(月例講演会1回、その他講演会1回)、例品解説2回、その他展示に関連する事業3回(桜コンサート2回、鑑賞ガイド1回)を中止した。</p>	講演会	実施39回（月例講演会 実施11回 記念講演会 実施12回 テーマ講演会 実施 1回 その他講演会 実施15回）	例品解説	実施83回（ギャラリートークを含む）	連続講座	実施1回(3日)	公開講座	実施3回	A 順調
講演会	実施39回（月例講演会 実施11回 記念講演会 実施12回 テーマ講演会 実施 1回 その他講演会 実施15回）										
例品解説	実施83回（ギャラリートークを含む）										
連続講座	実施1回(3日)										
公開講座	実施3回										

2212	<p>(京都国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催する。 2) 一般向け教育普及事業として「夏期講座」を開催する(テーマ「文学と美術」)。 3) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。 4) 京都橘大学との連携事業を継続して実施する。 5) 展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布とともに、京都市内小中学校へ配布する。併せてメールマガジンでの配信を行う。 6) 小中学生向けに展示解説を行う「少年少女博物館くらぶ」を実施する。 7) 京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォーリンダード講座」を行う。 <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜講座を展覧会にあわせて開催した。(15回) ・夏期講座「文学と美術」を実施した。(7/27~29) ・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当した。 ・京都橘大学との連携を行い、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施した。 ・小・中学生向け作品解説シート(博物館ディクショナリー)を発行した。 ・京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。 ・「少年少女博物館くらぶ」(7/24)を実施した。 ・京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォーリンダード講座」を実施した。 ・「文化財ソムリエ」(7名)を対象としたスクーリングを実施した。 ・「社会科教員のための向上講座」を実施した。 ・キャンバスメンバーズを継続し、大学と連携した。(29校) ・「留学生の日」(10/23)を実施した。 	A	順調
2213-1	<p>(奈良国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小中学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県内小中学校にメールマガジンを配信し、博物館がよりを送付する。 ・奈良市内小学校5年生を対象に世界遺産学習授業を実施する。 ・中学生の職場体験学習を受入れる。 2) 講座等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・仏教美術等に関するサンデートークを随時実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム及び講座を開催する。 ・夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県内の中学校にメールマガジンを配信し、小・中・高校に「奈良博たより」を送付した。メールマガジン配信数220件、たより送付数71 ・奈良市内小学校5年生を対象に世界遺産学習授業を実施した。30校受入、2,221人 ・奈良市内の中学生の職場体験学習を受け入れた。1校6人 ・奈良市の小・中学校の教員研修を実施した。8月27日 参加者数200人 ・講演会等 参加者数 3,349人、実施回数 28回 <ul style="list-style-type: none"> ・サンデートークの実施。12回、参加人数621人 ・特別展等講座 15回 参加人数2,172人 <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座の実施。12回、参加人数1,522人 ・特別講演会の実施。5月15日 参加者数316人 会場：奈良県新公会堂能楽ホールシンポジウムの実施。2回、参加者数334人 ・夏季講座の実施。8月24日~26日(3日間) 参加者数556人(各日) 会場：奈良女子大学講堂 ・公開講座は、特別展の会期中に2~4回、特別陳列では1回実施。 ・解説ボランティアによる作品解説 ・展示会場での解説 284日間、 <ul style="list-style-type: none"> ・学校・一般団体の案内 30件、1,162人(申し込み件数。当日受入は含まず)、正倉院展 	A	順調

		の講堂解説 20日間 計110回 など		
2213-2	<p>3) 大学・自治体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。 ・奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を検討する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。 <p>・キャンバスメンバーズによる大学との連携強化を図るべく、未加入校に対し積極的に広報を行い、加入校の増加を図った。</p> <p>(奈良女子大学大学院人間文化研究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論を講義している。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期4人、後期3人である。 <p>(神戸大学大学院人文学研究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2名を客員教授とし、文化資源論を担当した。 ・受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生であり、8名の学生が受講した。 ・2名の博士論文の査読を行い、副査として口頭試問を行った。 ・世界遺産教育に関する全国大会を、奈良市教育委員会および奈良教育大学と共同で実施。於、奈良教育大学 11月28日 参加者数800人 (文化財保存修理所の公開) ・平成22年9月8日(水)、15日(水) 特別展「仏像修理100年」の関連イベントとして、文化財保存修理所の特別公開を臨時に開催した。300名の募集に対し、応募総数448名、参加者237名となつた。他府県からの参加者も多く、満足度の高い感想が得られた。 ・平成23年2月9日(水) 昨年度に引き続き、恒例の文化財保存修理所の特別公開(第3回 	A	順調	

2214-1	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 博物館における体験型事業の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供 ・アジア諸国との文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発 <p>2) 九州大学との共同研究の成果に基づき、平常展を利用して来館者のニーズに合った情報提供を行うためのプログラムを研究・開発する。</p> <p>3) 学校教育との連携事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験（中学生）の受け入れを実施 ・ジュニア学芸員（高校生）事業の実施 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置 ・学校貸出キット「きゅうぱく」の貸し出しの実施 	<p>目）を開催し、120名の募集に対し、応募総数234名、参加者106名となった。</p> <p>・平成23年3月26日（土）、美術史学会西支部大会を受け入れた。100名の学会員が講堂で三月堂修理の行程について聽講し、さらに文化財保存修理所を見学した。</p> <p>【九州国立博物館】</p> <p>①体験型展示室「あじっぽ」における展示・体験活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あじっぽ」のうち、アジア各国の伝統文化・生活文化等を紹介する「屋台」において延べ12回、「あじ庵」において延べ5回、「あじぎやら」において延べ5回の展示替えを行った。「屋台」において新たに紹介する国として「モンゴル」「ウズベキスタン」の2カ国を追加した。従来からの体験プログラムの展開に加え、新たに「モンゴルの馬具に乗ってみよう」「モンゴルのもうをデザインしよう」「モンゴル・ウズベキスタンの3D写真」「きゅうぱく・モンゴルの馬頭琴」「Boo Boo ベット」「いろんなもようを織ってみよう」「テーブ独楽をまわそう」を追加した。また、小・中学生層を対象に、博物館学芸員の仕事の一部を体験するプログラム「なりきり学芸員体験」「なりきり考古学者」を定例化し、毎月第2・第4土曜日に実施したほか、職場体験・学校団体等の希望者に対して随時実施した。 ・「Boo Boo ベット」「いろんなもようを織ってみよう」「テーブ独楽をまわそう」は教育普及及ボランティアの企画によるもので、ボランティア活動の活性化の成果でもある。 ・夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぽ夏祭り」の実施 夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぽ夏祭り」を8月7日～8日に実施した。内容の企画から準備、当日の運営にいたるまで教育普及ボランティアが主体となって進め、3カ国3コンテンツを運用した。2日間で延べ約300名（子どものみの数）の参加があった。 <p>②昨年度に引き続いて、九州大学金大雄研究室との共同研究として来館者動向および展示解説システムの改善に向けての実証実験を実施した。その結果、実際に来館者が展示室内でどのように行動しているかの具体的なデータを得た。</p> <p>③学校教育との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育との連携 学校貸出キット「きゅうぱく」の運用を継続しつつ、昨年度行った改善点の検討に基づき、新規のセットとして「きゅうぱく Lite」7種類を開発、運用を開始した。「きゅうぱく Lite」は「土器のいろいろ」「青銅器のいろいろ」「誕生！中国文明」「高麗の文化」「イスラームの祈り」「さまざまな穀物」「さまざまな香辛料」の7種類。あじっぽ体験用資料を中心に、3Dプリンタでの成果等も活用した。また、中学生の職場体験の受け入れ、高校生を対象とした博物館理解のためのプログラム「ジュニア学芸員活動」を実施した。 ・高等教育との連携 博物館学芸員課程を履修する学生のための「博物館実習」を実施し、また、筑紫女学園大学との連携による「ガムランワークショップ」を5月～2月の間に8回実施した。 ・教員を対象としたプログラムの実践 経験2年目教師、および経験11年目教師に対して社会貢献等の体験の場を提供した。経験2年目教師2名、11年目教師4名を受け入れた。 	A 順調
--------	--	--	------

2214-2	<p>4) シンポジウムを開催する。</p> <p>5) 特別展記念講演会を開催する。</p> <p>6) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。</p> <p>7) ギャラリートークを随時実施する。</p> <p>8) 文化施設等へ講師を派遣する。</p> <p>9) 特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。</p>	<p>①シンポジウム・特別展記念講演会を開催した。</p> <p>②文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施した。</p> <p>③ミュージアムトークを随時実施した。</p> <p>④文化施設等へ講師を派遣した。</p> <p>⑤特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行った。</p>	A 順調
2214-3	<p>10) 近隣大学等と文化財保存技術および展示・教育普及に関する共同研究を計画する。</p> <p>11) 放送大学の面接授業を実施する。（講師数8人）</p> <p>12) 博物館実習生の受け入れを実施する。</p> <p>13) インターンシップによる研修生の受け入れを実施する。</p>	<p>①近隣大学等と文化財保存技術および展示・教育普及に関する共同研究を計画した。</p> <p>②放送大学の面接授業を実施した。</p> <p>③博物館実習生の受け入れを実施した。</p> <p>④キャンパスメンバーズ（大学会員制度）による大学との連携を継続して実施した。</p>	A 順調
2221-1	<p>②-1 ボランティア活動の支援</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 各種教育普及事業及びイベント等の補助活動の充実を図る。</p>	<p>②-1 ボランティア活動の支援</p> <p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種教育普及事業の補助的活動を継続して展開した。 	A 順調
2222-1	<p>2) 点字や手話による博物館案内を実施する。</p> <p>3) 各種解説ツアーを継続して実施する。</p> <p>4) ボランティア自身の企画立案による解説ツアーの充実を図る。</p> <p>5) 東京芸術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・点字や手話による博物館案内を実施した。詳しくは処理番号2311-1を参照。 ・ボランティアによるガイドツアー、ワークショップ等の充実を図った。 ・館内の施設誘導案内を行い、来館者サービスに努めた ・通年（開館日は基本的に毎日実施） ・館内案内実施場所：4箇所（本館1・2階エントランス、本館17室、本館20室） ・児童・生徒の就業体験を受け入れた：学校数33校、生徒数131人 ・東京芸術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施した。詳しくは処理番号2211-3を参照。 ・震災の影響による23年3月12日～3月28日の臨時休館に伴い、生涯学習ボランティアによるガイドツアー71回、東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク2回を中心とした。 	A 順調
2222-1	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 大学（京都橘大学）との学術交流による特別展覧会観覧者アンケート（反応収集・集計・分析）ボランティアを実施する。</p> <p>2) 調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。</p> <p>3) 学校への訪問授業をする「文化財ソムリエ」の大学生・大学院生ボランティアを育成する。</p>	<p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都橘大学との学術協定に基づき、当館研究員が事前講習を行ったのち、特別展示館出口にて来館者にアンケート回答の呼びかけを実施。 	A 順調
2223-1	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) ボランティアによる、展示解説、イベント、学習普及事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「調査・研究支援ボランティア」の募集と活動の充実を進めた。当館職員が行う調査・研究業務、展示替え作業の補助を行った。 ・「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアに当館研究員がスクーリングを行ったのち、京都市内の小中学校への訪問授業等を行った。 	A 順調
		<p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展、特別陳列の開催ごとに1～2回、当館職員による展示内容の研修を実施した。 	

	<p>業補助等の充実を図る。</p> <p>2) ボランティアに対する指導助言体制とボランティアに対する研修の充実を図る。</p> <p>3) ボランティア同士のグループ別学習の充実に努める。</p> <p>4) 外国語対応のできる解説ボランティアの充実に努める。</p>	<p>・全員にすべての展覧会図録を配布。解説と自己鍛錬のための学習資料とした。</p> <p>・正倉院展会期中にはボランティアによる講堂解説を実施した。教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った上、1～2週にわたる自主トレーニングを経て、実地に臨むよう指導した。</p> <p>・展示内容に関する質問用紙を用意し、学芸部職員がこれに回答する等の対応を行った。学芸部職員による担任制を取り、問題解説にあたっている。</p> <p>・世界遺産学習や一般解説の依頼に対して、教育室を中心に日時の調整から対応方法についてボランティアと打合せを重ねた。特に今年度は、工事等による閉館期間と世界遺産学習の対応が重なったため、新たに仏像コスチューム授業を実践したが、その調整に職員とボランティアが協力体制を組んだ。</p> <p>・韓国中央博物館の視察や、韓国の教員研修の一部などを受け入れ、ハングル対応のボランティアが解説・通訳を行った。</p> <p>(ボランティア展示解説について詳細は処理番号 2213-1 を参照)</p> <p>【九州国立博物館】</p> <p>①ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図った。</p> <p>②ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施した。</p> <p>③ボランティア同士のグループ別学習の充実を図った。</p> <p>②-2 博物館支援者の増加 (詳細は処理番号 2221-2、2222-2、2223-2、2224-2 参照)</p>	A	順調												
2221-2	<p>(東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。</p> <p>2) 地域・企業との連携・拡充を図る。</p>	<p>【東京国立博物館】</p> <p>・友の会、パスポート及び賛助会等の会員の確保に努めるとともに、地域や企業との連携を推進した。</p> <p>1) 友の会・パスポート・平常割引バス 会員数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>22 年度</th> <th>(参考) 21 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>友の会 (1 万円)</td> <td>1,412 人</td> <td>2,085 人</td> </tr> <tr> <td>パスポート</td> <td>一般 4,000 円</td> <td>12,870 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>20,392 人</td> </tr> </tbody> </table>	種 別	22 年度	(参考) 21 年度	友の会 (1 万円)	1,412 人	2,085 人	パスポート	一般 4,000 円	12,870 人			20,392 人	A	順調
種 別	22 年度	(参考) 21 年度														
友の会 (1 万円)	1,412 人	2,085 人														
パスポート	一般 4,000 円	12,870 人														
		20,392 人														
2222-2	(京都国立博物館)	<p>2) 賛助会 会員数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>22 年度</th> <th>(参考) 21 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別会員</td> <td>16 団体</td> <td>13 団体</td> </tr> <tr> <td>維持会員</td> <td>28 団体・個人 191 人</td> <td>24 団体・個人 178 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>3) 地域、機関との連携</p> <p>①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財團法人、東京都、財團法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障がい者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。</p> <p>②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会及び新座市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員作品展など 6 つのプログラムを行った。(参加者合計 1,239 名)</p> <p>・平成23年1月より募金箱を館内3箇所に設置した(本館玄関、本館1階17室、平成館玄関)。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>・「友の会」事業を継続して実施した。</p> <p>会員数 2,468 人</p> <p>・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。</p> <p>・企業等との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。</p> <p>・今年度より、博物館の諸活動への企業からの各種支援を募るために「ミュージアム・パートナー」制度を設置し、一企業がこの制度に協賛した。</p> <p>・「京都市内 4 館連携協力協議会」を実施した。</p>		22 年度	(参考) 21 年度	特別会員	16 団体	13 団体	維持会員	28 団体・個人 191 人	24 団体・個人 178 人	A	順調			
	22 年度	(参考) 21 年度														
特別会員	16 団体	13 団体														
維持会員	28 団体・個人 191 人	24 団体・個人 178 人														
2223-2	(奈良国立博物館)	<p>1) 支援団体との連携により施設を活用したイベント等を実施し、認知度向上に努める。</p>	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>・友の会</p> <p>会員数 3,180 人 (一般 3,009 人、学生 125 人、家族 46 人)</p> <p>・賛助会 27 団体 37 人</p> <p>特別支援会員: 4 団体、特別会員: 4 団体、一般会員 (個人): 37 人、(団体): 19 団体</p> <p>会員数の増加に伴い芳名板をリニューアルした。</p> <p>・特別展の実施に対して企業等から協力金等を積極的に獲得した。</p> <p>・アメリカン・エキスプレス社のカード会員向けポイント・プログラム「メンバーシップ・リワード」において、賛助会の一般会員 (個人) に 1 年間入会できる交換アイテムを提供了した。</p> <p>・特別陳列「お水取り」で企業から協賛金を獲得した。</p>	A	順調											

	<p>1) 支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。</p> <p>2) 企業等との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。</p> <p>3) 展覧会事業への企業からの各種支援 (協賛・協力) を募る。</p>	<p>会員数 2,500 円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 别</th> <th>22 年度</th> <th>(参考) 21 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常割引バス (2,000 円)</td> <td>863 人</td> <td>1,206 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>27 人</td> <td>24 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・オンラインによる友の会、パスポートの申込受付数: 147 名 (21 年度は 331 名)</p>	種 别	22 年度	(参考) 21 年度	平常割引バス (2,000 円)	863 人	1,206 人		27 人	24 人	A	順調
種 别	22 年度	(参考) 21 年度											
平常割引バス (2,000 円)	863 人	1,206 人											
	27 人	24 人											
2222-2	(京都国立博物館)	<p>2) 賛助会 会員数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>22 年度</th> <th>(参考) 21 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別会員</td> <td>16 团体</td> <td>13 団体</td> </tr> <tr> <td>維持会員</td> <td>28 团体・個人 191 人</td> <td>24 团体・個人 178 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>3) 地域、機関との連携</p> <p>①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財團法人、東京都、財團法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障がい者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。</p> <p>②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会及び新座市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員作品展など 6 つのプログラムを行った。(参加者合計 1,239 名)</p> <p>・平成23年1月より募金箱を館内3箇所に設置した(本館玄関、本館1階17室、平成館玄関)。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>・「友の会」事業を継続して実施した。</p> <p>会員数 2,468 人</p> <p>・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。</p> <p>・企業等との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。</p> <p>・今年度より、博物館の諸活動への企業からの各種支援を募るために「ミュージアム・パートナー」制度を設置し、一企業がこの制度に協賛した。</p> <p>・「京都市内 4 館連携協力協議会」を実施した。</p>		22 年度	(参考) 21 年度	特別会員	16 团体	13 団体	維持会員	28 团体・個人 191 人	24 团体・個人 178 人	A	順調
	22 年度	(参考) 21 年度											
特別会員	16 团体	13 団体											
維持会員	28 团体・個人 191 人	24 团体・個人 178 人											
2223-2	(奈良国立博物館)	<p>1) 支援団体との連携により施設を活用したイベント等を実施し、認知度向上に努める。</p>	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>・友の会</p> <p>会員数 3,180 人 (一般 3,009 人、学生 125 人、家族 46 人)</p> <p>・賛助会 27 团体 37 人</p> <p>特別支援会員: 4 団体、特別会員: 4 团体、一般会員 (個人): 37 人、(団体): 19 団体</p> <p>会員数の増加に伴い芳名板をリニューアルした。</p> <p>・特別展の実施に対して企業等から協力金等を積極的に獲得した。</p> <p>・アメリカン・エキスプレス社のカード会員向けポイント・プログラム「メンバーシップ・リワード」において、賛助会の一般会員 (個人) に 1 年間入会できる交換アイテムを提供了した。</p> <p>・特別陳列「お水取り」で企業から協賛金を獲得した。</p>	A	順調								

2224-2	(九州国立博物館) 1) 寄付金の獲得に努める。 2) 九州国立博物館振興財団や近隣地域等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 奈良観光イベント「ライトアッププロムナード・なら 2010」、「なら燈花会」、「全国光とあかり祭」、「バサラ祭」、「なら瑠璃絵」に積極的に協力した。 3月末になら仏像館入口、新館入口に募金箱を設置した。 <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①友の会及びパスポート会員制度を継続して実施した。 ②支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。 ③寄附金を募る募金箱を23年3月末に1階エントランスに設置した。 	A	順調																																																																																																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>22年度</th> <th>21年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習機会の提供 講演会等参加者数(人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>13,319</td> <td>12,546</td> <td>10,915</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>　講演会</td> <td>9,290</td> <td>5,600</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　列品解説</td> <td>3,659</td> <td>6,550</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　連続講座(夏期講座)</td> <td>278</td> <td>320</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　公開講座</td> <td>92</td> <td>76</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>2,313</td> <td>3,002</td> <td>5,181</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>　土曜講座</td> <td>2,076</td> <td>2,791</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　夏期講座</td> <td>205</td> <td>179</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>3,349</td> <td>3,421</td> <td>3,542</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>　特別展等講座</td> <td>2,172</td> <td>2,043</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　夏季講座</td> <td>556</td> <td>391</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　サンデートーク</td> <td>621</td> <td>584</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>3,996</td> <td>6,806</td> <td>5,255</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>　特別展記念講演会</td> <td>1,410</td> <td>1,622</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　ミュージアムトーク</td> <td>1,320</td> <td>1,285</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　講演及びシンポジウム</td> <td>1,266</td> <td>3,849</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　ミュージアム講座</td> <td>0</td> <td>50</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>放送大学の面接授業の講師数(人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>B</td> </tr> </tbody> </table>			定量評価	22年度	21年度	目標値	評定	学習機会の提供 講演会等参加者数(人)					東京国立博物館	13,319	12,546	10,915	A	講演会	9,290	5,600	—	—	列品解説	3,659	6,550	—	—	連続講座(夏期講座)	278	320	—	—	公開講座	92	76	—	—	京都国立博物館	2,313	3,002	5,181	C	土曜講座	2,076	2,791	—	—	夏期講座	205	179	—	—	奈良国立博物館	3,349	3,421	3,542	B	特別展等講座	2,172	2,043	—	—	夏季講座	556	391	—	—	サンデートーク	621	584	—	—	九州国立博物館	3,996	6,806	5,255	B	特別展記念講演会	1,410	1,622	—	—	ミュージアムトーク	1,320	1,285	—	—	講演及びシンポジウム	1,266	3,849	—	—	ミュージアム講座	0	50	—	—	放送大学の面接授業の講師数(人)					九州国立博物館
定量評価	22年度	21年度	目標値	評定																																																																																																					
学習機会の提供 講演会等参加者数(人)																																																																																																									
東京国立博物館	13,319	12,546	10,915	A																																																																																																					
講演会	9,290	5,600	—	—																																																																																																					
列品解説	3,659	6,550	—	—																																																																																																					
連続講座(夏期講座)	278	320	—	—																																																																																																					
公開講座	92	76	—	—																																																																																																					
京都国立博物館	2,313	3,002	5,181	C																																																																																																					
土曜講座	2,076	2,791	—	—																																																																																																					
夏期講座	205	179	—	—																																																																																																					
奈良国立博物館	3,349	3,421	3,542	B																																																																																																					
特別展等講座	2,172	2,043	—	—																																																																																																					
夏季講座	556	391	—	—																																																																																																					
サンデートーク	621	584	—	—																																																																																																					
九州国立博物館	3,996	6,806	5,255	B																																																																																																					
特別展記念講演会	1,410	1,622	—	—																																																																																																					
ミュージアムトーク	1,320	1,285	—	—																																																																																																					
講演及びシンポジウム	1,266	3,849	—	—																																																																																																					
ミュージアム講座	0	50	—	—																																																																																																					
放送大学の面接授業の講師数(人)																																																																																																									
九州国立博物館	7	8	8	B																																																																																																					

(3) 快適な観覧環境の提供

【中期目標】国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、入館者の期待に応えること。

- ①高齢者、身体障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境を形成すること。
- ②入場料金及び開館時間の弾力化など、利用者の要望や利用形態等を踏まえた管理運営を行うこと。
- ③ミュージアムショップやレストラン等のサービスの充実を図ること。

【中期計画】

(3) 快適な観覧環境の提供

【主な計画上の評価指標】

- 施設のバリアフリー化を進めること

2311-1 ～6	年度計画 (3) 快適な観覧環境の提供 ① 観覧環境の整備プログラム等の策定 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。 (東京国立博物館)	主な実績 (3) 快適な観覧環境の提供 ①観覧環境の整備プログラムの策定 【東京国立博物館】 • 下記の特別展で音声ガイドの貸出を実施した。(処理番号 2311-6) • 特別展「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション」33,507件 • 特別展「誕生！中国文明」 15,291件 • 特別展「東大寺大仏一天平の至宝」 46,596件 • 特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」 35,456件 貸出数：計 130,850件 • 点字解説等の増刷版パンフレットの作成を継続し、配布した。(処理番号 2311-1) • 多言語による案内及び誘導サイン等を環境整備委員会に諮り順次整備している。(処理番号 2311-2) • より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備した。(処理番号 2311-3) a. 本館 11 室『彫刻』等に LED(発光ダイオード)光源のカッタースポットライト照明を導入。 b. 本館 12 室『漆工』展示室をリニューアルし、低反射ガラスを使用した展示ケースを導入、また付属の下部照明に超高演色 LED を採用し、照明効果を飛躍的に向上させた。 • 「日本美術の流れ」鑑賞のための 4ヶ国語パンフレットの制作・配布した。(処理番号 2311-4) 日本語：展示テーマと主な展示作品の解説を収録。展示替えに応	自己評価
			年度

	<p>を盛り込んだ、英語、中国語、韓国語のカラーパンフレットを継続して制作・配布する。</p> <p>6) 平常展における音声ガイドの導入について検討する。</p>	<p>じて、更新・配布した。 英語、中国語、韓国語：日本美術の基礎知識と、カラー図版で構成したパンフレットを改訂・配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォン端末を利用した位置連動型ガイドシステム「とーはくナビ」の実証実験を行なった。総合文化展(平常展)の理解促進につながったほか、最新の技術を用いた展示ガイドの可能性の検証、将来の本格導入に向けて制作・運用上の問題点の解明に成果をあげることができた。 震災の影響による 23 年 3 月 12 日～3 月 28 日の臨時休館に伴い、この期間実施を中止した。そのため当初 23 年 1 月 17 日から 3 月 31 日としていた実験期間を、4 月 17 日まで延長する予定である。(処理番号 2311-5) <p>その他の観覧環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障がい者対応（処理番号 2311-1、2311-2） ・点字解説等の増刷版パンフレットの作成を継続し、配布した。・バリアフリー対応ボランティアを募り、研修等を実施。 ・当館ウェブサイトにおけるバリアフリーマップ制作のための調査を実施。 ・手話通訳つきガイドツアーを月 1 回（「たてもの散歩ガイド」）継続して実施。 ・聴覚障がい者対応のため、コミュニケーションボードの使用を開始。 ・車椅子研修を実施。（以上、処理番号 2311-1） ・各特別展の際に障がい者内覧会を開催した。（三菱商事株式会社と共に） ・貸出用車いすのうち、展示が見やすい座面昇降式車いす（4 台）がある旨の看板を掲示した。（以上、処理番号 2311-2） <p>○観覧者対応（処理番号 2311-2、2311-4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日ざしの強い日に、お客様の熱中症対策として、敷地内移動用の日傘の貸出を実施した。 ・新型インフルエンザの流行後も引き続き、各展示施設入口に消毒用アルコールを設置し、各展示施設の案内カウンター等にマスクを常備し、希望されるお客様へ実費にて販売した。 ・上野消防署の協力により、防災訓練を実施した。 ・混雑時に、コインロッカーを一時的に増設した。 ・今まで AED の設置がなかった法隆寺宝物館に設えた。 ・建物・黒門の野外解説版で劣化しているものを新調した。 ・老朽化していた本館救護室や茶室の備品を更新した。（以上、処理番号 2311-2） 	
2312	<p>（京都国立博物館）</p> <p>1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを推進する。</p> <p>2) 6 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、西語）リーフレットを継続して制作する。</p> <p>3) 混雑が予想される展覧会について、入館者調整や陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所等の工夫を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。</p> <p>4) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。</p>	<p>・子供向けワークシート（処理番号 2311-4）</p> <p>見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促すワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具今昔」「日本の伝統もよう」の 3 種を改訂、本館で配布。</p> <p>(23 年 1 月の正門券売所リニューアル関連)（処理番号 2311-2）</p> <p>これまで特別展看板側に総合文化展券売所があり、総合文化展掲示板側に特別展券売所があったため、お客様の誘導に不具合があつた。このため、看板等に合うよう券売所を入れ替え、軒下にそれぞれのチケット売り場表示看板、料金表を夜間照明と併せ新設した。</p> <p>・日・英・中・韓の 4 か国語表記の券売機を導入した。</p> <p>・新たに 9 種類のクレジットカードを利用できるよう機器を設置した。</p> <p>・総合文化展チケットの画像を様々な作品や建物画像を印刷して楽しめるようにした。</p> <p>(東日本大震災関連)（処理番号 2311-2）</p> <p>・激しい揺れが収まった後、お客様を前庭に誘導し怪我がないことを確認した。展示作品や収蔵庫は研究員が確認し、大きな損害がでていないことを確認した。</p> <p>・余震が続いたため、夕方に臨時閉館とし、帰宅困難なお客様を平成館ラウンジに案内し、ソファや救護室ベッドを運び入れ、毛布を渡し休んでもらった。食事は、夕食は近所で買い物してもらい、朝食は当館で購入しておいたパンを配布した。ラウンジのミュージアムシアター告知用液晶モニターにテレビのニュース放送を流した。</p> <p>・外国人のお客様には、英語のわかる研究員が対応し、道路地図のコピーに印字を記入し、配布した。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>・平常展示館の建替工事を継続中であり、来館者の観覧を騒音や振動で妨げないよう配慮した。</p> <p>・外国人を含め来館者が気持ちはよく観覧していただけるよう、2 カ国語の観覧マナーの注意事項パネルを看視員が準備し、マナー向上のお願いの方法を改善した。</p> <p>(リーフレット制作については処理番号 2132 を参照)</p> <p>・展覧会において、入館待ち時間の情報等をウェブサイト等で迅速に発信した。また、「長谷川等伯」展においては、過去 1 週間の混雑状況を時系列でパソコン端末及び携帯端末向けに掲載した。</p> <p>・当館職員、臨時要員、売店、レストラン従業員、(財)京都古文化保存協会学生ボランティアを対象とした「マナー講習会」を実施し</p>	A 順調

2313	(奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2) 7カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、独語、西語）リーフレットを継続して制作する。 3) 混雑が予想される展覧会について、入場者調整、陳列品の配置及び音声ガイドの開設場所の工夫を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 4) 誘導サイン及び展示照明を順次整備する。	A 順調 【奈良国立博物館】 <ul style="list-style-type: none">快適な観覧環境を提供するため展示ケースを一新し、透過性のあるガラスを使用して見やすくした。また、なら仏像館の回廊の照明が暗く、展示している仏像が見えにくいという声に対応し、照明工事を行い、これを改善した。 (リーフレット制作については処理番号 2133 を参照)「正倉院展」期間中に、新たに託児室を開設し、多数の利用があった。「正倉院展」期間中に入場待ち列テントを設置、看護師の館内常駐を実施した。「正倉院展」期間中に混雑緩和のため、会場入り口での入場制限や 11 月 3 日には団体入場の制限を行った。正倉院展入場待ちのお客様サービスとしてモニターによる日曜美術館の放映や正倉院展の号外新聞を配布した。地元ボランティア団体と協力して外国人用案内ブースを設置し、英語による案内を行った。お客様の入場を分散するために閉館前入場割引制度（オータムレイト料金）を設定し、オータムレイト券購入者には記念品を配布した。客数情報システムを導入し、展示室内の観覧者数を正確に把握できるようにし、混雑時に適切な入場案内を行えるようにした。特別展において、音声ガイドの貸出を行い、入館者が展示内容に理解を深めながら観覧できるようにした。入館者サービスの一環として館内サインを統一した。観覧券（入場券）をクレジットカードで購入出来るようにした。
2314	(九州国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2) 7カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、独語、西語）リーフレットを継続して制作する。	A 順調 【九州国立博物館】 <ul style="list-style-type: none">快適な観覧環境を提供するため、文化交流展示室において来館者ニーズに合った情報提供を行うためのプログラムの研究・開発、および混雑対策など観覧環境の整備を行った。7カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、独語、西語）のリーフレットを継続して制作した。英語・中国語・韓国語による簡単な展示解説付きマップを作成し、
2321	3) 混雑が予想される展覧会について、入場者調整、展示レイアウトの工夫を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 ② 一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取 一般入館者、専門家を対象に満足度調査を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービスの向上に努める。 (4館共通) 1) 入館者のニーズを引き出すため入館者調査を実施し、その結果を改善に生かす。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に關し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) 1) モニターを委嘱し、提言を受けることで、展覧会を含めた博物館運営に反映する。	A 順調 配布した。 <ul style="list-style-type: none">混雑が予想される展覧会について、入場者調整、展示レイアウトの工夫を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。また、障がい者のための特別観覧日を設けた。解説題箇や館内サインを必要に応じて新装した。開館以来、破損等の原因により使用に支障が出ていたケースについて、ガラス交換や外装のタッチアップ等の作業を実施した。竣工以来、6 年を経過する映像機器、調光機器の老朽化等を考慮して、使用していない展示情報に係るコンピュータシステムの整理や機器の更新を行った。特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。太宰府消防署の協力により、地域と連携した防災訓練を実施した。電子マネー（nimoca）を導入した。IC エコまちめぐりシステム端末を設置した。 ②一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取 【東京国立博物館】 <ul style="list-style-type: none">○特別展アンケート すべての特別展で実施し、どの展覧会も 74~83% と概ね高い満足度となった。 昨年度開催の特別展「国宝 土偶展」から導入しているタッチパネルアンケートシステムを、22 年度のすべての特別展で設置した。○平常展アンケート（22 年 4 月～12 月）：紙媒体でのアンケート 回収サンプル数 446 件（日本語 307 件、英語 104 件、韓国語 30 件、中国語 5 件） 満足度 88%（とても満足 48%、やや満足 40%、どちらともいえない 7%、やや不満 3%、とても不満 2%）※無回答分を含まず○総合文化展アンケート 23 年 1 月 2 日からの本館リニューアルと「平常展」から「総合文化展」への改称に合わせ、本館玄関ホールへ新規に「総合文化展」タッチパネル式アンケートシステムを導入した。
2322	 【京都国立博物館】 <ul style="list-style-type: none">入館者アンケートを実施 特別展覧会「長谷川等伯」満足度 91% 回答数 2,435 件（良い 74%、まあまあ良い 17%、どちらでもない 3%、あまり良くない 1%、良くない 1%） 特別展観「上田秋成」満足度 78% 回答数 365 件（良い 43%、まあまあ良い 35%、どちらでもない 12%、あまり良くない 10%、良くない 1%）	A 順調

2323	<p>い 12%、あまり良くない 3%、良くない 4%) 特別展覧会「高僧と袈裟」満足度 84% 回答数 371 件 (良い 55%、まあまあ良い 29%、どちらでもない 11%、あまり良くない 1%、良くない 2%) 特別展覧会「筆墨精神」満足度 88% 回答数 297 件 (良い 63%、まあまあ良い 25%、どちらでもない 4%、あまり良くない 4%、良くない 0%) •特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。 •モニターを委嘱し、提言を受けることで、展覧会を含めた博物館運営に反映した。 •通常のアンケートとは別に、学生ボランティアによる呼びかけアンケートを行ってより細かなニーズを調査するとともに、館内で情報を共有した。</p> <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 名品展アンケート（全開館日） 回答数 342 件 (良い 74.7%、普通 9.1%、良くない 5.3%、無回答 10.9%) 英語版名品展アンケート（全開館日） 回答数 83 件 特別展アンケート 「大遣唐使展」 回答数 892 件 (良い 84.6%、普通 8.2%、良くない 4.7%、無回答 2.5%) 「仏像修理 100 年」「至宝の仏像」 回答数 551 件 (良い 87.9%、普通 7.8%、良くない 3.1%、無回答 1.2%) 「第 62 回正倉院展」 回答数 1,008 件 (良い 77.1%、普通 13.7%、良くない 6.1%、無回答 3.1%) 特別展について、専門家の展覧会評を「博物館だより」に掲載 <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平常展アンケート 満足度 59% 回答数 292 件 (とても良い 30%、良い 29%、普通 16%、あまりよくない 4%、よくない 9%、無回答 12%) ②特別展アンケート 「パリに咲いた古伊万里の華」 満足度 95% 回答数 6,815 件 (とても良い 65%、良い 30%、普通 3%、あまりよくない 0%、よくない 0%) 「馬 アジアを駆けた二千年」 満足度 80% 回答数 620 件 	A	順調
2324		A	順調

2331	<p>③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努める。</p>	<p>(とても良い 36%、良い 44%、普通 12%、あまりよくない 4%、よくない 2%) 「誕生！中国文明」 満足度 89% 回答数 347 件 (とても良い 55%、良い 34%、普通 6%、あまりよくない 1%、よくない 1%) 「没後 120 年 ゾッホ展」 満足度 85% 回答数 3,387 件 (とても良い 56%、良い 29%、普通 7%、あまりよくない 2%、よくない 3%)</p> <p>③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実</p> <p>【東京国立博物館】 ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努めた。また、ミュージアムショップに関連した企画等に協力した。 •ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と、「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。 •新たな絵はがきとして今年度は、20種類を製作した。 •台東区立書道博物館と連携した特集陳列「拓本とその流転」の開催期間中、書道博物館の図録も販売し、当館と他館との連携事業に協力した。 •レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、展覧会にあわせメニューを変える等サービスの向上に努めた。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 南門施設は平成 21 年 7 月にリニューアルオープンし、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーと共に入館料を払わずに来館者が利用できるスペースとなっている。3 業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた形での運営を心がけた。 接客の向上として、当館が開催するマナー講習会及びクレーム講習会に参加した。 (インフォメーション) 展覧会関係のチラシ及び京都市観光協会の協力により京都観光などのチラシを置き、案内所には英会話ができる人員を配置し、当館の案内だけではなく京都市内の観光案内も行つた。来館者にも好評である。 	A	順調
2332	(京都国立博物館)	A	順調	

		<ul style="list-style-type: none"> ぐるっとバスの販促用グッズを設置し、ぐるっとバス加盟店として販促を実施した。 (ミュージアムショップ) 来館者が手軽にお買い求めいただける絵はがき等を中心にオリジナルグッズを作成した。 絵はがき販売総数は350種類に上り、日本美術を中心としたグッズを販売した。 (レストラン) アンケートを実施したところ、来館者におおむね満足いただけているが、集計した内容をレストラン側に提出し、さらなる接客の向上に努めた。 <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「正倉院展」では、常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店やグッズ販売等のショップがお店出した。 平城遷都1300年にちなんでミュージアムショップで記念グッズを取り扱った。 ミュージアムショップで新しいオリジナルグッズを追加作成し、お客様のニーズに応えた。 ミュージアムショップやレストラン等でクレジットカードを利用できるようにした。 季節毎にお客様に対して、ミュージアムショップを知っていただき、また親しんでいただくために「七夕に願を」「ビーズで作ろう！元気が出る仏像」等のキャンペーンを実施した。 観覧料金の支払いをはじめミュージアムショップやレストランで、クレジットカード（種類：ピザ、マスター、JCB、アメリカン、ダイナース）や電子マネー（種類：ビタバ、イコカ、銀聯）を利用してできるようにした。 <p>【九州国立博物館】</p> <p>①ミュージアムショップでは、特別展、文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子・グッズなどを提供した。</p> <p>②レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。</p>	A	順調
2333	(奈良国立博物館)			
2334	(九州国立博物館)	<p>1) 観覧料金の支払いをはじめミュージアムショップやレストラン等での支払いがカード決済出来るよう環境を整える。</p> <p>1) オリジナルグッズの開発や特別展に関連した商品の提供など、サービスの向上に努める。</p> <p>2) 特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。</p>	A	順調

3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

【中期目標】収蔵品等に関する調査研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(1) 収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。		○刊行物の発行、学会、インターネット、各種セミナー、シンポジウムを通じて研究成果を広く公表すること。		
処理番号	年度計画	主な実績		
自己評価 年度 中期				
3111	<p>(1) 調査研究の成果の発信 (東京国立博物館)</p> <p>1) 博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。</p> <p>2) 国際的な講演・研究集会を開催する。</p> <p>3) 紀要・図版目録等を刊行する。</p> <p>4) 文化財修理報告書を刊行する。</p> <p>5) 法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。</p> <p>6) 研究誌「MUSEUM」(年6回)を刊行する。</p>	<p>(1) 調査研究の成果の発信 【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(博物館情報アーカイブについて詳細は処理番号 6611 参照) ・(国際的な講演・研究集会について詳細は処理番号 3211 参照) ・定期刊行物(紀要・図版目録・修理報告書・法隆寺献納宝物調査概報、研究誌『MUSEUM』(年6回)5件、特別展図録・特集陳列印刷物(特別展図録『細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション』・特集陳列図録『清朝末期の光景—小川一眞・早崎穂吉・閑野貞一』等)8件、特集陳列リーフレット(『日本美術の流れ 浮世絵』等)4件、その他(『ザールデリー—パキスタン古代仏教遺跡の発掘調査』・『根付 高円宮コレクション』)2件を刊行した。これらの出版物により、国内外に広く当館の収蔵品に関する調査研究の成果を発信することができた。 <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教美術に関するシンポジウム報告書を刊行する。 ・特別展覧会「高僧と袈裟」関連事業として国際シンポジウムを開催する。 ・研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。 ・社寺調査報告書を刊行する。 ・文化財修理報告書を刊行する。 ・社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「法然」を企画し、併せて図録を作成する。 	A	順調
3112	(京都国立博物館)	<p>1) 仏教美術に関するシンポジウム報告書を刊行する。</p> <p>2) 特別展覧会「高僧と袈裟」関連事業として国際シンポジウムを開催する。</p> <p>3) 研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。</p> <p>4) 社寺調査報告書を刊行する。</p> <p>5) 文化財修理報告書を刊行する。</p> <p>6) 社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「法然」を企画し、併せて図録を作成する。</p>	A	順調

3113	(奈良国立博物館) 1) 研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。 2) 正倉院展に因むシンポジウムを開催する。 3) 国際的な講演・研究集会を開催する。 4) 文化財修理報告書刊行のため、資料整理等を実施する。 5) 入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。	<ul style="list-style-type: none"> 各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展観「上田秋成」を開催し、図録を刊行した。 各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展観「高僧と袈裟」を開催し、図録を刊行した。 各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展観「筆墨精神」を開催し、図録を刊行した。 平成 20~21 年の新収品について調査成果を盛り込み、「新収品展」を開催し、公開した。 <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究紀要『鹿園雑集』12 号を刊行し、同誌及び各種の学術誌において、研究員各自の収蔵品等に関する調査研究成果を発表した。 前年度に引き続き、ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、また文化財保存修理所で修理した文化財を、入場無料ゾーンを利用し写真パネル等で展示した。 「正倉院展」会期中に正倉院学術シンポジウム 2010 「正倉院宝物はどこで作られたか」(10 月 24 日、奈良県文化会館、参加者数 186 名)を開催した。 (国際的な講演・研究集会については処理番号 3213 にも記載) 前年度に引き続き、『鹿園雑集』12 号に「奈良国立博物館文化財保存修理所修理一覧」を掲載し、修理成果の一端を紹介した。また、併せて修理報告資料を整理した。 『平城遷都 1300 年記念 大遣唐使展』(特別展図録)、『仏像修理 100 年』(特別展図録)、『第 62 回正倉院展』(特別展図録)、『The 62th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)、『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)、以上 4 冊の展覧会目録を刊行、また特別展「至宝の仏像」開催に併せて『なら仏像館 名品図録』を刊行した(以上は全て作品解説付き、展覧会担当者の総論や各論等を掲載)。 平成 14 年以来取り組んできた東大寺の塑造神将像に関する光学調査等の成果をとりまとめた報告書『奈良時代の塑造神将像』(中央公論美術出版、12 月刊)を刊行した。 当館敷地内に存在する春日東西両塔跡及びその周辺遺跡の状況を正確に把握し、今後の保存に資するべく、本館南東に調査区(219 m²)を設け、奈良文化財研究所と共同で発掘調査を実施した(11 月 15 日~12 月 27 日)。調査の過程で、東塔院の北東隅の位置を確定する遺構の検出などの成果が得られ、新聞各紙で取り上げられた。12 月 17 日~21 日には現場見学会を実施(参加者約 300 名)し、概要をまとめた資料を配布した。 	A	順調

3114	(九州国立博物館) 1) 研究紀要「東風西風」を刊行する。 2) 国際的な講演・研究集会を開催する。 3) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。 4) 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。	<ul style="list-style-type: none"> 読売新聞紙上で「鹿園親照－奈良国立博物館で見る名宝」を連載し、展示作品について定期的な紹介を行った。また特別展開催期間中にも読売新聞紙上で出陳品紹介の連載を行った。 <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究紀要『東風西声』第 6 号を刊行(3 月発行)。特別展図録を刊行。 国際シンポジウム「契丹帝国(遼王朝)の美術と文化」を開催した。 文化財修理に関する印刷物を刊行した。 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させた。 広報テレビ番組「九博のたからもの」(RKB テレビ)の制作・放送(5 月~9 月) 新聞紙上で展示作品紹介の連載を行った。 	A	順調								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>22 年度</th> <th>21 年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究誌の刊行回数 東京国立博物館 (MUSEUM)</td> <td>6 回</td> <td>6 回</td> <td>6 回</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>	定量評価	22 年度	21 年度	目標値	評定	研究誌の刊行回数 東京国立博物館 (MUSEUM)	6 回	6 回	6 回	A
定量評価	22 年度	21 年度	目標値	評定								
研究誌の刊行回数 東京国立博物館 (MUSEUM)	6 回	6 回	6 回	A								

(2) 海外研究者の招聘

【中期目標】国内外の博物館関係者との研究会の開催や研究者の交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。

【中期計画】

- (2) 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3211	<p>(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 (国立文化財機構)</p> <p>1) 日中韓国立博物館長会議へ参加する。 (4 館共通)</p> <p>1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。(20 人程度: 東京 6、京都 5、奈良 6、九州 3)</p> <p>2) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(2 人程度: 東京 6、京都 6、奈良 6、九州 4) (東京国立博物館)</p> <p>1) 國際交流協定を締結している博物館および欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。</p>	<p>(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 (国立文化財機構)</p> <ul style="list-style-type: none"> (日中韓国立博物館長会議への参加については処理番号 3211 参照) <p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外より計 15 名の研究者を招へいし、当館研究員延べ 10 名を海外に派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。また、日中韓国立博物館長会議、ICOM 上海大会に職員を派遣し、日中韓三館の協力体制を確認するとともに、世界の博物館との交流を行った。 さらに、スイスより 1 名研修生を受け入れ、特に博物館における展 	A	順調

3212	(京都国立博物館) 1) 諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加する。 2) 外国人研究員・研修員の受け入れを行う。	示デザインについて、当館のノウハウを学んでいただく機会を提供した。	A	順調
3213	(奈良国立博物館) 1) 国際交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。	<p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外からの研究者の招聘 7名 ・海外への研究員の派遣 27名 うち、国際会議への派遣 9名 ・国際シンポジウム「染織品にみる東アジア交流 一宋・元・明時代の中国とその周辺一」(11/13)を開催した。 <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協定を結んでいる4館のうち2館との間で研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。中国・河南博物院からは研究員2名を1ヶ月間招聘し、韓国国立慶州博物館との間では研究員2名を各1ヶ月間招聘、当館から研究員1名を約1ヶ月間派遣した。 ・正倉院展開催に際し、韓国国立慶州博物館から館長ほか1名を招聘、正倉院宝物の保存管理や日韓両国の文化財行政等について意見交換を行った。また慶州博における特別展「元暁」の開催に際して当館から館長以下3名を派遣し、学芸部長が講演を行うなどしたほか、特別展「皇南大塚」開催に際しても当館から研究員2名を派遣した。 ・「大遣唐使展」における海外からの文化財借用に際し、外国人研究者（米国6名、中国6名）をクーリエとして、また中国・陝西省の文化財関係者5名を代表団として受け入れ、同展出陳作品及び文化財の管理・展示等に関する情報交換を活発に行なった。 ・「大遣唐使展」会期中に国際学術シンポジウム「東アジアの造形芸術と遣唐使の時代」(6月5日、於：奈良国立博物館講堂、参加者数148名)を実施し、米国人研究者1名をパネリストの一人として招聘した。 ・韓国国立中央博物館における特別展「高麗仏画大展」会期中の10月28日に同館で開催された国際学術シンポジウム「東アジア仏教美術における高麗仏画」にて、当館研究員2名が研究発表及びコメントを行った。 ・米国・メトロポリタン美術館で開催された特別展「上都から大都へ：フビライ汗の世界」(22年9月20日～23年1月2日)の展示・撤収に際して、クーリエとして研究員各1名を派遣し、併せて米国における東アジア美術研究の現状について、現地研究者との間で情報交換を行った。 	A	順調
3214	(九州国立博物館) 1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流を	<p>【九州国立博物館】</p> ①海外研究者の招聘（9人）	A	順調

<p>実施する。</p> <p>2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流促進のため韓国の博物館長を招聘した。 ・国際シンポジウムのため中国の研究者を招聘した。 ・平成22年度在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業及びアジア諸国博物館・美術館研究協力事業の実施に係る研究者を招聘した。 <p>②海外への研究者派遣（77人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国 内蒙古博物院との学術文化交流協定を締結した。 ・モンゴル カラコルム博物館への専門家派遣（国際交流基金事業）を実施した。 ・海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」開催した。 <p>③国際シンポジウム「契丹帝国（遼王朝）の美術と文化」開催した。</p>			
定量評価	22年度	21年度	目標値	評定
海外研究者招聘(人)				
東京国立博物館	15	26	6	S
京都国立博物館	7	29	5	A
奈良国立博物館	9	29	6	S
九州国立博物館	9	37	3	S
研究員派遣(人)				
東京国立博物館	54	16	6	S
京都国立博物館	27	13	6	S
奈良国立博物館	14	30	6	S
九州国立博物館	77	46	4	S

(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

<p>【中期目標】国内外の文化財の修理・保存処理の充実に寄与すること。</p> <p>【中期計画】</p> <p>(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>○博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施すること</p>
	<p>【21年度評価における主な指摘事項】</p> <p>○今後は、研修の一部（保存科学、保存環境学など）について、より一層の充実を期待する。</p>

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3311	(3) 保存修理工への研修プログラム 〔4館共通〕	(3) 保存修理工への研修プログラム 【東京国立博物館】	A	順調

3312	<p>1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。</p>	<p>1. 特定非営利活動法人文化財保存支援機構が主催する専門家セミナーに東京国立博物館が共催し、東京国立博物館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(平成22年8月30日(月)～9月10日(金)の10日間)を開催した。東京国立博物館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容としては、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。</p> <p>2. エジプト国立大エジプト博物館保存修復センターにて「東京国立博物館の臨床保存の実践についてのセミナー」を実施(平成22年9月29日)。科学研究費補助金(基盤(S)(平成20年～24年))「博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究」の経費による。</p> <p>3. ルーブル美術館素描版画部門にて「東京国立博物館の臨床保存の実践についてのセミナー」を実施(平成23年1月11日)。科学研究費補助金(基盤(S)(平成20年～24年))「博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究」の経費による。</p> <p>4. ストラスブル日仏大学会館にて「東京国立博物館の臨床保存の実践についてのセミナー」を実施(平成23年1月13日)。科学研究費補助金(基盤(S)(平成20年～24年))「博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究」の経費による。</p> <p>5. 大学院生のインターンを3名受け入れ、東京国立博物館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(平成23年2月14日(月)～25日(金))。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 当館にて開催の特別展覧会において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。 <p>参加者 「長谷川等伯」展 52人 「上田秋成」展 40人 「高僧と袈裟」展 35人 「筆墨精神－中国書画の世界－」展 39人</p>	A 順調
------	---	---	------

3313	<p>・文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。</p> <p>参加大学院生: 2名</p> <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 修理所巡回を4回実施し、館長をはじめとする総務課、学芸部の館職員が修理所の各3工房を視察した。このことにより修理途中の文化財の修理状況を継続的に観察し、修理の工程を広く知る場を設け、修理について認識を高めることに努めた。 平成23年3月中旬の平日 午後5時から6時30分、当館講堂にて修理所研修会を実施した。 <p>文化財保存工房の絵画書跡の修理状況について、近年の実績のなかから、法華堂不空罥索觀音立像(東大寺藏)の修理を取り上げ、修理品の概要、修理中の調査及び新知見、修理方針、修理技術などについて、他の修理所工房のスタッフ、学芸部研究員と討議を行う。あわせて解説ボランティアも傍聴し、修理に関する理解を深めた。</p> <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①紙文化財保存基礎講座 <ul style="list-style-type: none"> a 文化財保存復修研修(地元大学の文化財保存技術専攻学生4名対象) 8月16日～20日 b 古文書保存基礎講座(地元博物館文化財関係者23名対象) 23年1月21日、29日 ②文化財保存交流セミナー <ul style="list-style-type: none"> a 「東アジアの伝統的製紙技術－日中韓の最新調査研究成果－」4月23日 参加者32名 b 「延喜式にみる製紙工程について」5月12日 参加者37名 c 「韓国 保存科学の現況」23年2月8日 参加者23名 d 「アメリカ国立スミソニアン機構 フリーア美術館アーサー・M・サックラー美術館 保存科学部東洋絵画修理室について」23年3月18日 参加者20名 ③ミュージアムIPM支援者育成事業(文化庁受託事業) <ul style="list-style-type: none"> 「市民と共にミュージアムIPM」研修会(講義)3回、研修会(ワークショップ)4回、研修会(見学・討議)3回、シンポジウム1回 延べ430名 	A 順調
3314		A 順調

(4) 公私立の博物館等への貸与の推進

【中期目標】収蔵品の地方における観覧の機会を確保するため、貸与に関する情報を公開するなど、収蔵品の貸与を推進すること。

【中期計画】

【主な計画上の評価指標】

(4) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。	○公私立博物館等に対する支援のため、収蔵品の貸与に関する情報を公開すること 【21年度評価における主な指摘事項】 ○収蔵品の貸与に関する情報公開体制の今後の整備を期待したい。これが整えば、各地の公・私立博物館にとって有益な情報となる。
---	---

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3411	(4) 収蔵品の貸与 (東京国立博物館) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会へ収蔵品を1,000件貸与する。 2) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き約80件を長期貸与する。 3) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ50件貸与する（海外交流展出品作品を含む）。 4) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (京都国立博物館) 1) 国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。（約120件）	(4) 収蔵品の貸与 【東京国立博物館】 ・国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。 ・長崎歴史文化博物館（80件）、国立西洋美術館、韓国国立中央博物館、フランス・ギメ博物館などに、年度を越えた長期貸与を実施している。 ・本年度も海外からの借用希望が多く、文化庁主催の海外展を含め、12箇所の会場に160件の作品を貸与した。 ・考古資料相互貸借事業は、二つの博物館と協力して実施した。 【京都国立博物館】 ・74機関に対し297件の収蔵品貸与を行った。（うち海外4機関に対し16件） 館蔵品の貸与件数：152件 寄託品の貸与件数：145件 計 297件 ・ウェブページでの「貸出作品リスト」の公開 【奈良国立博物館】 ・館蔵品と寄託品の貸出は、展覧会の回数において計43件、作品件数は計159件。 【貸与先内訳】 国立5館、公立30館、私立1館、外国4件、その他3件 【貸与作品内訳】 国宝19件、重要文化財74件、その他66件 館蔵品47件（絵画25件、彫刻6件、書跡3件、漆工1件、考古12件） 寄託品112件（絵画42件、彫刻48件、書跡9件、金工6件、漆工4件、染織1件、考古2件） ・以下の2館と相互貸借事業を実施した。	A	順調
3412			A	順調
3413	(奈良国立博物館) 1) 国内外の博物館等で開催する展覧会へ収蔵品を100件貸与する。 2) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。		A	順調

(九州国立博物館)	1) 収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。	1. 山形県立博物館・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 貸与品：杉沢遺跡出土土偶 借用品：押出遺跡出土の縄文土器、漆器類	A	順調
		2. 南相馬市博物館 貸与品：泉廢寺ほか出土の古瓦（「内藤コレクション」・「原田コレクション」） 借用品：桜井遺跡出土の弥生土器、石包丁 なお、押出遺跡出土品の展示に際しては、「縄文のムラー山形・押出遺跡からのメッセージ」と題するパンフレットを作成し、無料配布した。		
3414		【九州国立博物館】 国内31機関・海外3機関に所蔵品および寄託品を貸与した。（東京国立博物館からの長期管理換品を含む）		
		定量評価	22年度	21年度
		収蔵品の貸与件数(件)	目標値	評定
		東京国立博物館	1,315	1,104
		国内展覧会への貸与	1,155	913
		うち長崎歴史文化博物館	80	80
		海外展覧会への貸与	160	191
		京都国立博物館	297	428
		奈良国立博物館	159	108
		九州国立博物館	165	89
			—	—
			A	S
			S	S

(5) 公私立博物館等に対する援助・助言

【中期目標】全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。

【中期計画】

(5) 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。

【主な計画上の評価指標】

○公私立博物館等に対する援助・助言の実績が前中期目標期間の実績を上回ること。

【21年度評価における主な指摘事項】

○国立博物館に対する信頼の表れであり、文化財保護の推進と、公・私立博物館のレベル向上のためにも積極的に取組んではほしい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 (4館共通)	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進		

3511	1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言をする。 (東京国立博物館)	<p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、84件の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力（44件） ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言（12件） ・講演会やセミナー等における講演等での協力（11件） ・作品の展示・保存環境についての調査・指導（17件） ・新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。 	A	順調
3512	1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。 (京都国立博物館)	<p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の展示、修理にかかる指導助言（19件） ・文化財の調査にかかる指導助言（46件） ・講演会、セミナー等における講演等での協力（13件） ・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力（45件） ・「京都国立博物館所蔵 能装束展」（金沢能楽美術館）にかかる援助・助言を行った 	A	順調
3513	1) 「京都国立博物館所蔵 能装束展」（金沢能楽美術館）に援助・助言を行う。 (奈良国立博物館) 1) 「奈良の古寺と仏像 ～會津八一のうたにのせて～」展（新潟県立近代美術館、三井記念美術館、奈良県立美術館）に援助・助言を行う。	<p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「奈良の古寺と仏像～會津八一のうたにのせて～」展（新潟市會津八一記念館・新潟県立近代美術館：22年4月24日～6月6日、三井記念美術館：同7月7日～9月20日、奈良県立美術館：同11月20日～12月19日）に協力し、学術面での援助・助言を行った ・米国・メトロボリタン美術館における特別展「上都から大都へ：フビライ汗の世界」（22年9月20日～23年1月2日）開催にあたり、日本からの出陳品の出陳交渉及び輸送に際しての随行及び助言を行い、メトロボリタン美術館での展示にも立会った。 ・韓国国立中央博物館における特別展「高麗仏画大展」（22年10月11日～11月21日）開催にあたり、日本からの出陳品の出陳交渉及び輸送に際しての、随行及び助言を行った。 ・福井県立美術館における特別展「シルクロードと東アジアの仏教美術」（22年10月9日～11月3日）開催にあたり、出陳品の選定及び事前調査等に際しての協力・助言を行った。 ・独立行政法人科学技術振興機構（JST）が平城遷都1300年祭のメイン会場において大画面ハイビジョンで放映するために制作した、唐招提寺所蔵の東征伝絵巻（重文）全5巻の高精細画像を当館にて撮影した際に、作品輸送・取扱・助言などの協力を行った。また唐招提寺講堂における展示「国宝金堂平成大修理のあゆみ」（22年10月） 	A	順調

3514	(九州国立博物館)	<p>月～。内容は修理の成果物・パネル・模型等）の開催にあたり、学術面での協力・助言を行った。</p> <p>・山形県立博物館が開催した特別展「縄文のキセキー半世紀の時を越えて」（22年10月9日～12月5日）に貸与した館蔵品の土偶1件の輸送に際しての随行及び助言を行い、現地での展示・撤収に立ち会った。また福島県・南相馬市博物館が開催した特別展「国史跡指定記念 古代陸奥国 行方の郡家－国指定史跡 泉官衙遺跡」（23年1月8日～3月6日）に貸与した館蔵品の瓦類139点の輸送に際しての随行及び助言を行い、現地での展示に立ち会った（以上は平成22年度考古資料相互活用促進事業による）。</p> <p>【九州国立博物館】</p> <p>公私立博物館等で開催された研究集会および講演会において指導・助言を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文化財の修理にかかる指導助言 ②講演会、セミナー等における講演 ③文化財の調査にかかる指導助言 ④作品の展示、保存環境についての調査指導 ⑤古文書保存に関する専門講座を開催 	A	順調																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>22年度</th> <th>21年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公私立博物館・美術館への指導助言(件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>84</td> <td>139</td> <td>40</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>123</td> <td>114</td> <td>12</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>35</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>77</td> <td>39</td> <td>12</td> <td>S</td> </tr> </tbody> </table>			定量評価	22年度	21年度	目標値	評定	公私立博物館・美術館への指導助言(件)					東京国立博物館	84	139	40	S	京都国立博物館	123	114	12	S	奈良国立博物館	35	25	5	S	九州国立博物館
定量評価	22年度	21年度	目標値	評定																										
公私立博物館・美術館への指導助言(件)																														
東京国立博物館	84	139	40	S																										
京都国立博物館	123	114	12	S																										
奈良国立博物館	35	25	5	S																										
九州国立博物館	77	39	12	S																										

4 文化財に関する調査及び研究の推進

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

【中期目標】文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査及び研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。

特に、文化財保護法の改正によって新たに保護の対象となった文化的景観、民俗技術などに関する調査及び研究を推進し、今後の指定等の業務に係る基礎的な知見を形成すること。

【中期計画】

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画立案・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

①文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。

②我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に關し、以下の課題に重点的に取り組む。

i 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性の解明

ii 我が国における近現代美術の歴史の解明

iii 美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明

iv 古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究

v 歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開

③我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。

④我が国の風俗習慣・民俗芸能・民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織・公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等これら研究成果及び問題意識の共有化を図り、「無形民俗文化財の映像記録作成ガイドライン(仮称)」等の指針を作成し公表する。

⑤平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

⑥遺跡の保存・整備・活用に関する一體的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。

【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通

○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。

○それぞれの調査研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実績的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

【21年度評価における主な指摘事項】(1)～(5)共通

○新たに保護が必要な文化財の基礎的調査については、より一層充実させる必要があり、スタッフについてもさらに充実させるべきである。

○遺跡の保護・整備・活用は、現在活用に焦点が当てられているが、保護・維持管理は、古くて新しいテーマであり、最大の課題と考えられるため、長期的な経年変化を継続して観察する総合的な調査・研究を実施し、より一層良好な保存継承システムが構築されることを望む。

○可能な限り無形文化財に係る調査研究の充実を図ってほしい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進	(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進		

4111	文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 ① 平成16年の文化財保護法の一部改正に伴い保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。 ア 文化的景観の体系化や保護策に関する研究の一環として、文化的景観に関する基礎的な情報の収集を進めるとともに、文化的景観の学術及び保護に資する研究会を定期開催し、その成果をふまえて文化的景観の保護に関する研究集会を開催する。また、ケーススタディーとして実施してきた高知県四万十川流域の文化的景観に関する調査研究報告書を作成する。	①-ア 文化的景観に関する調査研究 文化的景観に関する基礎的な情報の収集、四万十川流域や宇治の文化的景観に関する現地調査等を通じて、文化的景観の価値評価、保存計画立案、整備・活用事業の基本的な考え方を整理し、四万十川流域の文化的景観調査報告書を刊行するとともに、論文・Webサイトを通じて成果を報告した。また、文化的景観の学術及び保護に資する研究会である文化的景観学研究会を2回開催し、その成果を踏まえつつ、文化的景観の保存計画と整備・活用をテーマに文化的景観研究集会(第3回)を開催した。関連して、昨年度開催の研究集会(第2回)の成果報告書を刊行した。	A	順調	
			①-イ 民俗技術に関する調査・資料収集(④ 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究と一体的に実施) 民俗技術の伝承実態、民俗芸能の伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究報告書』などに報告した。また無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議し、その成果を報告書にまとめ、関係者、関係機関等に配布した。さらに地方自治体で作成された無形文化遺産に関する記録の所在情報について、確認作業を行い、データ化を完了した。	A	順調
4112	イ 民俗技術に関して、都道府県・市町村における保護の現状に関して、年中行事に用いられる飾り物等に関する技術伝承を中心に調査を行い、資料を収集する。(④と一体で実施)	②-イ 無形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に關し、以下の課題に重点的に取り組む。 ア 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、報告書を平成22年度に刊行することを目指して、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究し、美術史研究の資料学的基盤を整備、確立して、国内外の研究交流を行う。	②-イ 東アジアの美術に関する資料学的研究 (1) 情報資料の収集のための調査：横山大觀『山路』の調査。 (2) 美術史研究のためのコンテンツの形成：『日本絵画史年紀資料集成 十五世紀』のデータ入力。古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。 (3) 研究会の開催：『美術研究』400号、『美術史論壇』30号記念日韓共同シンポジウム「人とモノの「力学」—美術史における「評価」」の開催。 (4) 研究成果報告書の編集・刊行：『日本絵画史年紀資料集成（15世紀）』の刊行。	A	順調
				②-イ 近現代美術に関する総合的研究	A
4121	イ 我が国における近現代美術の歴史を解明するために、日本の近現代美術に関する	③-イ 美術の保存・修復・活用に関する調査研究 ④-イ 無形文化財の保存・活用に関する調査研究	③-イ 美術の保存・修復・活用に関する調査研究 ④-イ 無形文化財の保存・活用に関する調査研究	A	順調
				④-イ 無形文化財の保存・活用に関する調査研究	A
4122	イ 我が国における近現代美術の歴史を解明するために、日本の近現代美術に関する	④-イ 美術の保存・修復・活用に関する調査研究 ⑤-イ 無形文化財の保存・活用に関する調査研究	④-イ 美術の保存・修復・活用に関する調査研究 ⑤-イ 無形文化財の保存・活用に関する調査研究	A	順調

	る研究資料を収集、整理し、総合的な視点に基づく研究手法を開発するとともに、多様化する現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を形成する。	
4123	ウ 美術の創作のプロセスを解明して、美術や文化財に対する理解を深めるために、報告書を平成22年度に刊行することを目指して、文化財に関する諸分野と連携しながら、基礎的なデータを収集、蓄積し、制作過程や技法、材料の歴史的変遷を明らかにする調査研究を行う。	未公刊資料の調査研究として、黒田清輝関連資料、笛木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進め、既刊の『日本美術年鑑』所載データをウェブ上に公開するための準備を行った。資料にもとづく研究協議、成果公開としては、黒田記念館にてデジタルコンテンツ「写真で見る黒田清輝の日常」を作成し公開した。 ②-ウ 美術の技法・材料に関する広領域的研究 本研究は美術作品が基盤としている材料・技法・制作の過程等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱活乾漆像の技法についてこれまでの調査研究成果をまとめた報告書を刊行した。また、ホームページ上で公開している奈良時代史料にあらわれた彩色語彙についてのデータベースを再点検し、精度の向上をはかった。
4124	エ 日本の歴史、文化の源流等の実態を探るために、古都所在の寺社や旧家が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、興福寺、東大寺、仁和寺、大宮家等の所蔵資料の原本調査、記録作成を実施するとともに、これまで調査してきたデータを整理し、得られた成果の一部を公表する。	②-エ 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 石山寺については、昨年度からの調査成果に基づいて、石山寺一切経の大智度論に関する論稿を公表できた。奈良時代の知識経として著名なものだが、後世に数種類の經典を取り合わせて現在の姿になったものを、詳細に調査することにより、その取り合わせ状況を明確にできた。また平城宮周辺等の旧家・自治会等が所蔵する資料の調査を進め、江戸時代から明治時代の平城宮跡の状況、その保存運動に関する資料を収集・公表できた。
4125	オ わが国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の諸構法についての再検証を行い、得られた成果を整理する。	②-オ 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像をデジタルデータ化し、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する研究を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査をおこなった。
4131	③ これまで行ってきた無形文化財の伝承実態に関する調査研究をまとめて報告書を刊行する。無形文化財に関する音声・映像記録に基づいて公開講座として発表するほか、能楽・雅楽における楽器、能楽の資料調査、文楽における美太夫節曲節資料の調査を行う。また、伝統芸能の中で伝承の変化の著しい謡曲、講談の記録作成を行う。 工芸技術については技法書や映像資料等の収集を行い、その調査を行う。また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、韓国をはじめとする近隣諸国との研究交流を実施する。 ④ 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等について、平成22年度は、無形民俗文化財の現代における伝承実態、伝承組織、公開のあり方等について、現地調査公開実態調査およびこれまでの現地調査の補足調査を実施し、その成果をとりまとめ報告書として刊行する。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、無形民俗文化財の映像記録についての全国的な所在情報データベースの構築を完了させる。	③無形文化財の保存・活用に関する調査研究 文化財保護委員会が作成した音声資料、戦前に開発・実用された音声記録媒体フィルモン、現在伝承されている狂言歌謡、能管の製作技法、文化財保護委員会及び文化庁が行った工芸技術記録について調査研究をおこなうとともに、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をおこない、伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室との合意書に基づき、研究員の相互派遣を実施した。5年間のまとめてとして『無形文化財の伝承に関する資料集』を発行した。 ④無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究

	承の実態、伝承組織、公開のあり方等について、平成22年度は、無形民俗文化財の現代における伝承実態、伝承組織、公開のあり方等について、現地調査公開実態調査およびこれまでの現地調査の補足調査を実施し、その成果をとりまとめ報告書として刊行する。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、無形民俗文化財の映像記録についての全国的な所在情報データベースの構築を完了させる。 ⑤ 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。 ア 平城京跡及び飛鳥・藤原京跡について、古代都城の実体解明のため本年度は以下の地区的発掘調査を実施する。 (平城京跡) 平城宮跡東院地区・東方官衙地区、平城京内諸寺院ほか (飛鳥・藤原京跡) 藤原宮跡朝堂院地区、飛鳥地域ほか	①-イ参照	
4151-1		⑤-ア-1 平城宮跡東方官衙地区(466次)の発掘調査 基壇をもつ東西棟礎石建物が南北方向に3棟築地壇を挟んで建つことが明らかになった。また周辺の地中レーダー探査により、西隣にも同様の建物配置となる遺構が存在することも判明した。さらにこれらの建物群の南北でそれぞれ宮内道路とそれに伴うと推定される築地壇を検出した。以上により、ある官衙区画の南北範囲を確認することができた。その南には掘立柱建物による別の官衙区画を検出した。また礎石建物群の下層から神龜・養老年間の木簡が出土した。	A 順調
4151-2		⑤-ア-2 平城宮跡東院地区(第469次)の発掘調査 平城宮跡東院地区の西北部にあたる調査区で、建物跡、掘立柱壇、溝を多数検出した。これらは周辺の調査成果も参照すると6期以上に区分できる。おもな遺構としては、調査区中央部を東西に流れる新旧2条の石組溝、調査区北部の周縁を溝で区画された東西棟礎石建物、推定三面廂付の東西棟建物などがある。 周辺の調査成果と比較して、建物が小規模になる点や、食器類をはじめとする大量の遺物が出土する点から、東院地区的パックヤードとしての機能が推定できる。	A 順調
4151-3		⑤-ア-3 西大寺旧境内(第473次)の発掘調査 『西大寺資財流記帳』に見える薬師堂の回廊推定地の調査。今回の調査では、回廊の痕跡は検出されず、金堂院を囲む回廊は、当地よりも南に位置する可能性が高まった。	A 順調
4151-4		⑤-ア-4 薬師寺(第474次)の発掘調査 重機により地表より約165cm掘削し、そこから作業員による掘り下げを開始した。池の埋め土とみられる暗灰褐色粘砂土層を検出し、池の岸を検出した。一部、地表から約250cmまで掘り下げて池の底の腐植土を確認した。検出遺構は、池1面、土坑6基、瓦土坑2基、東西溝1条、南北溝1条である。池の上の整地層から12世紀の瓦器皿が出土したが、各遺構の年代については不明である。	A 順調
4151-5		⑤-ア-5 薬師寺(第475次)の発掘調査	A 順調

4151-6	薬師寺休ヶ岡八幡宮における発掘調査。社殿の東側では奈良時代に開削されたとみられる段差と、この段差を埋める奈良時代の遺物包含層を確認した。出土土器は奈良時代前半のものである。また、社殿の西側では表土直下で現代の土坑4基を検出したが、明確な遺構は皆無である。		
4151-7	⑤-ア-6 薬師寺(第476次)の発掘調査 調査区は金堂前庭部分にあたり、井戸や前庭に敷かれた河原石を検出した。	A 順調	
4151-8	⑤-ア-7 春日東塔跡(第477次)の発掘調査 春日東塔院の区画施設の外側の雨落溝（L字に折れ曲がる）、落ち込み（以上、東塔建設以降の遺構）、土坑3基・礫敷1カ所（下層遺構、東塔建設以前）、なお外側の雨落溝と落ち込みの間に遺構（土坑・溝）を検出しているが、時期及び性格は不明。	A 順調	
4151-9	⑤-ア-8 平城京左京三条一坊一・二坪（第478次）の発掘調査 三条条間一小路南北側溝、左京三条一坊一坪を南北に二分する坪内道路の南北側溝、掘立柱建物2棟、井戸1基など、奈良時代の遺構を確認した。平成23年3月3日には報道発表をおこなった。	A 順調	
4151-10	⑤-ア-9 藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査 朝堂院朝庭の発掘調査を実施し、朝庭の礫敷や排水のための暗渠を検出し、朝庭における整備状況を確認した。また、下層遺構の調査では、藤原宮造営期に資材を運搬したと考えられる運河や、運河から北東方向に派生する斜行溝、資材搬入や加工に関わると考えられる沼状遺構、朝庭造営中に機能していたと推測できる東西・南北方向の複数の素掘溝を確認した。これらの変遷から、朝堂院の造営過程を復元する上で重要な手がかりを得た。	A 順調	
4152-1	イ 出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施することを目的として、平成21年度及び平成20年度以前の発掘により出土した出土遺物（木製品・金属製品・土器・土製品・木簡・瓦等）の分類分析研究及び保存処理を実施とともに遺構の研究を行う。そしてその成果の一部を『平城	⑤-ア-10 飛鳥地域の発掘調査 水落遺跡第10次調査においては、齊明朝（7世紀中頃～後半）以前、齐明朝、天武朝（7世紀末頃）の3時期にわたる遺構を検出した。齐明朝以前では掘込地業および土器埋設遺構、齐明朝には施設群の地固めのための南北48m以上に及ぶ掘込地業、そしてその内部に設けられた様々な施設（壺地業、東西棟建物、銅管や木樋を設置するために掘られた素掘溝など）、北側の石神遺跡から通路状に続く石敷などを確認した。	A 順調
		⑤-イ-1 平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等 本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面・写真の作成などの基礎作業を行い、平成23年刊行予定の『奈良文化財研究所紀要2011』の報告を準備した。併せて、昨年度以前	A 順調

	宮発掘調査報告』、『平城宮整備報告』等として刊行する。	
4152-2		の発掘調査で出土した遺物についての調査を継続して実施した。また、『天平びとの声を聞く—地下の正倉院・平城宮木簡のすべて』を開催した。
4153	ウ 飛鳥・藤原京・平城京などの古代都城の解明に資するために、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。	⑤-イ-2 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品・瓦壇類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。
4154	エ アジアにおける古代都城遺跡・生産遺跡・墓制及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（唐三彩窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、隋唐墓に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日本の古代都城並びに韓国古代王京に関する韓国国立文化財研究所との共同研究を協定に基づいて実施する。そして、その成果の一部を『漢長安城桂宮発掘調査報告』『華義白河窯の考古新発見』、『日韓文化財論集II』として刊行する。	⑤-ウ 飛鳥・藤原京・平城京などの古代都城の解明に資るために、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する 第14回古代官衙・研究集落研究集会を開催（12/10・11）した。テーマは「古代官衙・集落と鉄」である。事例紹介のほか、自然科学的手法や文献資料からの分析が報告され、これらを踏まえての活発な討論がおこなわれた。 昨年度実施した研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告4号官衙と門』（論考編・資料編）として刊行した。
4155	オ 平安時代庭園に関する調査・研究の一環として、平成22年度は平安時代中期・後期の発掘遺構・現存庭園・史料等について情報収集・調査を行うとともに、平成18年度からの研究成果を『古代庭園研究II』（学報）として取りまとめる。	⑤-エ アジアにおける古代都城遺跡・生産遺跡・墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 A：漢魏洛陽城3号門、西南隅で合計2800m ² の共同発掘を実施。漢長安城桂宮の発掘報告書、奈良文化財研究所・中国社会科学院考古研究所編『漢長安城桂宮』奈良文化財研究所学報第85冊（2011.3）を刊行した。 B：遼寧省における隋・唐代墓出土品についての調査成果の取りまとめを実施。玉田芳英「中国河南省文物考古局との共同研究」『奈良文化財研究所概要2011』を刊行予定。 C：河南省および陝西省で生産した唐三彩の調査研究を実施。 D：日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成と発展過程に関する共同研究を実施。『日韓文化財論集II』奈良文化財研究所学報第87冊、奈良文化財研究所・大韓民国国立文化財研究所（2011.3）を刊行した。 ⑤-オ 庭園に関する調査研究 平安時代の庭園・建築・文献等の研究に取り組んでいる研究者とともに検討会を開催し、その成果を踏まえつつ、平成18年度以来実施してきた『平安時代庭園に関する研究』について取りまとめ、奈良文化財研究所学報第86冊『平安時代庭園の研究（古代庭園研究II）』を刊行した。また、日本庭園に関する国際的な情報発信検討の一環として『Japanese Garden Dictionary』の校訂を進めた。さらに、森羅・村岡正・牛川喜幸の庭園等関係研究資料について、整理・調査するた

4156	<p>カ 飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、鋳造関連遺物を中心とした資料の調査を行うとともに、河南靈井遺跡出土品の研究に協力する。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺出土部材の研究を行う。</p> <p>⑤一カ 東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究 飛鳥地域の壁画古墳の研究としては、天文図を中心に研究を進め、関連文献の収集、高松塚・キトラ両古墳の天文図の比較、成田市稻荷山遺跡出土七星刀の調査などを実施した。 東アジアにおける工芸美術史・考古学研究のうち、鋳造関連遺物の調査は、藤原京出土の資料に關し、集成と調査を行った。靈井遺跡出土品の研究協力は、成果の一部を企画展で示した。また、来日した河南省文物考古研究所ほかの研究者と同行し、東北大学、明治大学等での調査をおこなうとともに、内外の学会、シンポジウムで報告をおこなった。 山田寺出土部材については、経年的に計測調査をおこなっており、本年も計測を継続した。その結果、大きな変化がないことを確認した。</p>	A	順調
4161	<p>⑥ 遺跡の保存・整備・活用に関する一體的な調査・研究・技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に対応した適切な保存修復・整備の向上に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。</p> <p>ア 遺跡の調査・保存・整備計画段階から整備後における管理・運営と公開・活用に至るまでの調査研究を行うとともに、遺構の露出展示を伴う整備事例の資料収集・現地調査を踏まえたデータベースを構築し、遺構露出展示に関する調査研究の成果を報告書として取りまとめる。また、遺跡の総合的マネジメントに関する研究集会を開催する。</p>	A	順調
4162	<p>イ 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術ならびに監視技術の開発的研究の一環として、遺跡の水分状態や石材の劣化状態を把握する技術の応用研究、平城宮跡遺構展示館等における遺構安定化の実地試験に取り組む。</p>	A	順調
4163	<p>ウ 平城宮跡・藤原宮跡について、公開活用及び整備の具体的方策を研究し、文化庁が行う平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関して、専門的・技術的な援</p> <p>⑥一ア 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 遺跡等における遺構露出展示について、個別事例の情報収集をおこない、データベース構築の作業を進めるとともに、露出展示遺構の保存管理に関するマニュアルの検討をおこなった。また、過年度の成果について、『遺跡内外の環境と景観～遺跡整備と地域づくり』〔平成21年度遺跡整備・活用研究集会（第4回）報告書〕を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。第5回遺跡整備・活用研究集会「地域における遺跡の総合的マネジメント」を開催した。</p> <p>⑥一イ 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究 遺構の露出展示をおこなった場合の水分移動変化、および塩類による劣化を予測するために、水分移動および溶質移動の推定をおこなった。さらに、塩類による土質遺構の劣化を抑制するために、水による溶質除去の可能性についても検討した。</p> <p>覆屋を伴わない屋外に位置する遺構において、気象台による限定的な気象観測データ（気温、湿度、日射量、降水量、風速）をもとに、遺構表面からの水分浸潤量および蒸発散量を推定し、土中における水分移動について検討をおこなった。</p> <p>⑥一ウ 文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言</p>	A	順調

	<p>助・助言を行う。文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。</p>	<p>昨年度に完成した第一次大極殿正殿の完成記録写真撮影をおこなった。また4月24日に開幕した平城遷都1300年祭の準備のため、大極殿正殿内の展示の内容等について援助・助言をおこなった。1300年祭開催期間中は、各方面からの来訪者への対応、あるいは見学者の質問等の応対をおこなった。開催中あるいは開催後はイベント用の仮設建物の建設・撤去や旧状復旧にともなう工事に対する立会をおこなった。</p> <p>それとともに、平城宮跡の国営公園化にともない、第一次大極殿を中心とした大極殿院内の諸建物を復原することとなった。このための文献資料や発掘遺構等の検討をおこない、またそのための資料収集のほか、類例を抽出して調査をおこなった。検討成果は国土交通省が組織した「第一次大極殿院建造物復原整備検討委員会」で発表した。</p>	
--	--	--	--

(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

【中期目標】 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】			
(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ①光に対する物性を利用して高精細デジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現することを目指す。 ②小型可搬型機器の開発及び応用研究を行い、文化財の材質調査をその場で行えるようにする。また、有機化合物の物質同定を目的とした新規手法の検討及びその応用研究を行い、金属文化財や顔料など無機化合物に関する元素分析及び構造解析手法の確立等を目指す。 ③遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究会等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。 ④木質古文化財の年輪年代測定法等を進め、考古学・建築史・美術史の研究に資する。 ⑤遺跡出土の動植物遺体や古土壤の考古科学的分析により、過去の生業活動の解明と環境復元を行う。				
4211	<p>年度計画</p> <p>(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ①光に対する物性を利用した高精細デジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現し、公開することを目指して、調査・研究を行う。</p> <p>(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ①光に対する物性を利用した高精細デジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現し、公開することを目指して、調査・研究を行う。</p>	<p>主な実績</p> <p>自己評価</p> <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>中期</td> </tr> </table>	年度	中期
年度	中期			

		共同研究成果を『平等院鳳凰堂調査資料目録—螢光線画像編』として刊行した。また、奈良国立博物館との共同研究成果を『大徳寺五百羅漢図報告書』として刊行した。さらに、他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現駿記絵巻」の調査撮影、奈良国立博物館との共同調査研究として「信貴山縁起絵巻」、徳川美術館との共同研究として「歌舞伎図巻」「本多平八郎姿絵屏風」の調査撮影を行った。		
4221	② 可搬型螢光X線分析装置による彩色文化財の材質調査を推進するとともに、有機染料分析のための光学的調査方法の基礎的検討を行う。また、文化財の材質構造に関する調査・助言を行う。	② 文化財の非破壊調査法の研究 螢光X線分析装置、反射分光分析装置、デジタル顕微鏡さらにはX線透過撮影装置など複数の可搬型調査機器を用いて、博物館・美術館等の所蔵作品の材質・構造の非破壊調査を実施した。また、これら調査技術の高度化を目指して、さまざまな検討を行い、実資料への適用を行った。	A	順調
4231	③ 遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。 ア 官衙関連遺跡及び寺院遺跡の資料収集を行い、その指標や基本的属性分析を踏まえた資料のデータベース化を推進し、適宜一般公開する。	③-ア 遺跡データベースの作成と公開 官衙関係遺跡の建物データについて、各遺跡における建物群の性格・建物の性格を細分化して追加した。とくに、官衙および都城における門遺構のデータを重点的に収集し、「官衙と門」の資料集成を刊行した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から近畿地方の一部まで公開した。さらに、井戸のデータベースを作成し、データ収集を開始した。	A	順調
4232	イ 遺跡や遺物の測量・計測・探査における新たな技術の有効利用法を研究し、実地テストをつうじたデータの収集と分析を行う。また、形状をはじめとする考古資料の情報の分析手法を開発・研究し、デジタルアーカイビング技術の導入を検討する。	③-イ 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 遺跡の測量・探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学や地方公共団体と連携して実践をおこなった。測量では、三次元レーザースキャナーおよび写真測量の技術的検討をおこない、遺跡や遺物の図化法の検討、安価で導入可能な機器の実践と普及を実施した。探査では、GPRおよびEM法の走査方法改善と新たな機器の試作、GPSによる位置精度向上実験をおこない、多様な条件下で遺構の確認に成功した。	A	順調
4241	④ 遺跡出土木材、木造建築物、木造美術工芸品などの年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究所で開発したマイクロフォーカスX線CTやデジタル画像による非破壊年輪年代測定法は、非破壊を原則とする文化財調査に大変有効であるので、実施事例の拡充を図る。これらの研究成果を、学会、学術論文、各種報告書として発表する。また、中期計画の最終年度にあたる本年度は、過去5カ年にわたる研究活動の成果について総括する。	④ 年輪年代学研究 2県下2遺跡の出土木製遺物、2県下4棟の木造建造物、3府県下3軒の木彫像に対して年輪年代測定調査を実施した。このうち、1軒の木彫像に対してプロジェクト研究者らが開発したマイクロフォーカスX線CT装置を用いた年輪年代測定調査を実施している。これらの調査・研究成果の一部を論文8件、学会発表7件として公表した。このうち、1件の学会発表ではポスター賞を受賞している。	A	順調
4251	⑤ 動植物遺存体による環境考古学的研究の継続を行う。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して実験品や出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに中国、韓国、台湾や、北	⑤ 遺跡出土の動物遺存体や古土壤の考古科学的分析による環境考古学研究 土壤選別作業を積極的に実施して、これまで出土事例の少なかった	A	順調

	米北西海岸の日本の先史時代の動植物利用と対比できる遺跡の発掘に積極的に参加し、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。	内陸部や日本海側の遺跡から動植物遺存体を回収して、分析を進めた。査読誌2本を含む30本の論文や報告書を執筆し、学会や研究会で8本の発表を行って研究成果を発表し、研究交流を深めた。藤原宮のウマに関する連携研究を立ち上げて、次年度につながる良好な成果を得た。また、研究の基礎となる現生動物骨格標本についても継続的に収集した。		
--	--	--	--	--

(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

【中期目標】国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査及び研究を実施すること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 ①生物被害を受けやすい木質文化財(社寺等建造物、彫刻など)の劣化診断や被害防止対策を確立する。 ②環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行い、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し、改善することに資する。 ③屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集を行い、文化財防災のネットワーク化の一層の推進を図る。 ④考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーX線CT・CR法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。 ⑤伝統的修復材料や合成樹脂などの物理性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修復技術に関する研修等を行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。 ⑥近代の文化遺産に特徴的な鉄、コンクリート、プラスティックなどの複合素材及び技法について国際共同研究を実施し、その成果をもとに国内所在の近代文化遺産の保存・修復に関する手法を開発する。	

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 ①生物被害を受けやすい木質文化財(社寺等建造物、彫刻など)の劣化診断や被害防止対策の確立のため、調査研究を行う。今年度に報告書を	(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進 ①文化財の生物劣化対策の研究 本年度は、日光二社一寺の歴史的建造物約70棟について、粘着トラップを	A	順調
4311				

	刊行する。	用いて木材害虫の棲息状況を調査した。その結果、これまで文化財建造物の被害例が知られていない複数のシバンムシ類が認められ、また調査結果よりこれらは周囲の屋外で棲息している可能性が示唆された。虫害の著しい建造物を調べるのにこのような調査手法が有効であることが示され、レジストグラフなどの手法を用いて建物強度などの調査が行われている。また、漆塗装のある建造物に適した殺虫処理についても検討を進めた。調査、検討結果は、研究報告会で専門家、関係者に報告し、今後取り組むべき課題と問題点を明らかにした。『日光の歴史的建造物において粘着トラップ（エトトリボン）に捕獲された甲虫の集計方法と調査結果』『保存科学』50(2011.3)、『日光の歴史的建造物を加害するシバンムシ類の殺虫処理方法の検討』『保存科学』50(2011.3)を刊行した。		
4321	② 環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行う。今年度に報告書を刊行する。	②文化財の保存環境の研究 本年度も、文化財展示・収蔵施設の環境調査を行うと共に、熱・換気回路網計算プログラムによる解析や三次元熱流体解析システムによる気流シミュレーションを行い、環境改善に関する研究を行った。博物館施設の環境に関する研究については、新築の九州歴史資料館を調査対象として、内装材料が福岡県八女産の杉、熊本県小国産の杉、無機質系調湿材、のあわせて3種類の内装材料で構成される収蔵庫をモデルとして、各種計測評価方法の比較試験、および内装材料による空気質の違いについて検討した。文化財の保存環境に関する研究会を3回開催した。『文化財の保存環境の研究 平成18~22年度研究成果報告書』(2011.3)を刊行した。	A	順調
4331	③ 韓国と日本国内の石造・木質文化財調査を行い、磨崖仏などの劣化要因究明及び修復材料・技術の開発を日韓共同で行う。また、東大寺法華堂及び戒壇堂安置仏像群の防災体制に関する基礎的調査を行う。さらに、文化財防災情報システムを活用した防災体制の整備に関する調査研究を進める。	③-1 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境計測を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)白杵磨崖仏における劣化要因の解明および劣化防止対策を含めた保存管理計画の提案、(2)厳島神社における木材充填材の現地曝露試験、(3)大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、共同研究発表会等を実施した。	A	順調
4332		③-2 文化財の防災計画に関する調査研究 平成22年度は、(1)東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像(戒壇堂所在)の耐震対策を講ずるため、対象となる仏像の三次元計測、重心など三次元計測から得られた情報を用いた地震時軸倒予測を継続した。また、仏像模型を使った振動台実験を三重大学の協力のもと行った。(2)地理情報システム(GIS)に基づいた文化財防災情報システムについて、地方公共団体における活用実験を継続した。	A	順調
4341	④ 考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーX線CT・CR法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。	④考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 1) ガラス製品の標準試料のスペクトルを集積するとともに、ガラス製造物のスペクトルを取得した。	A	順調

	ア 考古遺物の完全非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用を目指し、標準試料及び考古遺物のラマンスペクトルの収集蓄積並びにデータベースの構築を継続する。 イ 高エネルギーX線CT法及びX線CR法を応用し、考古遺物の内部構造並びに材質推定法の基礎的研究を行う。 ウ 織維製造物や漆製造物などの有機質遺物の分析法の実用化とデータベース作成を行う。 エ 木製造物に対する超臨界溶媒乾燥法の基礎的研究と実用化を目指し、強化含浸薬剤の検討並びに乾燥条件の基礎データの蓄積と検討を行う。 オ 遺跡及び遺物の保存修復の現状と課題を広く検討するため、保存科学研究集会を開催する。	2) 海洋出土鉄製造物の現状調査としてXCT撮影することにより、その劣化状態を明らかにした。 3) 木造建造物の塗装の材質分析をおこない、漆塗装、チャン塗りおよび膠彩色を明らかにした。 4) 貧溶媒真空凍結乾燥法による新規の保存処理法の開発に着手した。 5) 「古代の玉—最新の保存科学的研究の動向—」をテーマとした研究集会を開催した。		
4351	⑤ 伝統的な文化財修復材料及び関連技術の現地調査、自然科学的な分析などを行う。文化財などの修復に使用された合成樹脂の劣化状態を調査する。また、海外の文化財保存担当者を対象に、紙および紙文化財についての材料学・保存修復などの講義と、クリーニングなどの実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査及び修復を行い、修復後、展示活用する。さらに、専門家を現地に派遣して修復を行う。	⑤-1 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 漆などの塗装材料に関する調査研究では建造物における過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の実践的な施工指導に役立てた。合成樹脂のに関する調査では、過去を使用した樹脂の劣化などの問題点解決に向けた基礎実験を行った。また、研究所が所蔵する過去の合成樹脂を用いた修復事業の資料を分類整理作業では、データベースの目録作成についてはこれを終了させた。紙本絹本文化財の修復材料に関しては、裏打層の開発、表具裂見本目録の作成、和紙の調査を行った。	A	順調
4352		⑤-2 國際研修「紙の保存と修復」 2010年8月30日～9月17日の期間で10カ国から10名を迎えて研修を行った。紙本文化財の修復理念、材料学の講義を行った。実習では、掛軸修復、和絵じ冊子製作、屏風・掛け軸の取扱などを行った。またスタディツアーでは美濃を訪れ、和紙の原料・製造から流通までを和紙産地の歴史とともに学習し、和紙の抄体を体験学習した。和紙を使用した文化、紙文化財を徳川美術館、熱田神宮で見学した。修復工房を訪ね現状を観察した。	A	順調
4353		⑤-3 在外日本古美術品保存修復協力事業 平成22年度は、9館10点の作品(絵画4点、工芸品6点)を修復した。うち4点(絵画2点、工芸品2点が21年度からの継続、3点(絵画1点、工芸品2点)を海外で修復した。絵画の事前調査はケルン東洋美術館1館22点の調査を行った。また、平成21年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。	A	順調
4361	⑥ ドイツ技術博物館との共同研究に関する打ち合わせ及び欧米での修復事例調査を行う。船の科学館・手宮機関車庫などの劣化調査、かかみがはら航空宇宙科学博物館・大樹町航空宇宙実験施設などの測定データの回収と評価、日本航空協会所蔵の青焼き図面の劣化調査と資料収集を行い、再発色に関する研究を進める。	⑥近代の文化遺産の保存修復に関する研究 今年度は近代化遺産の中でも2年続けて重要文化財指定された映画フィルムや音楽テープ、ガラス乾板など音声・映像記録メディアの保存に関する関係者を招き、研究会を開催しそれぞれの立場から音声・映像記録メディアの保存と活用に関する発表、問題点の整理や解決法についての討論を行った。	A	順調

		また、設計図面などに多く使われている青図の保存に関する研究も行つた。屋外展示されている鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査している。黎明期の日本の航空機の写真データベースをホームページ上で公開した。 昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。	
--	--	--	--

(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

【中期目標】		【主な計画上の評価指標】	自己評価	
処理番号	年度計画		年度	中期
4411	<p>(4) 我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。</p> <p>① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。</p>	<p>(4) 我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。</p> <p>①-1 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(1)</p> <p>高松塚古墳では、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。天2の漆喰崩落、青龍の表層面損傷、漆喰層について、透明シートへの描き込みとデジタル化を完了した。</p> <p>キトラ古墳では4月12日～4月30日、5月10日～5月28日、10月12日～10月29日、11月8日～11月25日の4期にわたり、集中的に漆喰の取り外しを行った。ヘラ、ダイヤモンド・ワイエーソーを使用し、北壁・東壁・西壁・南壁の取り外しを行い、石室内の漆喰すべての取り外しが完了した。</p>	A	順調
4412		<p>①-2 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(2)</p> <p>文化庁が進める高松塚古墳仮整備事業や保存・活用に関する事業が円滑かつ適切に施工されるよう協力するとともに、刊行予定の『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書』に関する執筆・編集作業を行い、文化庁へ提出した。</p> <p>今年度のキトラ古墳壁画の剥ぎ取り作業を支援するとともに、今後のキトラ古墳壁画、および古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を行った。</p>	A	順調

4421	② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関して技術的に協力する。	② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	A	順調
4431	③ 国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関して技術的に協力する。	③ 国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業に関する技術的協力	A	順調

(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

【中期目標】有形文化財の収集・保管・公衆の観覧等に必要な調査研究を計画的に実施すること。		【主な計画上の評価指標】
【中期計画】		
(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究	有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。	
① 収集・保管に関する研究を実施し、有形文化財の保存に寄与する。	i 保存環境の調査研究等を実施することにより、収蔵品の保存環境の向上を図る。 ii 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域を中心に東洋全般にわたる各国固有の文化財の調査研究を実施する。 iii 収蔵品の調査研究を重視し、特に重要な項目については特別調査を実施する。また、特別展及び海外展実施に向けた事前調査を実施する。 iv トータルケアシステム構築に向けた応用研究を実施し、有形文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する。 v 修復文化財に関する調査研究を実施し、補修紙製作、剥落止め等修復方針決定に寄与する。 vi 収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究を実施し、文化財の適切な保存・展示・活用に反映させる。	
② 公衆への観覧を図るための研究を実施し、有形文化財の活用に寄与する。	②公衆への観覧を図るための研究を実施し、有形文化財の活用に寄与する。	

i 有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究を実施する。	
ii 博物館情報学を構築するための研究を実施する。	
iii 博物館教育理論の構築に関する研究を実施し、有形文化財理解の推進に寄与する。	
iv 京都文化を中心とした文化財の調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。	
v 平安仏教とその造形に関する調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。	
vi 南都諸寺等に関する計画的な調査研究を実施し、展覧会の活性化に反映させる。	
vii 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究を実施し、仏教美術の解説の充実を図る。	
viii 仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術の解明に寄与する。	
ix 日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究を実施し、これらの文化財の収集・保管・展示、教育普及事業等を展開する。	

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4511-1	(5) 有形文化財に係る調査研究 ① 収集・保管のための調査研究の実施 競争的資金の獲得に努めつつ、収蔵・寄託する文化財に関する研究、保存・展示環境の改善に関する研究を進めるとともに、次の研究課題に重点的に取り組む。 (東京国立博物館) 1) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	(5) 有形文化財に係る調査研究 ① 収集・保管のための調査研究の実施 【東京国立博物館】 1) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・考古学・博物館学の各見地から学会・研究会・学術雑誌上で各種の発表をした。	A	順調
4511-2	2) 特別調査法隆寺献納宝物（第32次）「聖徳太子絵伝」第6回	2) 特別調査法隆寺献納宝物（第32次）「聖徳太子絵伝」第6回 本年度は、国宝聖徳太子絵伝10面のうち第7面と第8面を調査対象とした。経年の劣化、補修によって判別の困難な図様の細部について明らかにできた。また、剥落や劣化などにより画の見えないところについて、現法隆寺絵伝に嵌められた吉村法眼周圭充貞の模写（天明7年＝1787）を比較検討することによって、その内容を新たに確認した。	A	順調
4511-3	3) 特別調査「書跡」第8回	3) 特別調査「書跡」第8回 当館所蔵の古写経について法量計測・写真撮影を実施し、書写された文字の筆致、巻子装の軸端や料紙の材質分析、奥書き載内容の検討により書写年代推定を行った。掛幅装や手鑑装の古写経断簡については、書写経文の検討によりその原典を可能な限り特定し、当館所蔵古写経の基礎データを整理し、その成果を東京国立博物館編『東京国立博物館図版目録古写経篇』として刊行。	A	順調
4511-4	4) 特別調査「工芸」第2回	4) 特別調査「工芸」第2回	A	順調

4511-5	5) 特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」—尾形光琳 風神雷神屏風を中心に	東京国立博物館の金工・陶磁・漆工の列品について、最新の研究結果を反映させた知見を共有することができた。特に金工調査では舍利容器の1件に新たな事実が判明し、陶磁調査では中国清朝の磁器が日本の文化や作陶に与えた影響に関する議論が深まった。漆工調査では現在では不明とされる一部の香道具の使用法について推測可能になり、その成果を東京国立博物館の展示に活用することができた。	B	ほぼ順調
4511-6	6) 特別調査「江戸幕府御用絵師板谷家関係資料」	6) 特別調査「江戸幕府御用絵師板谷家関係資料」 外部閲覧に備えた資料整理（1万点以上の資料一点ずつに枝番号タグを付し、形状別に箱に収納する）をすべて終了。この整理に平行し、絵画資料の調査、古文書の撮影・翻刻を行った。また、スタッフによる合同調査会を開き、物語絵、風景画、土佐派など各スタッフがテーマを設け、資料調査を行った。以上で得られた成果により、平成23年10月25日～12月4日に「板谷家伝来資料（仮称）」の特集陳列を行った。	A	順調
4511-7	7) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	7) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究 明治時代前期に博物館が収集した漢籍のうち、医学関係のものについて、調査を行った。 江戸時代の幕府医学館収集の漢籍とそれに関連した人物についての特集陳列を企画して展示を行った。	A	順調
4511-8	8) 博物館の環境保存に関する研究	8) 博物館の環境保存に関する研究 これまで継続して行ってきた展示、収蔵空間に存在する空気汚染物質濃度測定の結果を整理した。その結果から、東京国立博物館における空気汚染物質の許容濃度に関する暫定基準を改訂し、東京国立博物館の状況に合致する現実的な新たな基準を策定することができた。	A	順調
4511-9	9) 東洋民族資料に関する調査研究	9) 東洋民族資料に関する調査研究 東洋民族の収蔵品のうち、南太平洋の生活および宗教儀礼にかかわる代表的なものについて、形状材質の面で從来よりも詳細な調査をおこなった。その結果、形状材質の新知見を得ただけなく、一部の作品については、不詳だった制作地推定の手がかりも得ることができた。研究成果は、特集陳列「南太平洋の暮らしと祈り」（平成23年3月29日～4月24日）とリーフレットで公開した。	A	ほぼ順調
4511-10	10) 油彩画の材料・技法に関する共同調査	10) 油彩画の材料・技法に関する共同調査 平成20年11月から開始し、可能な限り月1回のペースで調査を進めてきた。調査は朝10時から午後17時まであり、1回の調査では終了しない調査もあるが、これまでのところ調査が終了した作品は、11点におよぶ、次第にデータが蓄積されているが、その中から、今年度は3点についての調査内容を発表する紀要(45号)を出版する予定である。	A	順調

4511-11	11) 萩原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究	11) 萩原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究 鋳造した原寸大ブロンズ像を用いて、2010年10月23日～12月5日までの間「明治の彫塑 ラグーザと萩原守衛」展を東京芸術大学美術館にて開催した。	A	順調
4511-12	12) 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	12) 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金) 今年度は、東京国立博物館保管の中国の木彫像、埼玉県桂木寺の迦叶如来像及び木彫像群、を調査し、美術史的基礎データ、写真データ、樹種の科学的識別のための木片資料の収集を実施した。また、京都府広隆寺の著名な2軸の菩薩半跏像の木片ブレバーントを取得するなど貴重なデータを収集することができた。また、当該研究の蓄積による研究成果の一部を研究論文としてまとめることができた。	A	順調
4511-13	13) 目録学の構築と古典学の再生	13) 目録学の構築と古典学の再生(科学研究費補助金) 館蔵の古典籍、特に国宝「九条家本延喜式」に関する調査研究を行った。 館蔵の古筆切類について、古典籍学的な視角から調査を行った。	A	順調
4511-14	14) 原三溪旧藏近代絵画・彫刻に関する基礎的研究	14) 原三溪旧藏近代絵画・彫刻に関する基礎的研究 プロジェクト責任者が、平成22年7月31日付で退職したため、年度実績なし。	F	
4511-15	15) 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究	15) 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金) これまでに集積した各種データを、博物館の空間と関連付けながら保管・検索することが可能な管理分析サブシステム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」を構築してきたが、本年は館内に約50か所配置した温湿度センサー及び所在管理のための2次元バーコードを用いたセンサーサブシステム、収蔵品管理のために館内すでに開発済みの列品検索データベースシステム(プロトDB)とのネットワークを構築し、各種データを統合的に扱うことが可能になった。	A	順調
4511-16	16) 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究-「正倉院裂」を中心-	16) 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究-「正倉院裂」を中心に-(科学研究費補助金) 撮影した各作品のデジタル画像について、個々に番号を付けるとともに、各作品については、現状、法量、品質、技法、文様染色、用途等についての詳細を記録化する作業を継続した。 東博が所蔵する上記の正倉院関係資料についても、デジタル写真撮影を継続し、詳細なデータを収集した。	A	順調
4511-17	17) 文化財保護の歴史に関する基礎的研究	17) 文化財保護の歴史に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 東京国立博物館が収蔵する文化財保護に関する作品や資料について、展示履歴などの情報を参考にして作成した調査対象リストをもとに、デジタルカメラによる記録撮影やスキヤニングによるデータ収集を行った。また、海外の博物館との交流にともなって海を渡った内外の資料に関連して、作品および当時の記録類などの調査を実施した。	A	順調
4511-18	18) 高度な復元作業のための制作空間の情報化	18) 高度な復元作業のための制作空間の情報化(科学研究費補助金) 昨年度に調査、データベース化した職人の制作空間に関する映像と取得した3Dデ	A	順調

4511-19	19) 狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究	ータ(高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究:代表佐藤雅彦)について調査検討し、実際に閲覧デバイスの設計と実装をおこなった。 19) 狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究(科学研究費補助金)	A	順調
4511-20		昨年度、予定していた「法隆寺什物図」の調査とデジタル撮影を終えたことを踏まえ、本年度は東京国立博物館が所蔵する狩野家模本類のうち、「法隆寺什物図」の研究にも重要と思われる作品を選別し、2月1日現在「高野山学僧宝蔵古器及楽装束図」をはじめとする37点を撮影した。また、養信自筆の「公用日記」について、法隆寺什物の模写に関する記事を探し、該当部分を翻刻した。昨年整備した「模写された宝物の一覧表」と「画中の墨書翻刻」については点検の上で手直しをし、論文に付して発表するために適した状態にした。以上の成果は調査報告としてまとめ、2011年4月発行の『MUSEUM』631号に発表する。	A	順調
4511-21		20) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(科学研究費補助金) 装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、展示履歴等によって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリストを作成した。国内では、東京国立博物館・九州国立博物館・三の丸尚蔵館等、海外ではフランスの国立図書館、アメリカ・クリーブランド美術館等に収蔵されている作品について、デジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する調査を実施した。	A	順調
4511-22		21) 中国書画の表装に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 『歴代名画記』唐・張彦遠などの中国歴代の文献から、書画の表装に関する記載を収集・整理した。また、北京故宮博物院・香港中文大学文博館・京都国立博物館・大阪市立美術館・五島美術館・三井記念美術館・東京国立博物館に所蔵される主として中国の書画を調査し、表装の諸データおよび画像データを収集した。	A	順調
4511-23		22) 清時代末期の訪中調査における写真資料に関する調査研究(科学研究費補助金) 東京国立博物館が所蔵する『支那写真帖』に添付される山東地方の写真をもとに、現地で実地調査を行ない、撮影された場所の特定と現状との比較を行なった。調査の過程で、これまで不明であった撮影地を特定することができ、明治時代に行なわれた考古、美術、建築、金石と幅広い分野に渡る訪中調査の一端を確認することができた。	A	順調
4511-24		23) 占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究(科学研究費補助金) 本研究は、博物館関係文書データベース構築のためのCIE文書の調査を行った。 文書検索は国立国会図書館が資料選別のため付けた分類記号(十進分類)及び分類記号ごとの文書目録(荒牧、内海愛子、林博史『国立国会図書館所蔵 GHQ/SCAP 文書目録』全11巻)を手がかりに、本研究に該当する文書を探し出し、和訳を行い、データを蓄積した。 24) 宮廷工芸に関する物質文化的研究—生活感のある工芸史の構築をめざして—(科学研究費補助金) 本年度は、本研究の基本資料となる東京国立博物館蔵『旧儀式図画帖』の内容研究を行なった。それとともに同図画帖の関連史料となる宮内庁書陵部蔵『公事録』その	A	順調

4511-25		他の文献を複写し、その内容を検討した。また京都葵祭に赴き、その祭礼に関する調査を行なった。 29) 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金） 本年度は、当館に所蔵される日本で最初の小袖コレクションである野口彦兵衛旧藏コレクション、及び、洋画家・岡田三郎助が蒐集した小袖および小袖裂コレクションの内、現在埼玉・遠山記念館に所蔵されている未公開分を含む染織資料を調査し、明治後期から大正初期にかけて蒐集された古日本染織コレクションのデータを集積し、その傾向等の分析を行なった。	A	順調
4511-26		26) 東京国立博物館所蔵古文書データベース（科学研究費補助金） 博物館が所蔵する古文書の内、B1715 伏見天皇詔旨（1幅）、B1738 足利尊氏御判御教書（1幅）、B1739 織田信長朱印状（1通）、B1740 徳川家康朱印状（1通）、B1972 前田利家朱印状（1通）、B3175 豊臣秀吉朱印状（1通）、B1746 江戸幕府老中奉書（1通）、B3045 藤原為氏自筆譲状（1通）、B1768 徳川幕府朝鮮国王往復書翰（62通）、B1769 徳川幕府琉球往復書翰模本（48通）、B1878 民政裁判所触書（1通）、B1879 会計官民政所触書（1通）等。	A	順調
4511-27		27) 東京国立博物館所蔵印譜データベース（科学研究費補助金） 小林斗盦（庸浩）氏寄贈による懷玉印室コレクションのうち中国古銅印譜について撮影を行いデータを入力した。 平成 22 年 10 月から「東京国立博物館情報アーカイブ」(http://webarchives.tnm.jp/archives/)において、東京国立博物館所蔵印譜 WEB データベース」として公開を開始した（平成 23 年 2 月現在、15,527 画像）。	A	順調
4511-28		28) 隋唐時代の仏舍利信仰と莊嚴に関する総合的調査研究（科学研究費補助金） 中国山東省、河北省、山西省において現地調査を行い、仁寿舍利塔起塔寺院に関する多くの地理的データ及び、文献的資料を多数収集することができた。	A	順調
4511-29		29) 前方後円墳体制東縁地域における国家形成過程の研究・常陸の場合（科学研究費補助金） 茨城県かすみがうら市折越十日塚古墳（前方後円墳）の測量調査および横穴式石室の実測調査を行い、詳細な実測図を作成した。 また、3 月に茨城県小美玉市塚山古墳（円墳）の発掘調査をおこない、墳丘の確認および埴輪の詳細を調査した。	A	順調
4511-30		30) 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究（科学研究費補助金） 東京国立博物館に収蔵されている古典籍を中心に、形態、料紙などについてデータを収集した。また、料紙の製作技法に関する成果の一部を、全国漢文教育学会の『新しい漢字漢文教育』第 50 号、および第 51 号において公開した。	A	順調
4511-31		31) 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用（科学研究費補助金） 京芸術大学美術館所蔵品の立体データアーカイブ作成の研究とデジタルデータに	A	順調

4511-32		による教育としての応用研究ならびにコンピューター造形システムによる各入力プロセスの造形表現の研究を継続的に行なってきた。こうした研究におけるさまざまなデータをベースにしたレプリカを作成し、専門的な教育利用として「触れる彫刻」の研究に反映させている。今年度は研究の最終年度として鋳造した原寸大ブロンズ像を用いて、2010 年 10 月 23 日～12 月 5 日までの間「明治の彫塑 ラグーザと荻原守衛」展を東京芸術大学美術館にて開催し、好評を得た。		
4511-33		32) アジアの本地螺鈿—その源流、正倉院宝物への道をたどる—（科学研究費補助金） 正倉院宝物として残されている螺鈿器は技法的に本地螺鈿、漆地螺鈿、樹脂地螺鈿の三種に分類される。インドは東南アジアまでの東方アジアと西方アジアとをつなぐ接点でもあるが、その螺鈿技術についてはほぼ不明と言って良い。こうした状況のなか、今回調査を実施し、インドの螺鈿は、本地螺鈿と同じく象嵌技術を多用する技法と、樹脂地螺鈿のように貝文様を地に貼り付け、その段差を漆などの素材で埋めていく技法との 2 種が存在することを明らかにした。	A	順調
4511-34		33) 高精度デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究（科学研究費補助金） 本年度は、昨年度に試撮影にて使用したテックサイエンス社の Alicona 機を用いて奈良県春日大社御宝物「柏木菟腰刀」の目釘金具の撮影、計測とデータ処理を行った。また、Tesco 社 X 線 CT スキャン機器での刀身と刀装具（鐔）の撮影、計測、データ処理を行った。撮影計測結果とともに本研究で用いた治具の安全性と撮影精度、作業手順について、考察と再検証を行った。	A	順調
4512-1	(京都国立博物館) 1) 近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	34) 日本近世実景図研究 本年度は、主に東京国立博物館所蔵実景図作品を中心検討・調査を行った。その結果、日本絵画だけでなく中国絵画・朝鮮絵画を含める東アジアを視野に入れた陳列案の提示を決定した。中でも韓国国立中央博物館研究官、イ・スミ氏の協力により朝鮮絵画の調査を行なった成果は、特集陳列公開前に Museum にて報告を予定している。 【京都国立博物館】 1) 近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査 対象寺院は有名であり、過去に複数機関による文化財調査が実施されている。しかしそれぞれに新たな文化財の発見や未調査文化財が見つかってきた。その点で成果はあった。 岩船寺では未調査の金工品・陶磁器・古瓦・仏画などに見るべきものがあった。 淨瑠璃寺では本坊大日如来像の詳細な調査および工芸作品の詳細な調査を行うことができた。 海住山寺では桃山時代の屏風などに新出資料が発見された。また仏像・陶磁器・漆工芸品などに見るべき作品があり、調書をとることができた。	A	順調
4512-2	2) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究	2) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究 仏教美術研究上野記念財団の助成によって、鎌倉仏教に関する資料の調査・撮影を実施し、『図像蒐成 X II』を刊行した。	A	順調

4512-3	3) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察	3) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察(科学研究費補助金) 平成21年度に補足調査を行なった静岡建徳寺本尊の観音像についての論考を当館発行の『学叢』第32号(平成22年5月発行)に発表した。また、建徳寺で行なった調査の結果にもとづく展覧会が静岡市のフェルケール博物館で開催され(平成22年4月)、展示作業および図録作成、講演会等に全面的に協力した。また4年間にわたる研究調査の成果を集めた報告書を二篇(考察編と調査報告編)発行した(平成22年2月・23年3月)。	A	順調
4512-4	4) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究	4) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究(科学研究費補助金) 5月、7月、10月と都合3回の調査を実施し、全体180箱のうち、第161箱から第180箱までの調査を終了した。2月に最終的な研究打ち合わせ会を実施し、報告書刊行の準備を行い、度末には報告書を刊行する。	A	順調
4512-5	5) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究	5) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究 平成22年度に新規搬入された作品の「修理計画書(設計書)」にもとづき、データを入力し、平成20年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書(報告書)」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成17年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告』第6号に掲載し、修理時に発見された銘文12件を「銘文集成」として報告した。 また、平成18年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告』第7号に掲載し、修理時に発見された銘文6件を「銘文集成」として報告した。	A	順調
4512-6	6) 文化財の保存・修復に関する調査研究(奈良文化財研究所との共同研究)	6) 文化財の保存・修復に関する調査研究(奈良文化財研究所との共同研究) 長野県中野市柳沢遺跡出土の銅鐸と銅戈の材質分析から、銅鐸や銅戈のタイプ別に成分の配合比が変化していることが明らかになった。これはこれまで蓄積してきた古代青銅器の考古学的見解を科学的に検証する意味でも重要な成果である。	A	順調
4512-7	7) 近世絵画に関する調査研究	7) 近世絵画に関する調査研究 京都を中心とした風俗画研究、近世絵画に関する作家研究、作品研究については、着々と研究が進んでいる。 「狩野山楽・山雪展」(平成24年度)等について、当館連携協力室長に、作品情報をはじめ、さまざまな助言を行った。近世絵画の寄託品について、当館連携協力室長に、調査助言を行った。	A	順調
4512-8	8) 訓点資料としての典籍に関する調査研究	8) 訓点資料としての典籍に関する調査研究 貞觀十九年(877)に一校され、元慶(879)に再校して科点を加えた『華嚴經』六巻(重美、本館蔵)の白書を調査した結果、注釈書である『華嚴經探玄記』からの引用であることが確認された。また、永保二年(1082)五月の加点奥書がある『観自在菩薩如意輪瑜伽法要』(重美、本館蔵)について、その朱書の仮名や朱点を調査した。	A	順調
4512-9	9) 彫刻に関する調査研究	9) 彫刻に関する調査研究 特別展覧会「法然」出品作品に関して研究を進め、その成果を同展目録に作品解	A	順調

4512-10	10) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究	説として発表した。また、平成21年度に科研による調査を行なった、静岡県建徳寺の仏像についての考察を、当館発行の学叢第32号に執筆した。	A	ほぼ順調
4512-11	11) 近代建築に関する調査研究	10) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 当館で所蔵している仁清御室窯跡出土陶片について、平成22年度からの継続事業(西田記念東洋陶磁史研究助成事業)として行なっている実測図作成作業を引き続き実施し、130点の図化を完了した。そのほかに、泉屋博古館分館(東京)・板橋区立郷土資料館(東京)・野崎家塩業歴史館(岡山)にて伝世古陶磁、東京大学埋蔵文化財調査室・新宿区教育委員会にて出土品の調査を行い、400件あまりの調書を作成した。	A	順調
4513-1	(奈良国立博物館) 1) 南都諸寺等に関する計画的な調査研究等を実施	11) 近代建築に関する調査研究 これまでの調査の成果を踏まえて基本的な画面を比較検討するとともに、建築自体の調査を行い、並行して工事が施工された帝国奈良博物館の建築資料と宮内庁に所蔵される帝国京都・奈良博物館工事録、さらには設計の参考とされた近世以前の建築を調査し、美術としての建築の形成過程とその原状とを総合的に明らかにした。 【奈良国立博物館】 1) 南都諸寺等に関する計画的な調査研究等を実施 奈良を中心とする諸寺等への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を展示に反映させるとともに、今後の展示活動等に活用できる資料の蓄積、将来の調査に向けた調整などを実施。	A	順調
4513-2	2) 仏教美術等の光学的調査研究(東京文化財研究所との共同研究)	2) 仏教美術の光学的調査研究(東京文化財研究所との共同研究) 前年度から実施している重要文化財五百羅漢図(大徳寺藏)82幅のうち一部の画幅に対して追加の光学調査を実施し、顔料や絵網について高精細画像及び基礎データを入手した。そしてこれらの基礎データをもとに討論を重ね、本年度中の刊行を目指して調査報告書の作成を進めている。さらに、今年度から新たに当館の寄託品である信貴山縁起絵巻(朝護孫子寺藏)に対する光学調査を開始し、全3巻について高精細デジタルカメラを用いて基礎的な画像データを入手することができた。	A	順調
4513-3	3) 仏教美術写真収集及びその調査研究	3) 仏教美術写真収集及びその調査研究 当館内外の文化財の撮影を多数実施し、構造や製作技法の理解に関して貴重な情報資源となりうる写真資料を豊富に蓄積することができた。これらはデータベースに登録して管理運用するとともに、インターネットを通じて外部にも情報提供をおこなっている。今年度は本格的なデジタル撮影が可能な機器を揃え、データベースもデジタル画像対応のものにリニューアルを進めるなど、デジタル撮影を中心とした体制整備を推進することができた。なお、写真資料は特別観覧により、研究者・学術出版界・一般の利用に供している。	A	順調
4513-4	4) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	4) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館等との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究をわが国の文化財との比較という観点に立って進め、その成果を展示・図録・国際シンポジウム等に反映	A	順調

4513-5	5) 当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）	した。 5) 当館所蔵品についての調査研究(客員研究員) 新収蔵品に対する調査研究を重点的に実施し、名品展での公開と併行して研究成果を広く発信することができた。収蔵品についても継続的に調査研究を行い、その成果を展示及び刊行物などに反映することができた。長く寄託されてきたものの展示される機会がなかった作品群が、展示会場のリニューアルや作品の修理完了に伴って、多数展示されたことも本年度の成果として特筆される。	A	順調
4513-6	6) 奈良時代の仏教美術と東アジアの文化交流	6) 奈良時代の仏教美術と東アジアの文化交流 （科学研究費補助金） 平成 20 年度から 3 カ年の計画で進めてきた①蛍光 X 線分析装置による光学調査を中心とした東大寺金堂鎮壇具（国宝）についての基礎データ収集と、その体系化。②東大寺法華堂諸像の修理時に（財）美術院によって撮影された彩色文様写真の研究資料化と、これに対する文様史的検討。③館蔵及び寄託の古写経に関する基礎データの集積と料紙分析、などの調査研究を完了させ、その成果をとりまとめた研究成果報告書を刊行した。	A	順調
4513-7	7) 統一新羅期の道具瓦集成 (九州国立博物館) 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	7) 統一新羅期の道具瓦集成(科学研究費補助金) 平成 20 年度から 3 カ年の計画で、韓国国内で最も多い所蔵資料数を誇る韓国国立慶州博物館（以下、慶州博）ほか、韓国国立中央博物館や東国大学校博物館などの所蔵資料を中心に、実測や写真撮影、熟観を行い、資料化を進めてきた。 【九州国立博物館】 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究 平成 23 年 1 月 15 日より、タイ国バンコク国立博物館において、海外日本古美術展「日本とタイーふたつの国の巧と美」を開催した（～3 月 13 日）。展覧会の内容はタイ共同で構築し、両国の歴史をたどりながら、文化の共通点と差異を示すことをめざした。展示はふたつの国のはじまり、仏教、出会いというテーマで構成し、両国の文化財 107 点を展示した。また両国の伝統工芸も紹介した。	A	順調
4514-1	2) 文化財の材質・構造等に関する共同研究	2) 文化財の材質・構造等に関する共同研究 稲荷山古墳出土辛亥銘鉄劍の保存状態、金象嵌文字の調査を実施した。辛亥銘鉄劍は窒素ガス封入状態で保管されてきた。調査の際にも、辛亥銘鉄劍を窒素ガス封入したケースに入れて非接触で調査した。調査の結果、鉄劍の表裏にある 117 文字の象嵌文字を表裏分離して記録することができた。	A	順調
4514-2	3) 博物館における文化財保存修復に関する研究	3) 博物館における文化財保存修復に関する研究 吉備国際大学から 2 名、九州産業大学から 1 名、別府大学から 1 名の合計 4 名が参加した。少人数のため、実践的な研修が実施できた。	A	順調
4514-3	4) 博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究	4) 博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究 研修会は、全国の美術館・博物館の学芸員の参加が大半を占め、ミュージアム IPM の関心の高さがうかがえた。また美術館・博物館でのミュージアム IPM 取り組みについての意見を聞け、今後のミュージアム IPM 支援者育成プログラム案策定に充分活かすことができ、来年度の研修を具体的に進める目途が得られた。	A	順調

4514-5	5) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCO との共同）	公開シンポジウムでは市民の活動報告と専門家の講演、また意見交換会では専門家の意見交流の場となり、昨年度より充実した内容となり、市民の理解を深めることができた。 5) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究(UNESCO との共同) 中国においては UNESCO との共同調査により、甘肃省博物館にて第 4 回紙文化財保存修復国際シンポジウムに参加すると共に、漢時代の出土紙文化財について調査した。 日本においては、高知（2 市町）、山口、島根（5 市町）、岡山の手漉き和紙製作現場 9 市町を調査した。 昨年度までに調査して得た調書、映像記録を総括した。	A	順調
4514-6	6) VR 画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築	6) VR 画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築(科学研究費補助金) 今年度の研究では、装飾古墳のうち大阪府高井田横穴墓の 3 基を対象とした。その結果、本研究によってデジタルアーカイブされた装飾古墳の総数は、石室 12 基・横穴墓 9 基に達し、近畿地方ではじめての VR データが成功裏に作成された。また、日本の装飾古墳を海外の事例と対比するため、イタリア中部のコトリア彩色壁画墓の実地調査も行なった。また、昨年度に引き続き報告書の作成も継続している。	A	順調
4514-7	7) トルキ山塗墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術	7) トルキ山塗墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術(科学研究費補助金) 内蒙古自治区の諸機関所有の唐代文物の特別展を台北故宫が開催したため、これまでの調査期間中に観察できなかった作品について調査した。 内蒙古文物考古研究所、内蒙古博物院、新築移転した赤峰博物館はじめ巴林右旗博物館など各地で現地調査を実施し、新知見を得た。 共同研究者である内蒙古関係者を招へいし、中尊寺に代表されるわが国平安時代浄土教仏教美術作品を調査するとともに、当館において国際シンポジウム「契丹帝国（遼王朝）の美術と文化」を開催し、共同研究の成果について一般市民向けに発信した。	A	順調
4514-8	8) 室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究	8) 室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究 本年度は当該テーマについて次の二つの観点から研究し、下記の成果を得た。 (1)新出の觀音図（個人蔵）などを調査し、中国絵画に依拠して絵画を制作した室町時代の水墨画家に関する基本資料を收集した。 (2)室町時代の仏教絵画に注目し、とくに雪舟の觀音変相図を考察し、発願者や造像の意図などについて知見を得た。	A	順調
4514-9	9) 塗輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究	9) 塗輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究(科学研究費補助金) 古墳時代以前の赤色顔料には朱とベンガラが知られており、塗輪ではこの二種類の赤色顔料が使い分けられることが多い。今回対象とした塗輪に認められる赤色顔料は、從来目視によりベンガラが多いとされてきたが、本研究から科学的にもベンガラであることが確定した。さらに出土ベンガラには直径 1 μm のパイプ状粒子を含むベンガラを用いる地域と、これを含まないベンガラを用いる地域があることがわかった。	A	ほぼ順調

4514-10	10) X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	<p>10) X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金） 泉屋博古館の所蔵品を中心にX線CT、精密三次元計測機、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この成果を基に、伝統的な鋳造技術者に協力を得て、鋳造実験を実施した。さらに、研究成果を内外の研究者に公開して研究会を実施した。</p>	A	順調
4514-11	11) アジアの木地螺鈿—その源流、正倉院宝物への道をたどる—	<p>11) アジアの木地螺鈿—その源流、正倉院宝物への道をたどる—（科学研究費補助金） ベトナムでは、今までの調査であり情報を得ていなかった螺鈿用の貝素材加工等について、特に具体的な情報を得ることができた。また、インド調査は現在螺鈿制作が比較的盛んにおこなわれているインド西北部、特にウダイプールの工房を中心調査を行い、現代インドにおける螺鈿制作技術を中心とした情報が得られた。なお、成果の一部を九州国立博物館研究紀要『東風西声』第6号にて論文発表した。</p>	A	順調
4514-12	12) 五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究	<p>12) 五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究（科学研究費補助金） 十六国時期から北朝早期の古墓の年代については、きわめて流動的な状況にあつた。本研究は、出土陶俑の諸要素を整理するなかで、当該時期の古墓の年代について一定の見解を得ることが出来た。また、5世紀前半に華北を領有した北魏政権の文化は、十六国時期の諸政権の制度や文化と密接な関係があると判断するに至った。</p>	A	順調
4514-13	13) 海の東アジアが醸成した貝と漆の文化‘螺鈿’の再発見—その共通性と多様性を探る—（トヨタ財団研究助成）	<p>13) 海の東アジアが醸成した貝と漆の文化‘螺鈿’の再発見—その共通性と多様性を探る—（トヨタ財団研究助成） 韓国の調査は、沖縄の螺鈿職人と共に韓国人の人間国宝ほかの工房を訪問調査し、韓国螺鈿技術と沖縄のそれとの比較を含めた検討などを行った。タイでは、基調講演のほか、バンコク近郊の国営および民間螺鈿工房を訪問し、タイの螺鈿制作技術について調査した。また現在、ほとんど制作者がいない沖縄の伝統螺鈿制作について、宮城清氏の制作過程を一貫して撮影し、現在その編集作業を行っている。</p>	A	順調
4521-1	②公衆への観覧を図るための研究 特別展、特別陳列等の展示の対象となる文化財の調査研究を行い、展示に反映させるほか、次の研究課題に重点的に取り組む。 (東京国立博物館) 1) 博物館環境デザインに関する調査研究	<p>②公衆への観覧を図るための研究 【東京国立博物館】 1) 博物館環境デザインに関する調査研究 展示デザインのクオリティを向上させるための設計技術や、そのデザインアイデアを実現し、維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、過去の事例や、他館における具体的事例を調査した。 また以上の調査にもとづき、当館においていかなるシステムでの導入・実施が可能かを検証し、実現可能なものについては館内の展示において実施した。</p>	A	順調
4521-2	2) 博物館教育に関する調査研究	<p>2) 博物館美術教育に関する調査研究 本館20室「みどりのライオン」での博物館ガイドンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は年間で10万人を超える利用者があり、当館における博物館教育</p>	A	順調

4521-3	3) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	<p>プログラムとして定着している。鈴木はこのプログラムを博物館教育の見地から調査研究し、口頭および論文で発表を行った。</p>	A	順調
4521-4	4) 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する。	<p>3) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能の各機能を継続的に運用し、課題を抽出するとともに随時改善を重ねて性能向上を図った。また、修理関連業務の支援として、鑑査会議管理機能における修理関連機能の運用を開始し、文化財収蔵所環境情報管理システムとの連携を図った。</p>	A	順調
4521-5		<p>4) 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究 「洛中洛外図 舟木本」のデータをもとにした、新しいシナリオ 2 件（「京の政」「京のかぶき」）を作成し、平成 23 年 1 月から公開している。</p>	A	順調
4522-1	(京都国立博物館) 1) 文化財情報に関する調査研究	<p>5) 博物館をみんなのものに～視覚障害児童・生徒へのスクールプログラム～ハンズオンとワークショップを中心に 盲学校教員と有識者による委員会において、ハンズオン教材とプログラム開発の実施、パリアフリー対応のボランティアに対する研修会と連携盲学校を対象とした実践を継続的に行っている。今後、盲学校対応のためのスクールプログラムの冊子を作成し、全国盲学校教員に向けた研修会を実施することで、次年度以降の本格受け入れにつなげる計画である。</p>	A	順調
4522-2	2) 特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けて、寺院所蔵品の調査研究を行う。	<p>【京都国立博物館】 1) 文化財情報に関する調査研究 文化財情報システムの問題点を整理し、運用ソフトを全面的に更新 既存の収蔵品高精細画像のファイリングシステムを構築 ウェブサイトのコンテンツ充実のための検討</p>	A	順調
4522-3	3) 特別展覧会「中国の書画」に向けて、旧上野コレクションと関連作品の調査研究を行う。	<p>2) 特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けての調査研究 ①調査の過程で、南北朝時代を代表する禪僧である夢窓疎石所用の袈裟（天龍寺蔵）を見いだし、各種メディアにて報道された結果、袈裟についての关心を喚起した。 ②特別展覧会「高僧と袈裟」を開催し、日本に伝えられた中世染織の豊かさを広く紹介するとともに、調査データ・織組織分析用語集・論文を盛り込んだ日英二ヶ国語表記による展覧会図録を作成した。 ③日本・韓国・中国の研究者による国際シンポジウムを開催し、国際的な学術交流を実現した。</p> <p>3) 特別展覧会「中国の書画（仮）」にむけて旧上野コレクションと関連作品の調査研究を行う。 上野コレクション中の作品を検討し、特別展覧会に出陳すべき作品を選定し、補完すべき作品の検討を行った。これに基づき、他に所蔵される作品の調査を行い、撮影も実施した。その結果、上野コレクションから 40 件、新収品 1 件を含む館蔵品が 29 件、上野家所蔵品 18 件、個人蔵や他機関の所蔵品が 26 件、合わせて 113 件の作品を</p>	A	順調

4522-4	4) 特別展観「上田秋成」の開催に向けて、日本近世文学会と共同で調査研究を行う。	5) 特集陳列「園田湖城」の開催に向けて、篆刻資料の調査研究を行う。	6) 特別展覧会「法然」の開催に向けて、浄土宗寺院所蔵文化財の調査研究を行う。	7) 特別展覧会「細川家の至宝」(平成23年度)の開催に向けて永青文庫と共同で関連作品の調査研究を行う。
4522-5	4) 特別展観「上田秋成」の開催に向けて、日本近世文学会と共同で調査研究を行う。	5) 特集陳列「園田湖城」の開催に向けて、篆刻資料の調査研究を行う。	6) 特別展覧会「法然」の開催に向けて、浄土宗寺院所蔵文化財の調査研究を行う。	7) 特別展覧会「細川家の至宝」(平成23年度)の開催に向けて永青文庫と共同で関連作品の調査研究を行う。
4522-6	4) 特別展観「上田秋成」の開催に向けて、日本近世文学会と共同で調査研究を行う。	5) 特集陳列「園田湖城」の開催に向けて、篆刻資料の調査研究を行う。	6) 特別展覧会「法然」の開催に向けて、浄土宗寺院所蔵文化財の調査研究を行う。	7) 特別展覧会「細川家の至宝」(平成23年度)の開催に向けて永青文庫と共同で関連作品の調査研究を行う。
4522-7	4) 特別展観「上田秋成」の開催に向けて、日本近世文学会と共同で調査研究を行う。	5) 特集陳列「園田湖城」の開催に向けて、篆刻資料の調査研究を行う。	6) 特別展覧会「法然」の開催に向けて、浄土宗寺院所蔵文化財の調査研究を行う。	7) 特別展覧会「細川家の至宝」(平成23年度)の開催に向けて永青文庫と共同で関連作品の調査研究を行う。
4522-8	4) 特別展観「上田秋成」の開催に向けて、日本近世文学会と共同で調査研究を行う。	5) 特集陳列「園田湖城」の開催に向けて、篆刻資料の調査研究を行う。	6) 特別展覧会「法然」の開催に向けて、浄土宗寺院所蔵文化財の調査研究を行う。	7) 特別展覧会「細川家の至宝」(平成23年度)の開催に向けて永青文庫と共同で関連作品の調査研究を行う。
4523-1	(奈良国立博物館) 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を特別展「大遣唐使展」、「仏像修理100年」並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」、「お水取り」及び本館の仏像展示に反映させる。	(奈良国立博物館) 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を特別展「大遣唐使展」、「仏像修理100年」並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」、「お水取り」及び本館の仏像展示に反映させる。	(奈良国立博物館) 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を特別展「大遣唐使展」、「仏像修理100年」並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」、「お水取り」及び本館の仏像展示に反映させる。	(奈良国立博物館) 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を特別展「大遣唐使展」、「仏像修理100年」並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」、「お水取り」及び本館の仏像展示に反映させる。

4523-2	2) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果、及び当館所蔵品についての調査研究成果を生かし、本館仏像展示や平常展の充実を図る。	「大遣唐使展」「仏像修理100年」「おん祭と春日信仰の美術」「お水取り」に関連する文化財を蔵する近隣社寺等への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を展示活動等に反映させた。		順調
4524-1	(九州国立博物館) 1) 平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行なう。	2) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果、及び当館所蔵品についての調査研究成果を生かし、なら仏像館仏像展示や名品展(平常展)の充実を図る 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示に反映させることができた。	A	順調
4524-2	2) 京都、九州における黄檗宗寺院に関する調査を進め、成果を特別展に反映する。	【九州国立博物館】 1) 平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行なう。 平成22年度西部工芸展、日本伝統工芸展など、今年度開催の工芸展で作品調査を行なった。陶芸部門では、西部工芸会陶芸部会の研究会に参加し、新たな創作活動の展開について調査し、これまでに対象となっていた若手作家も調査に加わった。 タイと共同で開催する見開会の中に伝統工芸を位置づけ、日本の伝統技術によつて現代に展開する工芸を紹介することとし、タイ国バンコク国立博物館で開催の「日本とタイふたつの国の巧と美」に日本の伝統工芸とそれが現在に生きている姿の展示を行なった。同時に、伝統工芸の技術を示すワークショップを開催した。	A	順調
4524-3	3) 日本、韓国、中国における馬文化に関する考古遺品、美術作品に関する調査を進め、成果を特別展に反映する。	2) 京都、九州における黄檗宗寺院に関する調査を進め、成果を特別展に反映する。 調査箇所 黄檗宗大本山萬福寺および塔頭(5回)関西地区黄檗宗寺院(1ヶ寺)、九州地区黄檗宗寺院(12ヶ寺)、国立国会図書館内閣文庫、京都国立博物館、神戸市立博物館、長崎歴史文化博物館、北九州市立いのちのたび博物館、柳川古書館 上記各所蔵の文化財についての基礎的な情報を収集・整備することができた。これまで調査対象とされなかった彰列分野において、数多くの知見を得ることができた。これらの調査の成果は特別展「黄檗」に反映した。	A	順調
4524-4	4) 中国内モンゴル自治区出土の遼時代に属する考古遺物に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する。	3) 日本、韓国、中国における馬文化に関する考古遺品、美術作品に関する調査を進め、成果を特別展に反映する。 騎乗馬や農耕馬など、日本人と密接な関係を持っていた馬との絆は、現代の産業構造の激変に伴って失われた。しかし、私達の生活には馬文化に由来する有形・無形の要素が多く含まれている。特別展では馬のいる情景(廻)を再現すると同時に、最新の考古学研究に基づいた飾り馬の馬装を復元し、馬具から読み取ることのできる馬文化の広がりを立体的に示すことができた。	A	順調
		4) 中国内モンゴル自治区出土の遼時代に属する考古遺物に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する。 内モンゴル自治区、台湾において調査を実施し、また見開会開催にむけて関係機関	A	順調

		と積極的に交流をはかり、良好な関係構築につとめた。調査においては、紀年墓出土資料や仏塔出土資料の調査を通して、金銀器を中心契丹工芸の特質把握につとめた。また遺跡踏査を実施し、陵墓や都城、仏教寺院等の立地等において多くの知見を得た。12月には調査成果の一部を九州国立博物館主催の国際シンポジウムにおいて発表した。	
4524-5	5) 細川家伝来資料に関する調査を行なう。	5) 細川家伝来資料に関する調査を行なう。 財団法人永青文庫所蔵資料について、分野ごとに調査結果をまとめ、同時にデータ化を推進し、展覧会出品作品の基礎的な情報を整備した。また、永青文庫所蔵コレクションの性格について分野横断的に研究し、江戸時代の大名家コレクションにおける特質について、分かりやすく展覧会で紹介できる段階におおよそ至ることができた。	A
4524-6	6) 九博に関連する絵本の次シリーズの企画について検討する。	6) 九博に関連する絵本の次シリーズの企画について検討する。 既刊絵本の外国語版作製を検討するにあたり、福岡県を中心とする九州島内のインターナショナルスクールの実態調査を行った。5月には日経流通新聞において『月夜のおおさわぎ』に関する取材記事が掲載された。また、交流課とボランティアスタッフを中心として、小学生以下を対象とするワークショップや読み聞かせを行った。	A

5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

【中期目標】文化財の保存・修復に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図ること。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保存・修復・協力・技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

【中期目標】文化財の保存・修復に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図ること。

【中期計画】

- (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。

【主な計画上の評価指標】

- 情報の収集・分析及びその提供を行うこと。
- 国際協力のネットワークを構築すること。

【21年度評価における主な指摘事項】

- エジプトでの大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズ1)にかかる国内支援業務については、今後に期待したい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5111	文化財の保存・修復に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。 (2) ユネスコ、ICOMOS、ICOMなどが行う主要な国際会合へ出席し、情報の収集を行うとともに諸外国の文化財保護施策等の調査を行う。アジア地域の文化財保護機関と連携して文化遺産国際ワークショップを行い、当該地域における文化財情報の収集に努めるとともに、今後の協力関係を築く基礎とする。また、国際協力に関する国内ワークショップを開催する。	(1) ① 文化財保存施策の国際的研究 文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。 1. 世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関する各種の情報を収集し、分析した。 2. 国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考える国際会議を1回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究集会を1回、計2回開催した。	A	順調
5121-1	② 文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施する。 ア カンボジア・アンコール遺跡群のタ・ネイ遺跡及び西トップ寺院遺跡において建築史的、考古学的、保存科学的調査を実施する。タイ・スコータイ遺跡及びアユタヤ遺跡では、生物被害に関する保存科学的調査研究を行う。	②-ア-1 アジア諸国における文化遺産を形成する素材の劣化と保存に関する調査研究 文化財の保存のための覆屋効果について、材質ごとおよび覆屋の形態ごとに検証し、成果をタイ・インドネシアの研究者と共有した。また、タイ・スコータイ遺跡について、環境調査を実施した。さらに、微生物	A	順調

5121-2	が石材の風化に与える影響について、カンボジアのアンコール遺跡において検討した。 ②ア-2 カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査 考古班は東テラスの中央祠堂前面の状況解明のために、当該箇所に3回に分けて調査区を設定し発掘を実施した。建築班は実測調査をおこなうとともに、類例調査を進めた。保存科学班は、来年度から開始予定の暴露試験に向けて、資料の調整、暴露試験台設置作業などを実施した。カンボジア人材育成としては3名の研究者を日本に招聘し技術交流をおこなった。	A	順調	
5122-1	イ 敦煌莫高窟壁画保存と制作技法に関する現地調査及び研究を実施し、報告書を作成し、シンポジウムを開催する。また、陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究を実施する。	A	順調	
5122-2	②イ-1 陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究 2010年度は、前年度の調査実績をもとに墳墓壁画の考古発掘現場での調査実現を目指し、準備を進めたが、秋までの間に陝西省での壁画墓の発掘がなく、現場調査は実現しなかった。このため、前年度の作成した報告書の中国語版を作成し、西安市において陝西省の各機関の専門家を集めた研究会を実施し、調査手法についての評価を求めた。さらに壁画が出土してから文化財として保存されるまでの全工程において、どのような記録保存が求められ、それぞれの現場においてどのように現実的に対応するかを討論し、今後の共同研究についてその可能性を考えた。 ②イ-2 敦煌壁画の保護に関する共同研究 本年度は中期計画の最終年度であると同時に日中共同調査研究の5年目最終年度を迎えた。これまでの4年間に実施してきた調査研究についての成果をまとめるとともに、次期共同研究へ向けての準備作業を行つた。とくに壁画の制作材料と制作技法に関する研究は、これまでに蓄積してきた劣化状態と色料に関する調査データをもとに劣化を生みだした環境要素のシミュレーション研究を行い、そこから壁画本来の色彩への考察を図ろうという計画をもつた科学研究費補助金の申請があり、研究の総括へ向けて明確な方向性を持つことができた。	A	順調	
5123	ウ アフガニスタン（主としてバーミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施し、また、あわせて周辺地域の文化財調査研究を実施し、西アジア諸国等における文化財の保存協力事業に役立てるとともに、これらの成果について報告書を作成する。	②ウ 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 アフガニスタン：バーミヤーン保存修復事業実施、文化財専門家の人材育成・技術移転、専門家会議への出席、報告書の作成・出版、外部機関との共同研究。 イラク：文化財専門家の人材育成・技術移転。 西アジア周辺諸国文化遺産の調査研究・保護への協力：トルコ、タジキスタン、インド、中央アジア諸国、エジプト。	A	順調

(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

【中期目標】研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保存・修復 協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。	
【中期計画】 (2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。 また、アジア諸国等における文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。	【主な計画上の評価指標】 ○諸外国への技術移転を積極的に進めること。 ○アジア諸国における専門的な人材の育成のための支援事業等を行うこと。 【21年度評価における主な指摘事項】 ○文化財保存修復専門家養成のための教科書及びDVDの作成は評価できる。今後はその活用など普及に期待したい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5211	(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国等における文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。 ア 中国、アフガニスタン、イラク等の考古学、建造物、歴史資料及び保存科学等の保存専門家養成研修を国内並びに現地で実施する。	(2) ア 諸外国の文化財保存修復専門家養成 諸外国における文化財の保存・修復に携わる専門家の研修において使用することを目的とした、教科書（日本語版および英語版）を作成した。 また、人材養成研修手法の改善に資することを目的に、「海外の文化財保存修復専門家養成を目的とする国際研修等の実施に関する研究会」を開催した。	A	順調
5212	イ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力及び文化財保存修復に関する国際支援に係る調査を行う。	イ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力 集団研修では16カ国、16名の研修生に対して研修をおこなった。また個人研修ではモンゴル人3名に対して、保存科学を中心とする研修をおこなった。こうした研修をおこなうことにより、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助とも成了った。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。	A	順調

6 情報発信機能の強化

【中期目標】調査及び研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

(1) 情報基盤の整備充実

【中期目標】-----

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6111	以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人々が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 (1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。 また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的なアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。 ① ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。	(1) ①-1 情報システムの整備 システム管理については、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行い、現在のネットワーク環境の維持に努めた。またネットワーク環境の整備の一環として、国立文化財機構間VPNの接続の準備、居室内スイッチの更新、情報セキュリティ強化システムの導入を進め、情報基盤の整備と拡充を進めた。	A	順調
6112	② 文化財に関する専門的なアーカイブの拡充を図る。	①-2 ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実 情報交換システムの更新及びウィルス対策ソフトを更新することによりセキュリティの強化を図った。また、サーバ及び情報端末をネットワークに接続することにより情報基盤システムの整備・充実を行った。 ②-1 文化財に関する専門的なアーカイブの拡充 1) 公開用SQLデータの更新・運用。 2) 画像資料のデジタル化・貴重書のCD-ROM化 3) 近現代美術関係文献等のデータベース化	A	順調
6121		②-2 無形文化財に関する音声・画像・映像資料のデジタル化 2006年度までに受け手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理に着手した。所蔵画像資料のデジタル化については、データベース作成の一環として、一昨年度から本格的に始まった歌舞伎写真(2008年度寄贈・故梅村豊撮影)の整理を進めた。	A	順調

6122	③ 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。	④ 朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化 5) 『東京文化財研究所蔵書目録8 漢籍』の刊行	A	順調
6131	④ 文化財情報電子化の研究に基づき、データベースの充実を図る。	②-2 無形文化財に関する音声・画像・映像資料のデジタル化 2006年度までに受け手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理に着手した。所蔵画像資料のデジタル化については、データベース作成の一環として、一昨年度から本格的に始まった歌舞伎写真(2008年度寄贈・故梅村豊撮影)の整理を進めた。	A	順調
6132		③-1 國際資料室の整備 国内外で図書その他の資料を収集し、整理・分類して目録に登録し、データベース化した。	A	順調
6141		③-2 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。	A	順調
6142		④-1 文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究 情報収集、データベース化：平成13年から収集している世界各国の文化財保護に関する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。 また、「文化財保護関連法令シリーズ」としてタジキスタン、ブータンの法令集およびフランス文化財法典(後編)を出版した。 さらに、オーストリアでの文化財データベースに関して、連邦記念物局での聞き取り調査を行った。	A	順調
		④-2 文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実 文化財情報電子化の研究を通じて、GISを活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表ならびに公刊することにより学界に寄与している。開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても文字コードをUnicode化して将来の多言語化に備えるとともにデータの充実を図った。また、新規に図面画像データベースを構築した。	A	順調

(2) 研究所の研究成果の発信

【中期目標】-----

【中期目標】	(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。	【主な計画上の評価指標】 ○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。 ○HPの充実を図り、HPアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均	【主な計画上の評価指標】	
			年度	中期

また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前中期計画期間の年度平均以上確保すること。		以上確保すること。		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6211	(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成18年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前中期計画期間の年度平均以上確保する。 ① 定期刊行物の刊行 ○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』	(2) ①-1 『東京文化財研究所年報』・『東京文化財研究所概要』・『東文研ニュース』の刊行 『年報』2009年度版、『概要』2010年度版、『東文研ニュース』第41号～第44号、『東文研ニュースダイジェスト』(『東文研ニュース』英語版)第8号～第9号をそれぞれ刊行し、研究所の情報発信に努めた。	A	順調
6212	○『美術研究』(年3冊) ○『日本美術年鑑』(年1冊)	①-2 『平成21年度日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行 今年度は『平成21年版 日本美術年鑑』及び、『美術研究』401～403号を刊行することができた。	A	順調
6213	○『無形文化遺産研究報告』(年1冊) ○『無形民俗文化財研究協議会報告書』(年1冊)	①-3 『無形文化遺産研究報告』・『無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行 1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考、報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第5号の刊行。 2) 平成22年11月18日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第5回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。	A	順調
6214	○『保存科学』(年1冊)	①-4 『保存科学』50号の出版 投稿された25本の原稿の内容について、専門家による査読を実施し、最終的に報文6本、報告17本、合計23本の掲載を決定した。本誌の体裁は変更せず、総ページ数244、650部印刷、関係諸機関に約580部配布した。	A	順調
6215		①-5 第33回文化財の保存および修復に関する国際研究集会報告書の刊行 第33回文化財の保存・修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復」の報告書(A5、カラーポスター8ページ、本文(和文・英文)460ページ、印刷部数800部)を作成し、刊行した。また、集会参加者および国内外の関係機関に配布した。	A	順調
6221	○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』 ○『埋蔵文化財ニュース』	②-1 研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行 紀要等2点、ニュース2種8点、合計10点を順調に刊行できた。	A	順調
6222	② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等 ○国際シンポジウムの開催(年1回)	②-2 第34回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 平成23年1月19日(水)～21日(金)、東京国立博物館において、第34回文	A	順調

6223	○公開学術講座(オープンレクチャー)(年1回)	化財の保存および修復に関する国際研究集会「復興と文化遺産」を開催した。	A	順調
		②-3 平成21年度オーブンレクチャー 第44回企画情報部オーブンレクチャー「人とモノの力学」と題して4講演を2日間にわたり開催した(参加者数:200人、アンケートによる満足度:84%(回収率:68%)。		
6224	○公開講演会(年6回)(特別公開講演会(2回:東京会場)、飛鳥資料館特別展に伴う講演会(2回)を含む。) ○現地説明会(年6回)	②-4 公開講演会、現地説明会等の開催 公開講演会を2回、特別講演会(東京会場)を2回、飛鳥資料館特別展示記念講演会を2回、平城宮跡資料館特別展示等記念講演会を2回、計8回の公開講演会を開催した。 また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計5回実施した。 このことにより調査研究成果を適時適切に国民に公開公表することが出来た。 開催回数は目標値を超え、さらに参加延べ人数は、公開講演会等が2,033名、現地説明会等が3,843名に上り、事業は順調に実施できた。	A	順調
		③-1 ホームページの運用 文化財デジタルイメージギャラリーの新設、メールマガジンの配信など、ホームページの内容の充実に努め、研究所の情報発信機能の向上を図った。		
6231	③ ホームページアクセス件数の前中期計画期間の年度平均以上の確保	③-2 ホームページアクセス件数の前中期計画期間の年度平均以上の確保 研究所のホームページをより充実させるために、各部・室における事業内容、研究発表等を紹介するページを公開した。また、奈文研のホームページをより見やすいものにするために東文研の協力を得て、文化財研究所として類似性のあるホームページの作成を開始した。 木簡人名データベース(試作版)を公開した。	A	順調
		定量評価	22年度	21年度
6232		ホームページのアクセス(件)	6,466,167	2,448,108
		うち東京文化財研究所	1,489,091	1,417,203
		うち奈良文化財研究所	4,977,076	1,030,905
		目標値	評定	

(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

【中期目標】――――		【主な計画上の評価指標】	
【中期計画】		○入館者数については、前中期計画期間の年度平均以上を確保すること。	
(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前中期計画期間の年度平均以上確保する。			
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価
		年度	中期

	(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。 ○ 黒田記念館における作品の展示公開 常設展（毎週木曜日、土曜日の午後開館） 共催展の開催（1回） 年間目標入館者数 10,600人	(3) ○ 黒田記念館における作品の展示公開 一般公開入場者 18,458人 「写真に見る黒田清輝の日常」（黒田記念館一階 64インチ大型タッチパネル、10.11.03公開開始） 「近代洋画の巨匠 黒田清輝展」（岩手県立美術館、10.07.17-08.29）入場者 11,942人	A	順調
6312	○ 平城宮跡資料館における展示・公開 常設展（月曜日、年末年始休館 無料公開 ただし平成22年4月24日～11月7日まで無休） 特別展（年1回） 企画展（年2回） 年間目標入館者数 72,500人	○ 平城宮跡資料館における展示公開((5)「平城遷都1300年記念事業」と一体的に実施) 平城遷都1300年記念事業に合わせて資料館をリニューアルオープンし、常設展示の大幅な展示替えをおこなった。また、3回の企画展と1回の特別展を開催し、調査研究の成果公開や情報発信に努めた。	S	順調
6313	○ 飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 常設展示（月曜日、年末年始休館 有料公開 ただし平成22年4月1日～5月13日まで無料） 特別展示（年2回） 企画展の開催（年1回） 年間目標入館者数 55,400人	○ 飞鳥資料館における展示公開 春期特別展「キトラ古墳壁画四神」を4月16日から6月13日まで開催するとともに、期間中の5月15日から6月13日までキトラ古墳壁画の特別公開をおこない、四神図（青龍・白虎・朱雀・玄武図）を展示した。また、5月30日には記念講演・討論会を文化庁とともに主催した。夏期企画展は7月1日から8月30日に「小さな石器の大きな物語」を開催した。秋期特別展は、10月16日から11月28日に「木簡黎明—飛鳥に集ういにしえの文字たち」を開催、10月17日に記念講演会、10月23日、11月6日、20日にギャラリートークをおこなった。冬期企画展は、1月28日から2月28日に「飛鳥の考古学2010」を開催した。平常展では、キトラ古墳壁画の陶板による実寸複製品を設置するとともに、キトラ古墳に関わる展示を一新、充実した。	S	順調
6314	○ 藤原宮跡資料室における展示・公開 常設展（土・日曜日、祝日、休日、年末年始休館 無料公開） 年間目標入館者数 4,500人	○ 藤原宮跡資料室における展示公開 常設展示および発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスに発掘調査成果を速やかに公開するための速報展示コーナーを設け、多様な成果を総合的に公開した。あわせて、職員による展示解説、展示のための各種資料制作、パンフレットなどの企画と制作、各地の博物館などへの文化財の貸与をおこなった。	A	順調

		定量評価	22年度	21年度	目標値	評定
			入館者数	黒田記念館	18,458	S
			平城宮跡資料館	354,346	25,127	72,500
			飛鳥資料館	133,312	77,347	55,400
			藤原宮跡資料室	4,815	4,341	4,486

(4) 文化庁が行う平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 -----

【中期計画】

- (4) 文化庁が行う平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。

【主な計画上の評価指標】

- 文化庁が行う平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6411	(4) 文化庁が行う平城宮跡・飛鳥・藤原旧跡などの公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡などへの来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。	○ 平城宮跡解説ボランティア事業の運営 高い知識に基づくガイドを多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。	A	順調
6412	○ 平城宮跡解説ボランティア事業及び平城宮跡防災・防犯バトロール「平城宮跡みまもり隊」の運営	○ 各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援	A	順調
6413	○ 各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援	○ 平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 △平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。 △文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援協力及び関係機関等との調整を行った。 △関連受託事業 ：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備業務、平城宮跡・藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。 ○平城宮跡〔対象面積：915,150m ² 〕 ○藤原宮跡〔対象面積：257,840m ² 〕	A	順調

(5) 平城宮遷都1300年記念事業への協力

【中期目標】 -----

【中期計画】			【主な計画上の評価指標】	
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(5) 「平城遷都1300年記念事業」支援として、リニューアルオープンした平城宮跡資料館において、平城京についての最新の調査・研究の成果及び古代都城等に関する国際共同研究の成果を展示・公開する。また、宮跡内における他の機関の展示公開事業に対しても、学術的指導・助言をもって支援する。 以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。	(5) (3) 「平城宮跡資料館における展示公開」参照。		

(6) 文化財情報・研究成果の公表

【中期目標】 -----			【主な計画上の評価指標】	
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(6) 文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。 ①ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスマディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。 ②-1 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。 ②-2 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。	(6) 文化財情報の公開促進 ① ウェブサイト等による情報の発信 ウェブサイトのアクセス件数が増加するよう内容の充実を図る。 (東京国立博物館) 1) 情報アーカイブにおいて公開中の文化財データベースの充実を図る。	S	順調

6611	2) 携帯電話サイトによる情報提供サービスを実施する。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 携帯電話端末用ウェブサイトの充実を図り、利用者の拡大とサービスの向上を図る。 (京都国立博物館)	(モバイルサイト開設については処理番号2131を参照。) ・国指定文化財の高精細画像および解説文(「e国宝」)についてデータ整備を進め、展示室およびインターネットで一般公開した。 ・「e国宝」を閲覧するためのiPhoneアプリを開発、公開した。 ・国指定文化財について3次元計測に基づく動画を作成し、展示室およびインターネットで公開した。 (処理番号6612、6613を参照)	A	順調
6612	1) 学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開する。 2) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載するとともに、新刊の博物館ディクショナリーをメールマガジンで配信し、利用者の拡大を図る。 3) 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。 (奈良国立博物館)	【京都国立博物館】 ・特別展覧会「長谷川等伯」において、過去1週間の混雑状況を時系列で掲載したウェブページを公開し、パソコン端末や携帯電話、来館者に過去の混雑状況をお知らせできるよう配慮した。また、当日の混雑状況のQRコードを館内及び当館看板設置場所に掲示し、携帯電話端末用ウェブサイトの利用を促進した。 ・研究紀要「学叢」を創刊号からすべてを当館のウェブサイトに公開した。 ・新刊の博物館ディクショナリーをメールマガジンで配信した。 ・収蔵品の貸与情報を当館のウェブサイトに公開した。トップページに直接のリンク先を設け、閲覧者へのサービスの充実を図った。 ・当館ウェブサイトに、研究者一覧のウェブページを作成し、研究員の自己紹介、主要業績及び過去3年の執筆物を掲載した。 【奈良国立博物館】 ・展覧会名称の変更にともない、携帯用ウェブサイト内の表記の全面的な改定をおこなった。 ・PC用ウェブサイト内で公開している写真データベースに、新たに2,303件のデータを追加した。 ・PC用ウェブサイト上に、研究員の専門分野と研究課題・調査成果を記した一覧を新たに掲載した(5月)。 ・季刊誌『奈良国立博物館だより』に、研究員が調査研究成果を紹介する欄を設け、毎号(年4回)、記事を掲載している。 ・『鹿園雑集』12号を刊行し、論文1本、資料紹介1本のほか、調査報告・修理報告等を掲載した。 ・読売新聞紙上に、研究員による展示文化財の解説記事を連載している(通年、隔週)。 ・名品展の展示替えによって新規に展示される文化財について、その解説文を盛り込んだプレスリリースを作成し、マスマディア向けに	A	順調
6613	1) 当館保有の文化財の写真並びに研究成果の公開の充実を図る。			

6614	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) ウェブサイトで提供する情報の充実を図るとともに、利用者からの利便性を考慮した情報の発信に努める。</p> <p>②-1 デジタル化の推進 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。</p> <p>2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を公開する。</p> <p>3) 75,700件（東京：73,000、京都：800、九州：1,900）の収蔵品写真のデジタル化を実施する。</p> <p>4) 当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、ウェブサイト上で公開する。 (東京国立博物館)</p>	<p>発信した（12月）。</p> <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ウェブサイト利用者からの意見に、九博メールで対応 ②特別展ごとに「ぶろぐるぼ」を実施 ③「九州国立博物館メールマガジン」の会員を12月末ウェブサイト等で募集した。 ④「九州国立博物館メールマガジン」創刊号を1月15日に配信し、今後、月2回配信予定。 ⑤混雑した「没後120年 ゴッホ展」において、ウェブサイト・携帯サイト等で混雑状況について情報提供をした。 <p>②-1 デジタル化の推進</p>	A	順調
6621-1		<p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定文化財のデジタル撮影を集中的に実施し、既存の画像データについては編集・加工を行なった。また国指定文化財の情報と解説文を整備し、英、仏、中、韓の各国語に翻訳して公開した。 ・マイクロフィルムについては昨年度デジタル化が完了したため0件となった。カラーおよびモノクロフィルムも完了し、今後は撮影そのものがフィルムからデジタル撮影に移行していく。 ・収蔵品等のモノクロ画像のデジタル化を継続した。 ・列品管理データベースを更新し、列品情報の公開を行うためのデータ整備を推進した。 ・法隆寺献納宝物のデジタルアーカイブの提供を継続した。 <p>・国指定文化財について3次元計測によるデジタル化を実施した。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品のデジタルデータを作成し文化財情報システム及び公開収蔵品データベースへの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。 ・重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」で21年度より 	B	順調
6622-1			A	順調
6623-1	(奈良国立博物館)	<p>公開されている6カ国語（日英韓中仏西）による解説について、内容及び表示方法等について修正を行った。</p> <p>【奈良国立博物館】</p> <p>本事業は、仏教美術を中心とする文化財に関する情報資源の構築を図り、館内における調査研究に活用するとともに、館外研究者ならびに広く一般への公開をおこなうことを目的としており、このことを実施するために必要な情報システムやネットワークシステムの構築等、環境整備もあわせて行った。</p> <p>データベース：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査および写真撮影をおこなった文化財について、情報システムへデータを入力し、5,190件登録・更新した。 ・上記のうち公開準備のできたデータを写真データベースから2,892件公開した。 ・21年度に正式公開した収蔵品データベースを更に充実させるため、データ整備を継続して行い、文字データ：98件、画像データ：1,273件を更新した。 ・デジタル撮影の開始、デジタル画像の運用管理、情報公開を推進する準備作業として、写真情報システムのリニューアルを進めた。 <p>画像データ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵品・寄託品・その他の文化財について、カラー・ポジフィルム4,255枚、X線フィルム56枚をデジタル化した。 <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①昨年度に引き続き、当館で収蔵している国指定文化財のうち19件の収蔵品のデジタル画像公開プログラムの制作を行った。これにより館内設置のパソコンおよびインターネットを通じた情報提供が可能となった。 ②独立行政法人国立文化財機構で制作・管理公開しているインターネット情報公開プログラム e国宝に当館が収蔵する国指定文化財の解説およびデジタル高精細画像を提供し、公開した。 ③収蔵品写真のデジタル化を行った。（1,391件） ④当館所蔵の指定文化財のうち、国宝栄花物語についてその一部をカラーポジ撮影し、デジタル画像化を行っている。 <p>②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化</p> <p>美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通)</p>	A	順調
6624-1		<p>②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化</p> <p>美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通)</p> <p>②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化</p>	A	順調

6621-2	<p>1) 約 11,600 件（東京：3,000、京都：5,000、奈良：3,000、九州：600）の収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実をはかる。</p> <p>2) 資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システムを軸とした図書資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。</p> <p>3) 法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。</p> <p>4) 調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集するための方針を策定する。</p> <p>5) ナショナルセンターとしての国立博物館における資料館の機能の拡充に向け、閲覧スペースや書庫、事務室等の区画・配置をはじめ、資料館全体のあり方を再検討し、有効活用へ向けた利用計画を策定する。</p>	<p>【東京国立博物館】 (列品管理データベースについては処理番号 6621-1 を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、図書資料等のデータ整備を推進した。 データ整備件数：新規図書 7,345 冊、逐次刊行物 4,684 冊、週及入力 7,836 冊 ・資料館において資料の閲覧、複写およびレファレンスサービスを継続して実施した。 ・法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。 ・調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集した。 収集件数：購入図書 514 冊、寄贈・交換図書 6,831 冊、館蔵品等の写真資料 5,577 枚 ・閲覧室開架書架の増設（22 年 4 月）および埋蔵文化財報告書等の移動（23 年 3 月）を行った。またそれに伴い所在データを更新し、館内配置図を作成した。 ・有料ゾーンからの資料館入退館経路の検討を行った。 ・震災の影響として直接の被害はなかったが、安全確認と社会的諸事情に鑑み、23 年 3 月 14 日～31 日まで臨時休館した。23 年 4 月末まで休館の予定である。 	A 順調
6622-2	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 収蔵品検索システム及び所蔵作品検索システムの構築を進める。</p> <p>2) 学芸業務支援システムの構築を進める。</p>	<p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度に構築した収蔵品検索システムの不具合を訂正しながら整備を進めた。 ・平成21年度に構築した文化財情報システム（所蔵作品検索システムと学芸業務支援システムを兼ね備えたシステム）の不具合を訂正しながら整備を進めた。 ・収蔵品、展覧会出品作品等の撮影写真、及び社寺調査等での撮影写真並びに関連データを整備した。 ・写真は漸次写真画像管理システムに登録し、各種データベースへの二次提供を行った。 登録件数 3,379 件 ・特別観覧件数 972 件 	C 順調
6623-2	(奈良国立博物館)	【奈良国立博物館】	A 順調

6624-2	<p>1) 図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、サービスの充実を図る。</p> <p>2) 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。</p> <p>3) 仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了後の再開に向けて、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、サービスの更なる充実を図る。</p>	<p>本事業は、博物館の根幹である展示・研究活動を支援すべく、関連する図書・雑誌等の資料を収集・整理し、学芸部の情報資料として活用するものである。また一般利用者に対しても当該資料を当館仏教美術資料研究センターにおいて公開し、サービスをおこなう（今年度は耐震補強工事により休館中で、来年度 7 月再開を目指し準備している）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に導入した図書情報システムによる受入・登録作業を継続しておこない、業務の効率化とサービスの向上を図っている。新システムへの移行作業は順調に進み、既に通常業務に活用しているが、来年度のセンター再開にあわせ、目録情報のインターネット公開を目指しており、館内での成果が外部への情報公開に効果的に反映されるよう、更なる情報整備に努めている。 ・昨年度に引き続き、旧地下通路に新たに確保した収蔵スペースに全資料を移動して、館内利用を継続している。現在会議室の一角を仮事務室として受入・登録作業をおこない、年度末の工事完了後の引越にむけて整理作業に人員と時間を要しているため、現在までの新規受入は、図書 777 冊、展覧会カタログ 40 冊に留まっている。 ・同センターの保有する資料の総数は図書約 67,000 冊、展覧会カタログ約 10,000 冊、雑誌約 3,000 タイトルとなっている。今年度は昨年度に引き続き、特別展『大遣唐使展』の開催に関連して、中国仏教関係・対外交渉関係の資料を重点的に収集し、不足していた領域の資料の充実を推進させることができた点も特筆される。 ・今年度より、デジタル撮影を開始し、特別展『大遣唐使展』および『至宝の仏像』の開催に合わせ大量のデジタル撮影をおこなった。デジタル撮影：5,663 カット。 ・センターの耐震補強工事の機会に、書庫および閲覧室のレイアウトの全面的なリニューアルをおこなった。年度内に新規に集密書架、固定書架を導入する計画である。これにより、情報資料の利用環境を更に充実させることができ、センター再開時に向けて更なるサービスの拡充を進める予定である。 <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①収蔵品・出品作品等のボジ写真撮影および関連データを整備した。（2,784 件） ②海外調査で撮影した写真やビデオ、また収集した体験用資料を展示や教育普及活動で活用するための整備を行った。 ③対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施した。 ④博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実 	A 順調

	テム構築を目指す。	した第2次業務システム構築を行った。		
定量的評価	22年度	21年度	目標値	評定
ウェブサイトのアクセス(件)				
東京国立博物館	4,971,306	5,687,673	1,928,966	S
京都国立博物館	805,935	848,486	521,965	S
奈良国立博物館	3,121,270	2,630,035	670,948	S
九州国立博物館	4,708,102	7,459,518	783,487	S
收藏品のデジタル化(件)				
東京国立博物館	8,639	775,300	73,000	C
うちカラーフィルム	5,136	3,480	3,000	S
うちモノクロフィルム	3,503	23,639	10,000	C
うちマイクロフィルム	0	748,181	60,000	F
京都国立博物館	4,594	5,603	4,359	A
奈良国立博物館	9,501	102,894	8,471	A
九州国立博物館	1,391	3,574	1,900	B
写真検索システムデータ追加更新(件)				
奈良国立博物館	5,190	12,339	2,000	S
收藏品・出品作品等の写真撮影及び関連データ整備(件)				
東京国立博物館	5,577	4,177	3,000	S
京都国立博物館	3,379	3,753	5,000	C
奈良国立博物館	1,725	5,818	3,000	C
九州国立博物館	2,784	4,686	600	S

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

【中期目標】地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国文化財保護における中核的な人材を育成すること。

【中期計画】

- 我が国文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。
- (1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
 - (2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。
- また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。

【主な計画上の評価指標】

- 文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。
- 埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、中核となる文化財担当者に、各種の研究を実施するとともに、参加者等に対するアンケート調査で80%以上の満足度が得られるようになること。
- 連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与すること。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
7111	我が国文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。	(1)-1 無形文化遺産に関する助言 平成22年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化伝統文化課に対する無形文化遺産保護条約に関する助言をはじめ、26件の助言を実施した。	A	順調
7112	(1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 埋蔵文化財保護行政に資する調査研究を行うとともに、地方公共団体等への協力・助言・専門的知識の提供等について管理・調整する。また、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託事業を実施する。	(1)-2 文化財の修復及び整備に関する調査・助言 今年度は、件数として40件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知識を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。	A	順調
7113	(1)-3 地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言	(1)-3 地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言	A	順調

7114	<p>言を行った。援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）332件（委員会出席159、審議会出席18、指導73、調査19、講演28、その他35）</p> <p>(1) -4 地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言</p> <p>平成22年度は、平城宮・京城で、計8件の発掘調査を実施した。その結果、平城宮跡西北部では、平城宮の造作にともなう可能性がある奈良時代の整地土を検出し、平城京左京一条二坊十六坪では古代の柱穴5基と、土器や瓦を多量に含む南北溝1条を検出した。また、西大寺境内では古代と考えられる土坑1基と、L字状に屈曲する溝2条を検出した。</p> <p>(1) -5 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区的発掘調査への援助・助言</p> <p>藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は6件あり、主に現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、藤原宮跡東方官衙南方の調査では、掘立柱建物2棟、掘立柱塀1条、宮造営にかかわるとみられる南北溝1条などを確認した。</p> <p>(2) -① 埋蔵文化財担当者研修</p> <p>遺跡の発掘調査や保存・整備等に關し、必要な知識と技術の研鑽を図るために地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修11課程の研修を実施し、延べ37名が受講した。</p> <p>研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。</p> <p>(2) -② 博物館・美術館等保存担当学芸員研修</p> <p>第27回保存担当学芸員研修、保存担当学芸員フォローアップ研修、第15回資料保存地域研修、および「博物館資料保存論」対策講座を実施し、いずれも高い満足度を得た。</p> <p>(2) -③ 連携大学院教育 東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学)</p> <p>次に上げる講義と演習を各教官が担当した。保存環境計画論(佐野)、保存環境学特論(石崎、木川)、修復計画論(川野邊)、修復材料学特論(中山、北野)、文化財保存学演習(石崎、佐野)</p> <p>(2) -④ 京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進</p> <p>京都大学大学院人間・環境学研究科において6名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において3名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して大学院生の研究指導を行った。なお、平成22年度の受入学生数は京都大学50名、奈良女子大学2名であった。</p>	A	順調		
7115		A	順調		
7211		A	順調		
7221	<p>(2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修、保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようとする。</p> <p>また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。</p> <p>① 埋蔵文化財担当者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門研修13課程、研修人数のべ163人 ○ 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 ○ 期間2週間、受講生25名程度 <p>③ 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学） ○ 京都大学：共生文明学（文化・地域環境論） ○ 奈良女子大学：比較文化学（文化史論） 	A	順調		
7231		A	順調		
7232		A	順調		
	定量評価	22年度	21年度	目標値	評定

		参加者満足度	100% 100%	100% 100%	80% 80%	A A	
		埋蔵文化財担当者研修 保存担当学芸員研修					
		埋蔵文化財担当者研修 実施課程 延べ人数		11課程 137	12課程 130	13課程 163	B B
		保存担当学芸員研修 期間 受講生		2週間 33	2週間 31	2週間 25	A A

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【中期目標】法人統合のメリットも最大限に生かし、業務の充実かつ効率化を図るとともに、事務、事業、組織等の見直し、外部委託の推進等により、経費の合理化を図ること。
運営費交付金を充当して行う業務については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、特殊業務経費を除き、5年間で一般管理費は15%以上、業務経費は5%以上の削減を図ること。

また、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、平成18年度以降の5年間において国家公務員に準じた人件費削減を行うとともに、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続すること。

さらに、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を5年間で削減を図ること。

1 業務の効率化

【中期目標】

【中期計画】

1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上に考慮する。また、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、さらに、外部委託の推進等により、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年間で一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図る。

さらに、法人統合のメリットも最大限に生かしつつ業務の効率化を務め、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、19年度一般管理費(物件費)の10%相当を統合後5年間で削減を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化

(2)使用資源の減少

- ・省エネルギー(5年間中1年に1.03%の減少)
- ・廃棄物減量化(一般廃棄物排出量を5年間で5%減少)
- ・リサイクルの推進

(3)施設有効使用の推進

- ・施設の利用推進

(4)民間委託の推進

- ・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。
- ・館の警備・清掃業務について民間委託を推進する。

- ・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。

(5)競争入札の推進

- ・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

【主な計画上の評価指標】

○中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年間で一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図ること。

○省エネルギー5年間中、1年に1.03%減少を図ること。

○施設の有効利用の推進を図ること。

○民間委託の推進を図ること。

○競争入札の推進を図ること。

○保有固定資産について、減損会計の情報(保有目的、利用実績など)を考慮し、充分な推進を図ること。

○官民競争入札等の推進を図ること。

【21年度評価における主な指摘事項】

○引き続き省エネルギー、リサイクルの推進のための努力をお願いしたい。

○契約の割合は、金額については随意契約見直し計画を達成している。しかし件数については、計画の達成に向けて、また、事業仕分けで指摘を受けた「施設内店舗用地の賃借」についても、展覧環境の質に充分配慮した上で順次企画競争を導入する等、更なる努力をお願いしたい。

○外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的な目標は、入場料収入等の増加により、目標を上回っている。今後も着実な目標達成を期待している。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価																																											
			年度	中期																																										
9110	(1) 各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化 財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を図る。 1) 国立博物館各館における翌年度の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。 2) ネットワークの共通化及び、各施設ごとであったグループウェアの機構全体での統合・共通化を図り、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。	(1) 各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ・「研究・学芸系職員連絡協議会」を実施し、各博物館における翌年度の展覧会企画等について調整を行い、計画を図った。 ・グループウェアを機構全体で一本化し、7月以降本部および各施設にて順次、運用を開始した。機構内全職員が一本化されたグループウェア「サイボウズ・ガルーン2」を利用することで、機構内の連絡および情報共有が大幅に効率化し、セキュリティが向上した。 ・国立文化財機構規程集PDF版をグループウェア上で閲覧可能とした。機構内職員が常に最新版を参照できるようになった。 ・給与明細のウェブ閲覧を平成23年3月給与より試行運用を開始し、業務効率化と経費削減に加え利便性向上が見込まれる。 ・財務会計システムの更新手続きに着手し、23年4月入札公告・24年4月運用開始に向けて準備を始めた。	A	順調																																										
9120	(2) 省エネルギー、リサイクルの推進 1) 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に行き統括節減に努める。(年間1.03%減少) 2) 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。(一般廃棄物排出量を年間1.03%減少)	(2) 省エネルギー、リサイクルの推進 ・日常の節電節水の周知徹底、夏季の軽装廻行、冷暖房の省エネ運転等を行った。 ・廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。 ・リサイクルの実施(廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙受け渡し、再生紙の発注等)使用資源の推移等 光热水料金 (単位：千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料</td> <td>366,202</td> <td>350,947</td> <td>△15,255</td> </tr> <tr> <td>水道料</td> <td>93,651</td> <td>79,777</td> <td>△13,874</td> </tr> <tr> <td>ガス料(※1)</td> <td>92,510</td> <td>98,213</td> <td>5,703</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>552,363</td> <td>528,937</td> <td>(4.24%減) △23,426</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ガスは、全体として使用量ベースでは減少したが、原料高騰による単価上昇により使用料金ベースで増額となった。</p> <p>(※1) ガス使用量等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>21年度(m³)</th> <th>22年度(m³)</th> <th>差引(m³)</th> <th>単価影響額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス使用料</td> <td>1,521,140</td> <td>1,475,110</td> <td>△46,030</td> <td>7,785</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考) 特殊要因を考慮した光热水料金 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料</td> <td>366,202</td> <td>350,947</td> <td>△15,255</td> </tr> <tr> <td>水道料</td> <td>93,651</td> <td>79,777</td> <td>△13,874</td> </tr> </tbody> </table>	事項	21年度	22年度	差額	電気料	366,202	350,947	△15,255	水道料	93,651	79,777	△13,874	ガス料(※1)	92,510	98,213	5,703	計	552,363	528,937	(4.24%減) △23,426	事項	21年度(m ³)	22年度(m ³)	差引(m ³)	単価影響額(千円)	ガス使用料	1,521,140	1,475,110	△46,030	7,785	事項	21年度	22年度	差額	電気料	366,202	350,947	△15,255	水道料	93,651	79,777	△13,874	S	順調
事項	21年度	22年度	差額																																											
電気料	366,202	350,947	△15,255																																											
水道料	93,651	79,777	△13,874																																											
ガス料(※1)	92,510	98,213	5,703																																											
計	552,363	528,937	(4.24%減) △23,426																																											
事項	21年度(m ³)	22年度(m ³)	差引(m ³)	単価影響額(千円)																																										
ガス使用料	1,521,140	1,475,110	△46,030	7,785																																										
事項	21年度	22年度	差額																																											
電気料	366,202	350,947	△15,255																																											
水道料	93,651	79,777	△13,874																																											

		<table border="1"> <tr><td>ガス料</td><td>92,510</td><td>90,428</td><td>△2,082</td></tr> <tr><td>計</td><td>552,363</td><td>521,152</td><td>(5.65%減) △31,211</td></tr> </table> <p>※ガス単価上昇等を勘案して算定。</p> <table border="1"> <thead> <tr><th colspan="4">廃棄物排出量 (単位: kg)</th></tr> <tr><th>事項</th><th>21年度</th><th>22年度</th><th>増減率 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>一般廃棄物 (※2)</td><td>228,045</td><td>273,407</td><td>19.89%</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr><th colspan="2">(※2) 一般廃棄物増加の特殊要因 (単位: kg)</th></tr> <tr><th>施設</th><th>内容</th><th>金額</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>奈良国立博物館</td><td>西新館耐震改修工事等に伴う増加</td><td>47,500</td></tr> <tr><td>奈良文化財研究所</td><td>平城遷都1300年祭関連行事に伴う増加</td><td>2,700</td></tr> <tr><td></td><td>小計</td><td>50,200</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr><th colspan="2">(参考) 特殊要因を考慮した廃棄物排出量 (単位: kg)</th></tr> <tr><th>事項</th><th>21年度</th><th>22年度</th><th>増減率 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>一般廃棄物</td><td>228,045</td><td>223,207</td><td>△2.12%</td></tr> </tbody> </table>	ガス料	92,510	90,428	△2,082	計	552,363	521,152	(5.65%減) △31,211	廃棄物排出量 (単位: kg)				事項	21年度	22年度	増減率 (%)	一般廃棄物 (※2)	228,045	273,407	19.89%	(※2) 一般廃棄物増加の特殊要因 (単位: kg)		施設	内容	金額	奈良国立博物館	西新館耐震改修工事等に伴う増加	47,500	奈良文化財研究所	平城遷都1300年祭関連行事に伴う増加	2,700		小計	50,200	(参考) 特殊要因を考慮した廃棄物排出量 (単位: kg)		事項	21年度	22年度	増減率 (%)	一般廃棄物	228,045	223,207	△2.12%	A 順調
ガス料	92,510	90,428	△2,082																																												
計	552,363	521,152	(5.65%減) △31,211																																												
廃棄物排出量 (単位: kg)																																															
事項	21年度	22年度	増減率 (%)																																												
一般廃棄物 (※2)	228,045	273,407	19.89%																																												
(※2) 一般廃棄物増加の特殊要因 (単位: kg)																																															
施設	内容	金額																																													
奈良国立博物館	西新館耐震改修工事等に伴う増加	47,500																																													
奈良文化財研究所	平城遷都1300年祭関連行事に伴う増加	2,700																																													
	小計	50,200																																													
(参考) 特殊要因を考慮した廃棄物排出量 (単位: kg)																																															
事項	21年度	22年度	増減率 (%)																																												
一般廃棄物	228,045	223,207	△2.12%																																												
9131	<p>(3) 施設有効使用的推進 (博物館 4 施設)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講座・講演会等を開催する。 2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。 																																														
	<p>(3) 施設有効使用的推進 【東京国立博物館】</p> <p>企業等のパーティー、撮影（映画、ドラマ、雑誌等）、茶室・講堂の貸出による施設の有効利用（それに伴う収入増）を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th>平成 22 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>茶室</td><td>112 件（内 有償貸付 45 件）</td></tr> <tr><td>講堂等 (講堂、会議室、研修室)</td><td>304 件（内 有償貸付 89 件）</td></tr> <tr><td>その他 (上記以外の敷地建物)</td><td>7 件（内 有償貸付 7 件）</td></tr> <tr><td>撮影</td><td>115 件（内 有償貸付 115 件）</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>538 件 収入額 27,987 千円</td></tr> </tbody> </table> <p>入館者の拡大を目的とするコンサートとして、 「ファミリーコンサート」（8月8日 共催：東京クラリネットクワイア） 「長唄コンサート」（7月4日 共催：音楽の花束）</p>	項目	平成 22 年度	茶室	112 件（内 有償貸付 45 件）	講堂等 (講堂、会議室、研修室)	304 件（内 有償貸付 89 件）	その他 (上記以外の敷地建物)	7 件（内 有償貸付 7 件）	撮影	115 件（内 有償貸付 115 件）	合 計	538 件 収入額 27,987 千円	A 順調																																	
項目	平成 22 年度																																														
茶室	112 件（内 有償貸付 45 件）																																														
講堂等 (講堂、会議室、研修室)	304 件（内 有償貸付 89 件）																																														
その他 (上記以外の敷地建物)	7 件（内 有償貸付 7 件）																																														
撮影	115 件（内 有償貸付 115 件）																																														
合 計	538 件 収入額 27,987 千円																																														
9132	<p>「チエロとハーブのコンサート」（6月20日 共催：サロン・ド・ソネット） 等を、演芸として、 「新春東博寄席」（1月15日） など様々なイベントを実施した。 ・3月11日の東日本大震災の影響で、15件がキャンセルとなった（うち茶室4件、講堂等6件、その他2件、撮影3件）。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>今年度は庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。 なお、平常展示館建替工事に伴い一昨年度12月8日より講堂が使用できなくなったため、展覧会等に関する講演会、夏期講座及びらくご博物館は館外の施設を利用して行うこととなった。 庭園（丸池周辺） ・「雨月物語」映画鑑賞会（開催日2日 入場者317名） ・自転車発電エコライブ（開催日1日 入場者約100名） 庭園（特別展示館前） ・音燈華（開催日1日 入場者数約270名） 館外の施設を利用 ・展覧会等に関する講演会（講座回数15回 聴講者数 合計2,076名） ・夏期講座（開催日3日間 参加者205名） ・らくご博物館（年3回 入場者509名） また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行なった。</p>	A 順調																																													
9133	<p>施設有効利用件数 使用料</p> <table border="1"> <tr><td>茶室</td><td>32件（うち有償 32件）</td><td>339,500円</td></tr> <tr><td>研修室等</td><td>15件（うち有償 1件、無料14件）</td><td>4,725円</td></tr> <tr><td>その他</td><td>10件（うち有償 10件）</td><td>368,239円</td></tr> <tr><td>撮影利用</td><td>2件（うち有償 1件、無料 1件）</td><td>9,450円</td></tr> <tr><td>計</td><td>59件（うち有償 44件、無料15件）</td><td>721,914円</td></tr> </table> <p>【奈良国立博物館】</p> <p>・施設の利用 講堂：公開講座（12回、1,522人）、サンデートーク（12回、621人）、正倉院展ボランティア解説（20日間計110回）、世界遺産学習（30校、2,221人）、セクショナル・ラスマント研修会（43人）、文化財保存修理所特別公開（2回、353人） ・イベント等の実施 講堂：まほろば寄席（2回）、トークイベント（「大遣唐使展の楽しみ方」、大遣唐使展で仏像に会おう！）、シンポジウム（東アジアの造形芸術と遣唐使の時代）、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」関連イベント「金春穗高 能を語る」、「お水取り講話と粥の会」 地下回廊：「奈良生まれのブロックおもちゃで遊ぼう！」、高精細デジタル画像による「吉備大臣入唐絵巻」の全巻展示</p>	茶室	32件（うち有償 32件）	339,500円	研修室等	15件（うち有償 1件、無料14件）	4,725円	その他	10件（うち有償 10件）	368,239円	撮影利用	2件（うち有償 1件、無料 1件）	9,450円	計	59件（うち有償 44件、無料15件）	721,914円	A 順調																														
茶室	32件（うち有償 32件）	339,500円																																													
研修室等	15件（うち有償 1件、無料14件）	4,725円																																													
その他	10件（うち有償 10件）	368,239円																																													
撮影利用	2件（うち有償 1件、無料 1件）	9,450円																																													
計	59件（うち有償 44件、無料15件）	721,914円																																													

9134	<p>西新館ピロティ北側：昨年までに展示された正倉院宝物を紹介した「NHK 日曜美術館」の映像放映</p> <p>文化財保存修理所：特別公開 普段は公開していない修理所を当館研究員の解説付きで公開・会場提供</p> <p>敷地内：なら燈花会、コンサート（「秦 基博」 TALK&LIVE）、第12回バサラ祭、「全国光とあかり祭」</p> <p>講堂：いにしえの奈良八重桜再発見の集い、和歌劇「ヌカタ」公演、「なら国際映画祭2010」Roger Hsiao 監督作品「鑑真大和尚」上映、奈良市教育委員会主催教員研修講座、お水取り展鑑賞とお松明 なら瑠璃絵の会場</p> <p>地下回廊：絵画コンクール入賞作品展示、正倉院展作文コンクール入賞作品展示、（シルクロード写真パネル展示）、「奈良のうまいもの」パネル展示</p> <p>西新館ピロティ南側：正倉院展での呈茶席</p> <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展で関連する講演会を開催した。 ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。 今年利用開始した茶室のリーフレットを作成し、茶道関係者に配布を行った。 各種国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。 ガムランワークショップや、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。 <p>ミュージアムホールの利用 77件（内 有料 7件） 研修室の利用 77件（内 有料 63件） 茶室の利用 20件（内 有料 6件） その他（エントランスホール 外） 147件（内 有料 0件）</p>	A 順調								
9135	<p>（文化財研究所2施設）</p> <p>セミナー室、講堂等一般の利用の供することができる施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を図る。</p>	A 順調								
9136	<p>【東京文化財研究所】</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを毎年秋に開催。また、このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムの一つとしても企画された。 <p>【奈良文化財研究所】</p> <p>会議室、セミナー室等一般の利用に供することができる施設の有料貸付を実施し、施設の有効利用の推進を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館講堂</td> <td>183件（内 有償貸与 24件）</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡資料館小講堂</td> <td>143件（内 有償貸与 8件）</td> </tr> <tr> <td>寄宿舎施設</td> <td>1,087件（内 有償貸与 61件）</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	22年度	平城宮跡資料館講堂	183件（内 有償貸与 24件）	平城宮跡資料館小講堂	143件（内 有償貸与 8件）	寄宿舎施設	1,087件（内 有償貸与 61件）	A 順調
施設名	22年度									
平城宮跡資料館講堂	183件（内 有償貸与 24件）									
平城宮跡資料館小講堂	143件（内 有償貸与 8件）									
寄宿舎施設	1,087件（内 有償貸与 61件）									

9140	<p>(4) 民間委託の推進</p> <p>（東京国立博物館）</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設管理・運営業務を継続して外部委託 展示場における来館者対応等業務を継続して外部委託 資料館業務の一部外部委託を継続して実施 <p>（京都国立博物館）</p> <ul style="list-style-type: none"> 看視案内業務及び設備保全業務の一部外部委託 通用門の受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務の外部委託 情報システムの運用・管理・開発業務の一部外部委託 <p>（奈良国立博物館）</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物設備の運転・管理業務の外部委託 警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務の外部委託 <p>（九州国立博物館）</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物設備の運転・管理業務等の外部委託を継続して実施 警備業務、看視案内業務及び清掃業務の外部委託 <p>（東京文化財研究所・奈良文化財研究所）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間委託をさらに積極的に進める。 所の警備・清掃業務について民間委託を推進する。 来所者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。 	A 順調
9150	<p>(5) 一般競争入札の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般競争入札を推進することにより、経費の効率化を図る。 <p>(5) 一般競争入札の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> より多くの競争参加業者を募るために、公告期間をこれまでの「10日間以上」から自主的措置として20日間以上確保するように努めた。 列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。 レストラン・ミュージアムショップについて、東京国立博物館（レストラン）及び奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）において企画競争を実施した。今後も、賃貸 	A 順調

	9160	<p>借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 ・その他新たに、警備機器貸貸借及び警備業務、カラー複写機の貸貸借及び保守業務等の契約について一般競争入札を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">一般競争入札件数</th> </tr> <tr> <th>年度</th><th>21年度</th><th>22年度</th><th>増減</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td><td>202件</td><td>175件</td><td>△27件</td></tr> </tbody> </table> <p>※特殊要因：21年度単年度の補助金にかかる一般競争入札件数の減少</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補助金名称</th><th>件数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化芸術情報電子化推進費補助金</td><td>41件</td></tr> </tbody> </table> <p>(参考) 特殊要因を考慮した一般競争入札件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>21年度</th><th>22年度</th><th>増減</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td><td>161件</td><td>175件</td><td>14件</td></tr> </tbody> </table> <p>・東京国立博物館及び東京文化財研究所で施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）について民間競争入札を実施しているほか、東京国立博物館では展示場における来館者応対等業務についても民間競争入札を実施し、平成22年4月1日から民間競争入札による民間委託を実施した。</p>	一般競争入札件数				年度	21年度	22年度	増減	件数	202件	175件	△27件	補助金名称	件数	文化芸術情報電子化推進費補助金	41件	年度	21年度	22年度	増減	件数	161件	175件	14件	A	順調
一般競争入札件数																												
年度	21年度	22年度	増減																									
件数	202件	175件	△27件																									
補助金名称	件数																											
文化芸術情報電子化推進費補助金	41件																											
年度	21年度	22年度	増減																									
件数	161件	175件	14件																									
<p>(6) 定量的な目標の設定</p> <p>独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき、東京国立博物館及び東京文化財研究所の施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）については、21年度10月から、また、展示場における来館者応対等業務については、22年度4月から民間競争入札に基づく契約を実施する。</p> <p>独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき、外部資金の活用及び自己収入の増大に向けて、以下の定量的な目標の達成を目指す。</p> <p>1) 機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。</p> <p>2) 機構全体において、寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。</p> <p>1) 入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。 下表のとおり、13.38%となり、目標を上回ることができた。 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>平成20年度</th><th>平成21年度</th><th>平成22年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己収入基準額</td><td>864,089</td><td>874,112</td><td>884,252</td></tr> <tr> <td>自己収入目標額</td><td>874,112</td><td>884,252</td><td>894,510</td></tr> <tr> <td>自己収入実績額</td><td>—</td><td>949,900</td><td>1,002,524</td></tr> <tr> <td>増加率</td><td>—</td><td>8.67%</td><td>13.38%</td></tr> </tbody> </table> <p>※受託研究・受託事業を除く。 ※自己収入目標額は、前年度の目標額から1.16%増加した場合の額。 ※増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。</p> <p>2) 寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。 下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>目標値</th><th>平成22年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寄附金</td><td>226件</td><td>314件</td></tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	自己収入基準額	864,089	874,112	884,252	自己収入目標額	874,112	884,252	894,510	自己収入実績額	—	949,900	1,002,524	増加率	—	8.67%	13.38%		目標値	平成22年度	寄附金	226件	314件		
	平成20年度	平成21年度	平成22年度																									
自己収入基準額	864,089	874,112	884,252																									
自己収入目標額	874,112	884,252	894,510																									
自己収入実績額	—	949,900	1,002,524																									
増加率	—	8.67%	13.38%																									
	目標値	平成22年度																										
寄附金	226件	314件																										

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科学研究費補助金</th><th>76件</th><th>81件</th><th></th><th></th></tr> <tr> <th colspan="2">定量評価</th><th>22年度</th><th>21年度</th><th>目標値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般管理費の効率化(対前年度比%)</td><td>5.53%減</td><td>9.11%減</td><td>3.20%</td><td>S</td></tr> <tr> <td>業務経費の効率化(対前年度比%)</td><td>7.61%増 (特殊要因を考慮した場合 6.05%減)</td><td>11.04%増 (前年度からの繰越分特別展入館者増等による支出増)</td><td>1.03%</td><td>C(S)</td></tr> <tr> <td>光熱水料費の削減(対前年度比%)</td><td>4.24%減 (特殊要因を考慮した場合 5.65%減)</td><td>15.08%減 (特殊要因を考慮した場合 8.77%減)</td><td>1.03%</td><td>S(S)</td></tr> <tr> <td>一般廃棄物の削減(対前年度比%)</td><td>19.89%増 (特殊要因を考慮した場合 2.12%減)</td><td>7.86%減</td><td>1.03%</td><td>C(S)</td></tr> <tr> <td>統合による経費削減(対前年度比%)</td><td>12.58%減 (特殊要因を考慮した場合 6.48%減)</td><td>9.13%減</td><td>2.09%</td><td>S(S)</td></tr> <tr> <td>自己収入増加率</td><td>13.38%</td><td>8.67%</td><td>1.16%</td><td>S</td></tr> <tr> <td>寄附金</td><td>314件</td><td>290件</td><td>226件</td><td>A</td></tr> <tr> <td>科学研究費</td><td>81件</td><td>86件</td><td>76件</td><td>A</td></tr> </tbody> </table>	科学研究費補助金	76件	81件			定量評価		22年度	21年度	目標値	一般管理費の効率化(対前年度比%)	5.53%減	9.11%減	3.20%	S	業務経費の効率化(対前年度比%)	7.61%増 (特殊要因を考慮した場合 6.05%減)	11.04%増 (前年度からの繰越分特別展入館者増等による支出増)	1.03%	C(S)	光熱水料費の削減(対前年度比%)	4.24%減 (特殊要因を考慮した場合 5.65%減)	15.08%減 (特殊要因を考慮した場合 8.77%減)	1.03%	S(S)	一般廃棄物の削減(対前年度比%)	19.89%増 (特殊要因を考慮した場合 2.12%減)	7.86%減	1.03%	C(S)	統合による経費削減(対前年度比%)	12.58%減 (特殊要因を考慮した場合 6.48%減)	9.13%減	2.09%	S(S)	自己収入増加率	13.38%	8.67%	1.16%	S	寄附金	314件	290件	226件	A	科学研究費	81件	86件	76件	A
科学研究費補助金	76件	81件																																																	
定量評価		22年度	21年度	目標値																																															
一般管理費の効率化(対前年度比%)	5.53%減	9.11%減	3.20%	S																																															
業務経費の効率化(対前年度比%)	7.61%増 (特殊要因を考慮した場合 6.05%減)	11.04%増 (前年度からの繰越分特別展入館者増等による支出増)	1.03%	C(S)																																															
光熱水料費の削減(対前年度比%)	4.24%減 (特殊要因を考慮した場合 5.65%減)	15.08%減 (特殊要因を考慮した場合 8.77%減)	1.03%	S(S)																																															
一般廃棄物の削減(対前年度比%)	19.89%増 (特殊要因を考慮した場合 2.12%減)	7.86%減	1.03%	C(S)																																															
統合による経費削減(対前年度比%)	12.58%減 (特殊要因を考慮した場合 6.48%減)	9.13%減	2.09%	S(S)																																															
自己収入増加率	13.38%	8.67%	1.16%	S																																															
寄附金	314件	290件	226件	A																																															
科学研究費	81件	86件	76件	A																																															

2 事業評価の実施及び職員の意識改善

【中期目標】-----		【主な計画上の評価指標】 ○コンプライアンス体制（倫理行動規程の策定、第三者を入れた倫理委員会等の設置、監事による内部統制についての評価の実施）を整備すること。
【中期計画】 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。		【21年度評価における主な指摘事項】 ○今後も内部統制やコンプライアンスの実効性を高めるため、研修等の充実などにより、役職員の意識改革等に努めてほしい。
処理番号	年度計画	主な実績
9220	2 事業評価の実施及び職員の意識改善 理事長のリーダーシップのもとに、事業を推進する。 1) 自己点検評価や外部有識者による外部評価等を行い、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。	2 事業評価の実施及び職員の意識改善 ・自己点検評価、および外部有識者による外部評価等を行い、その結果を機関の事業等に反映させた。

— 55 —

	2) 各種研修・講習会を通じて、職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図るとともに、職員を外部の研修に派遣し、その資質の向上を図る。 3) 20年度に実施した業務改善コンクールのフォローアップを行う。	・東博全職員を対象とした接遇研修（23年1月）等、各種研修・講習会を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図った。 ・平成20年度運営改善コンクール採択案件のフォローアップを行った。	
--	---	---	--

3 機構が管理する情報の安全性向上

【中期目標】-----

【中期計画】3 機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。		【主な計画上の評価指標】 ○機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとること。	
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度 中期
9330	3 機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。 1) 機構の内部統制体制の整備を図る。 2) 機構が保有する知的財産権の管理体制の整備を図る。 3) 情報セキュリティポリシーを基に、機構が管理する情報の安全性向上を図る。	3 機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。 ・保有個人情報管理監査を行い、個人情報管理のより一層の適正化を図った（23年1月）。 ・情報システム点検・評価要項に基づき、奈良文化財研究所を対象に、情報システム監査を行った。（23年2月28日） ・国立文化財機構規程集の全文をPDF化し、グループウェア上で機構内全職員に公開した（22年10月）。以後、最新版へのアップデートを継続して行っている。 ・機構ウェブサイトのリニューアルとともに、サーバーのハード・ソフトを最新版に入れ替えることで、セキュリティの向上を図った。	A 順調

4 人件費の抑制

【中期目標】-----

【中期計画】4 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」（平成18年7月7日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費の抑制を図る。		【主な計画上の評価指標】 ○平成18年度からの5年間において△5%以上の人件費削減を行う。 ○また、役職員の給与に関し、国家国務院の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組むこと。

造改革に関する基「本方針2006」（平成18年7月7日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。ただし、今後の人事院勅告を踏まえた給与改定分については削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費は含まない。 その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。	【21年度評価における主な指摘事項】 ○削減の方向は評価できるが、業務の拡充を考える上で、これ以上の削減は、法人業務に大きな打撃となるため、10年先の将来を見据えた人件費の在り方の検討を望む。
--	---

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度 中期																																																		
9440	4 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」（平成18年7月7日閣議決定）を踏まえ、人件費の抑制を図る。	<p>4 人件費削減実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>17年度 (A分類 実績ベース)</th> <th>18年度</th> <th>19年度</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>22年度目標値(17年度に比して△5.00%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績(千円)</td> <td>2,878,750</td> <td>2,789,360</td> <td>2,773,688</td> <td>2,745,389</td> <td>2,688,829</td> <td>2,619,439</td> <td>2,734,812</td> </tr> <tr> <td>前年度に対する削減率</td> <td>—</td> <td>△3.11%</td> <td>△0.56%</td> <td>△1.02%</td> <td>△2.06%</td> <td>△2.58%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>17年度に対する削減率</td> <td>—</td> <td>△3.11%</td> <td>△3.65%</td> <td>△4.63%</td> <td>△6.60%</td> <td>△9.01%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>17年度に対する削減率(補正値)</td> <td>—</td> <td>△3.11%</td> <td>△4.35%</td> <td>△5.33%</td> <td>△4.90%</td> <td>△5.81%</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・人事給与統合システムが平成20年4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。 ・地域手当について、平成22年度において平成21年度の率を据え置く方針が決定された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>22年度</th> <th>21年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5年で5%の人件費削減(17年度比)</td> <td>△9.01%</td> <td>△6.60%</td> <td>22年度までに5.0%削減</td> <td>S</td> </tr> </tbody> </table>		17年度 (A分類 実績ベース)	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	22年度目標値(17年度に比して△5.00%)	実績(千円)	2,878,750	2,789,360	2,773,688	2,745,389	2,688,829	2,619,439	2,734,812	前年度に対する削減率	—	△3.11%	△0.56%	△1.02%	△2.06%	△2.58%	—	17年度に対する削減率	—	△3.11%	△3.65%	△4.63%	△6.60%	△9.01%	—	17年度に対する削減率(補正値)	—	△3.11%	△4.35%	△5.33%	△4.90%	△5.81%	—	定量評価	22年度	21年度	目標値	評定	5年で5%の人件費削減(17年度比)	△9.01%	△6.60%	22年度までに5.0%削減	S	A 順調
	17年度 (A分類 実績ベース)	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	22年度目標値(17年度に比して△5.00%)																																														
実績(千円)	2,878,750	2,789,360	2,773,688	2,745,389	2,688,829	2,619,439	2,734,812																																														
前年度に対する削減率	—	△3.11%	△0.56%	△1.02%	△2.06%	△2.58%	—																																														
17年度に対する削減率	—	△3.11%	△3.65%	△4.63%	△6.60%	△9.01%	—																																														
17年度に対する削減率(補正値)	—	△3.11%	△4.35%	△5.33%	△4.90%	△5.81%	—																																														
定量評価	22年度	21年度	目標値	評定																																																	
5年で5%の人件費削減(17年度比)	△9.01%	△6.60%	22年度までに5.0%削減	S																																																	

III 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

【中期目標】税制措置も活用した寄付金や自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。

1 自己収入の増加

税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。
また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。

2 固定的経費の節減

管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。

【中期計画】管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。

また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、税制措置も活用した寄付金などの外
部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増
加に努めることにより、計画的な収支計画による運営を図る。

【主な計画上の評価指標】

- 外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図ること。
- 適切な効率化を見込んだ予算による運営に努めること。
- 税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設利用等の財源多様化を図ること。
- 法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。
- 総利益を計上した場合には目的積立金を申請すること。

【21年度評価における主な指摘事項】

○前年度と同様、特別展における入場者数の増加が展示事業等収入の増加につながっており、実績も2期連続で増加している。今後も、良い企画を期待している。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価																									
			年度	中期																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予算</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>(単位：百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td></td> </tr> <tr> <td>　運営費交付金</td> <td>8,192</td> </tr> <tr> <td>　施設整備費補助金</td> <td>3,992</td> </tr> <tr> <td>　展示事業等収入</td> <td>1,132</td> </tr> <tr> <td>　受託収入</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>　計</td> <td>13,342</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td></td> </tr> <tr> <td>　管理経費</td> <td>1,695</td> </tr> <tr> <td>　　うち人件費</td> <td>715</td> </tr> <tr> <td>　　うち一般管理費</td> <td>980</td> </tr> </tbody> </table>	予算		区分	(単位：百万円)	収入		運営費交付金	8,192	施設整備費補助金	3,992	展示事業等収入	1,132	受託収入	26	計	13,342	支出		管理経費	1,695	うち人件費	715	うち一般管理費	980			
予算																												
区分	(単位：百万円)																											
収入																												
運営費交付金	8,192																											
施設整備費補助金	3,992																											
展示事業等収入	1,132																											
受託収入	26																											
計	13,342																											
支出																												
管理経費	1,695																											
うち人件費	715																											
うち一般管理費	980																											

	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>業務経費</td> <td>7,629</td> </tr> <tr> <td>　うち人件費</td> <td>2,450</td> </tr> <tr> <td>　うち調査研究事業費</td> <td>1,517</td> </tr> <tr> <td>　うち情報公開事業費</td> <td>155</td> </tr> <tr> <td>　うち研修事業費</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>　うち国際研究協力事業費</td> <td>303</td> </tr> <tr> <td>　うち展示出版事業費</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>　うち展覧事業費</td> <td>2,905</td> </tr> <tr> <td>　うち教育普及事業費</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>　施設整備費</td> <td>3,992</td> </tr> <tr> <td>　受託事業費</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>　計</td> <td>13,342</td> </tr> </tbody> </table>	業務経費	7,629	うち人件費	2,450	うち調査研究事業費	1,517	うち情報公開事業費	155	うち研修事業費	22	うち国際研究協力事業費	303	うち展示出版事業費	157	うち展覧事業費	2,905	うち教育普及事業費	120	施設整備費	3,992	受託事業費	26	計	13,342																							
業務経費	7,629																																															
うち人件費	2,450																																															
うち調査研究事業費	1,517																																															
うち情報公開事業費	155																																															
うち研修事業費	22																																															
うち国際研究協力事業費	303																																															
うち展示出版事業費	157																																															
うち展覧事業費	2,905																																															
うち教育普及事業費	120																																															
施設整備費	3,992																																															
受託事業費	26																																															
計	13,342																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">収支計画</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>(単位：百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用の部</td> <td>7,222</td> </tr> <tr> <td>　経常経費</td> <td>7,222</td> </tr> <tr> <td>　　管理経費</td> <td>1,298</td> </tr> <tr> <td>　　うち人件費</td> <td>715</td> </tr> <tr> <td>　　うち一般管理費</td> <td>583</td> </tr> <tr> <td>　業務経費</td> <td>5,530</td> </tr> <tr> <td>　　うち人件費</td> <td>2,450</td> </tr> <tr> <td>　　うち調査研究事業費</td> <td>902</td> </tr> <tr> <td>　　うち情報公開事業費</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>　　うち研修事業費</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>　　うち国際研究協力事業費</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>　　うち展示出版事業費</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>　　うち展覧事業費</td> <td>1,728</td> </tr> <tr> <td>　　うち教育普及事業費</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>　受託事業費</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>　減価償却費</td> <td>368</td> </tr> <tr> <td>　　</td> <td></td> </tr> <tr> <td>収益の部</td> <td>7,222</td> </tr> <tr> <td>　運営費交付金収益</td> <td>5,696</td> </tr> <tr> <td>　展示事業等の収入</td> <td>1,132</td> </tr> </tbody> </table>	収支計画		区分	(単位：百万円)	費用の部	7,222	経常経費	7,222	管理経費	1,298	うち人件費	715	うち一般管理費	583	業務経費	5,530	うち人件費	2,450	うち調査研究事業費	902	うち情報公開事業費	92	うち研修事業費	13	うち国際研究協力事業費	180	うち展示出版事業費	94	うち展覧事業費	1,728	うち教育普及事業費	71	受託事業費	26	減価償却費	368			収益の部	7,222	運営費交付金収益	5,696	展示事業等の収入	1,132			
収支計画																																																
区分	(単位：百万円)																																															
費用の部	7,222																																															
経常経費	7,222																																															
管理経費	1,298																																															
うち人件費	715																																															
うち一般管理費	583																																															
業務経費	5,530																																															
うち人件費	2,450																																															
うち調査研究事業費	902																																															
うち情報公開事業費	92																																															
うち研修事業費	13																																															
うち国際研究協力事業費	180																																															
うち展示出版事業費	94																																															
うち展覧事業費	1,728																																															
うち教育普及事業費	71																																															
受託事業費	26																																															
減価償却費	368																																															
収益の部	7,222																																															
運営費交付金収益	5,696																																															
展示事業等の収入	1,132																																															

		<table border="1"> <tr><td>受託収入</td><td>26</td></tr> <tr><td>資産見返運営費交付金戻入</td><td>269</td></tr> <tr><td>資産見返物品受贈額戻入</td><td>99</td></tr> </table>	受託収入	26	資産見返運営費交付金戻入	269	資産見返物品受贈額戻入	99			
受託収入	26										
資産見返運営費交付金戻入	269										
資産見返物品受贈額戻入	99										
資金計画											
(単位:百万円)											

区 分	金 額
資金支出	13,342
業務活動による支出	6,854
投資活動による支出	6,488
資金収入	13,342
業務活動による収入	9,350
運営費交付金による収入	8,192
展示事業等による収入	1,132
受託収入	26
投資活動による収入	3,992
施設整備費補助金による収入	3,992

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

【中期目標】		【中期計画】		【主な計画上の評価指標】	
1 人事管理(定員管理、給与管理、意識改革等)、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図ること。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。					
2 業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画を作成し、整備すること。					
【中期計画】		1 人事計画に関する計画		【主な計画上の評価指標】	
(1)方針		①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。 ②調査研究の機動的実施など研究を効率的かつ効果的に実施するため、任期付研究員制度を導入する。 ③人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るために研修機会の提供に努める。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。		【21年度評価における主な指摘事項】 ○アソシエイトフェローという新たな制度を生み出し、業務の専門性にも対応していることは、評価できる。しかし、有期雇用職員のシステムは当面は良いが、高い能力を持った人材が集まらないという指摘もある。しかし一方では人材育成に対する社会的要請もあることから、必要な人材の基盤構築のため、将来を見据えた人事シンクレーションが必要である。	
(2)人員に係る指標		常勤職員については、その職員数の抑制を図る。			
(参考1)					
1)期初の常勤職員数	367人				
2)期末の常勤職員の見込み	355人				
(参考2)中期目標期間中の人件費総額見込額	1,4,343百万円				
但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額であり、退職金、福利厚生費を含まない。					
2 別紙のとおりの施設整備に関する計画に沿った整備を推進する。					
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価		
			年度	中期	
0110	1 人事に関する計画 (1) 近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。	(1) 人事交流 〈事務系職員〉 ・本部事務局及び各施設において、文化庁、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。 ・また、文化庁には1名の出向を行っている。 ・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間(本部事務局・九州国立博物館・京都国立博物館・奈良文化財研究所間、	A	順調	

0120	(2) 各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。	<p>東京国立博物館・京都国立博物館間、東京国立博物館・東京文化財研究所間、京都国立博物館・奈良国立博物館間、東京文化財研究所・奈良文化財研究所等（9名）における交流を行っている。 〈研究系職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を13名採用した。 ・また、文化庁から8名の受け入れ及び文化庁への出向を14名を行っている。 ・機構内での人事交流を図るため、各施設間（東京国立博物館・九州国立博物館間、京都国立博物館・奈良文化財研究所間（6名））における交流を行っている。 <p>(2) 職員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修（3件）、施設系の職員を対象とした研修（1件）、接遇に関する研修（1件）及びハラスメントに関する研修（1件）を行った。 ・その他、他機関で実施する研修にも積極的に参加した。 <p>(3) 非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。</p>	A	順調
0130	(3) 非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。	<p>・平成19年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行い、平成20年度に施設の維持管理を行う職員を新たに適用範囲とした。</p> <p>・平成22年度においては労務職員（衛士）を東京国立博物館で3名、技術職員（写真技士）を奈良文化財研究所で1名採用した。（計4名）</p> <p>・平成22年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度（アソシエイト・フェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成22年度は本部で1名、東京国立博物館で6名、奈良国立博物館で1名、九州国立博物館で2名、東京文化財研究所で1名及び奈良文化財研究所で6名を採用した。（計17名）</p>	A	順調

2 施設・設備に関する計画

施設・設備に関する計画

(単位：百万円)

施設・整備の内容	予定額	財 源
京都国立博物館 平常展示館建替工事 (19年度～24年度)	3,992	施設整備費補助金

	京都国立博物館 平常展示館建替工事 (19年度～24年度)	3,992	施設整備費補助金	